



平成26年度 学社融合実践集録



平成27年 3月

田辺市教育委員会

はじめに

「楽しみは 学社融合 丹生の川 清き流れに 昔を語る」

今から27年前の平成元年に閉校となった丹生の川小学校に子どもたちを届け、丹生の川地域で行った『23年目の授業参観』。その授業で詠まれた地域の方の一首です。

雨の中、学校にぞくぞくと集まる地域の方や元先生方。みんな笑顔いっぱい、どれほどこの日を心待ちにしていたかが窺われます。

田辺市では、「学社融合の推進」と「基礎基本の徹底」を、学校教育推進の二本柱として掲げ、田辺市教育行政基本方針の最重点項目にするとともに、各地区の公民館と連携しながら、地域の教育資源・人材を活用し、様々な取組を進めてきております。

今年度より共育コミュニティ本部事業を新たに2地域（中芳養地域・大塔地域）に指定し、保育所・幼稚園・小学校・中学校と複数の教育機関が一緒になり、地域全体で取り組みを進めているところであります。

また、平成26年11月9日（日）の上山路小学校と龍神公民館の学社融合指定研究発表会では、地域学習を進めることにより、児童や教師が地域の文化や資源への理解を深め、より具体的に地域を自慢できるようになるとともに、地域に住む人を誇りに思えるようになってきています。さらに、地域全体で子どもたちを育てていこうとする気運が高まってきています。

このように、学社融合を推進することで地域が一つにまとまり、「次はどんなことをしようか。」「来年まで元気でいなければ。」と、地域に活気を呼び起こしています。

冒頭にも紹介しましたが、田辺市の学社融合は、内容も年々充実し、地域の特色を活かした取組として発展しています。そして、このことは、学校側にだけメリットを得るものではなく、授業に参画し協働して取組んでくださるボランティアの方々に、子どもを共に育てようとする主体意識を喚起しながらメリットを共有し、連帯の輪を広げ、地域の活性化に寄与していると考えています。

今後も、全ての園・学校での学社融合の推進を公民館と連携して進め、教育活動の充実と地域の活性化に努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、お忙しい中、ご講評頂きました越田幸洋先生に心よりお礼申し上げますと共に、本冊子（実践集録）が有効に活用され、田辺市の学社融合の実践が更に前進することを期待しています。

平成27年3月

田辺市教育委員会 教育長 中村 久仁生

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
新庄小学校	11
新庄第二小学校	13
稲成小学校	15
田辺東部小学校	17
会津小学校	19
上芳養小学校	21
中芳養小学校	23
上秋津小学校	25
秋津川小学校	27
三栖小学校	29
長野小学校	31
伏菟野小学校	33
咲楽小学校	35
中山路小学校	37
上山路小学校	39
龍神小学校	41
中辺路小学校	43
近野小学校	45
鮎川小学校	47
三川小学校	49
富里小学校	51
本宮小学校	53
三里小学校	55

[中学校]

東陽中学校	57
明洋中学校	59
高雄中学校	61
新庄中学校	63
上芳養中学校	65
中芳養中学校	67
上秋津中学校	69
秋津川中学校	71
衣笠中学校	73
龍神中学校	75
中辺路中学校	77
近野中学校	79
大塔中学校	81
本宮中学校	83

[幼稚園]

新庄幼稚園	85
三栖幼稚園	87
上秋津幼稚園	89
中芳養幼稚園	91

[講評]93

(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)

平成26年度

学社融合 実践集録

学社融合活動実施報告

学校名		田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校の校区は、城下町の名残が豊かで、その地名や産業などがそれを示している歴史と伝統にあふれる地域である。田辺市の中心として商店街が栄え、現在も商店の再生・活性化をはかる人々が様々な取り組みを進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。さらに、平成21年度から3年間、「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んできた実績を生かすことができる。</p>				
活動名		クラブ活動	学年・教科・領域等	特別活動 第4学年～第6学年
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とふれあいながら、活動を通して伝統芸能や文化に触れることができる。 ・より専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を培い、自主的・実践的な態度を育てる。 ・学年や学級を超え、地域の方々や仲間との活動を通して、望ましい人間関係を築くことができる。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子どもたちとの交流の中で、互いが学びあっていることを自覚し、子どもと大人の双方向性のあるつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子どもに地域の一員である自覚を持たせる。また、一人ひとりが尊重されていることに気付かせ、他人も尊重すべき存在であることに気付かせる。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>地域より得意分野を持っておられる方をゲストティーチャーとして招聘する。</p> <p>長尾静枝 中谷公子 小岡昭雄 谷川教一 前田造 竹内マツ子 古谷真由美 石原真紀男 那須満喜子 瀬田幸次郎 深見昌子 澤井民子（順不同、敬称略） その他、各関係の団体、地域住民の参加</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>				
日時	活動名・活動内容	ねらい、活動の様子など		
年間10回 (月1回～2回の実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ数12種目の中から児童たちが希望するそれぞれのクラブで活動を行う。 ・今年度は、 ・地域の歴史について学ぶ、歴史クラブを新設 ・紀州てまりクラブでは国体てまりを作成 ・琴クラブに地域の大人が多数参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ発表会に向けて各クラブで練習を行う。 ・ゲストティーチャーの指導の下、技能習得に向け積極的に練習する姿が見られた。 ・歴史クラブでは校外へ出てフィールドワークを行い、地域住民とふれあい、学ぶことができた。 		
11月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民の方々とスポーツクラブに所属する児童がグランドゴルフを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と交流し、アドバイスをもらいながらコースを回った。地域の方々も児童も楽しそうな姿が見られた。 		
11月15日 11月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも地域作品展にて、クラブ活動で制作した児童の作品展示や茶道クラブによるお茶席を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動で制作した作品を披露する場となり、活動を知って頂く良い機会となった。生け花クラブ・紀州てまりクラブ・イラストクラブの作品展示、和室では、茶道クラブが習得したお茶の作法を生かし、お客様をもてなした。 		
2月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ発表会の実施。次年度のクラブ選択に向け活動の紹介を行う機会と、1年間のおまとめ発表として成果を披露する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラブが活動内容の紹介を行い、習得したことを披露する。人前で自己を表現する機会を持つことで、伝える力を育むことができる。発表に向け各クラブで取り組みが進んでいる。 		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>紀州てまりクラブによる 国体てまりの制作</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地域作品展にて 茶道クラブがお茶席を開催</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>歴史クラブによる フィールドワーク</p> </div> </div>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> 得意分野を持たれている地域の方々の参加によって、様々な体験活動ができる機会が増えた。 家庭、学校という限られた範囲だけでなく、地域との連携によって、教育力の向上が図れた。 活動を通じて、学校の様子を知ってもらい、学校行事やその他の教科での取り組みに対して、関心をもち、協力して頂く機会が生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続した体験活動ができるよう地域の指導者の確保が必要である。 児童の興味・関心を追求する活動が行えるよう、今後もクラブ構成や地域の特性を考慮した活動、活動の具体的な計画の検討が必要である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> より専門的な知識や技能を持たれた方々にご指導、アドバイスを頂くことで、技能の習得や上達がみられた。 身近な地域の人との関わりから、地域に対する愛着を持つ機会が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回のクラブ活動で、前時の学習内容を忘れてしまう様子も見受けられる。クラブによっては学習したことを発展させた練習、指導となるので、積み上がっていきけるような手立てを行う。 大人の方々と、接し方、言葉遣いが適切にできるよう、日頃の学校生活からも取り組ませる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> 本校職員以外の大人から教わることで、地域と自分たちの関わりについて意識するようになり、郷土愛を育むことができた。 学びに対する意欲や向上心を育むことができた。 大人に対する言葉づかいなどの、礼儀を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業と同じように、集中力を保ちながら学習に取り組ませる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通じて、地域に活気が生まれた。 学校と地域が連携した活動を継続してきた結果、学校(授業)及び公民館(事業)に対する理解が深まった。 地域住民に学社融合事業に参加する喜びが生まれた。 地域住民に学びに対する意欲が生まれ、クラブ活動に学習者として参加してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は、授業参加の呼びかけを実施すると、多くの地域住民が集まってくれるが、地域の高齢化が進んでいることから、新たな指導者及び参加者の確保についても検討しなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

- ご指導頂ける先生方の熱心な指導と様々な工夫のおかげで、子ども達はクラブ活動を楽しみにしている。
- 茶道、生け花、紀州てまり、琴、尺八、和太鼓、将棋、囲碁などのクラブは、普段馴染みのない体験であり、日本の伝統文化に触れる貴重な機会となっている。
- 地域住民と交流する中で、大人との接し方を学ぶことができた。
- 今年度から新たに設けた歴史クラブでは、地域の歴史について学び、身につけた知識をより確かなものにするため、地域の方々のご協力の下、フィールドワークを行った。継承されてきたものや町並み、背景を改めて実感したり、地域の方々とふれあうことでより効果的な学びにつながった。また、学習した事や実際に見てきたものを多くの人と共有するため、道分け石など現物と同じ大きさで制作している。
- 琴クラブでは、地域の大人の方が多数参加しており、賑やかな活動となっている。児童たちと一緒に練習を行い、発表会に向けて児童も大人の方々も目標をもって活動に取り組んでいる。

○次年度に向けての取り組みの方向

- 児童たちの体験活動の充実に向け、引き続き地域の方々と共に学びを深められるよう、つながりを保っていきたい。
- 年度初めに、学校と公民館で事業を計画的に進められるよう話し合う。
- 指導頂けるゲストティーチャーの方々とは可能な限り連絡を取り合い、取り組みを進めていく。

学社融合活動実施報告

学校名	田辺第二小学校	公民館名	東部公民館・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある公民館二館との連携を図りながら学社融合の取組を進めてきている。</p> <p>従来より、第2土曜日に実施の「公民館いけばな子ども教室」への参加、公民館主催文化展示会への作品出品、幼・保・小・中・専門学校及び地域との地震津波避難合同訓練の実施などに取り組んできた。加えて本年度は、6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習に取り組んだ。その後、現地報告会を開催し、学習成果を保護者やお世話になった地域の方々を紹介した。</p>			
活動名	再発見！ふるさと「たなべ」ウォッチング	学年・教科・領域等	6年 トライタイム (総合的な学習の時間)
目標	学校	児童は自分たちが住む地域のことを案外知らないものである。地域の方々と交流を深め、いろいろなことを教えていただくことから、自分たちが住む地域の良さを知り、愛着をもつ児童を育てていきたい。また、国語科の学習内容も生かし、地域の方との交流や学習の内容を発信することから、自分の考えや伝えたいことが明確に伝えられる児童を育てたい。	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。 地域の良さを伝えることによって、子どもたちとの交流を楽しむとともに、子どもたちに地域の良さを伝えることで、自分たちも再度地域について見直す機会とする。 	
支援者及び支援組織			
田辺第二小学校 東部公民館 南部公民館 田辺市教育委員会文化振興課 たなべる(歴史民俗資料館) 闘雞神社 神楽神社 覚照寺 地域にお住まいの方々			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
月日	活動名	活動内容	
10月24日	オリエンテーション	地域の方々のかもお借りしながら、地域の歴史について学習することを知る。	
11月6日	調査活動準備	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の中で学習をする場所を決めた後、班編成をし、以下の点について取り組む。 ・学習を進めるための資料類を用意する。 ・インターネットで学習する場所を検索する。 ・インタビューをする方を人選する。 	
11月7日	調べ学習	コンピュータ、書物等の資料を利用し、訪問先について調べる。DVDを視聴する。	
11月8日	パンフレット作り・原稿作り	調べたことを元にパンフレットに整理したり、発表原稿をまとめたりし始める。	
11月20・21日	現地学習 闘雞神社 神楽神社 覚照寺 市立図書館 砥石山跡 引き揚げ港跡 岩陰遺跡 他	公民館主事がコーディネートし、グループに分かれて現地学習を行う。それぞれの場所では、地域の方々や市役所文化振興課職員等が説明を行う。児童は課題に応じて質問する。	
12月3日 ～12月12日	パンフレット作り・原稿作り	現地学習で学んだことをグループ内で共通理解した後、パンフレットや発表原稿の手直しをし、発表の準備をする。	
12月18日	お礼状を書く 12月24日:お礼状を届ける	現地学習の際に教えていただいた地域の方々や市職員の方にお礼の手紙を書く。パンフレットと共にお届けする。	
1月14日 1月19日 1月20日	発表準備 クラス交流会 学年発表(現地確認会)	保護者に現地学習をした場所についてアンケートを実施するとともに、説明会への参加を呼びかける。各学級、学年で発表を聞き合う。	
1月23日	現地報告会(語り部活動)	地域の方や保護者に学習したことを報告する。	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校職員だけでは教えることができない地域の歴史を、地域の方を中心にして教えていただくことができた。教員にとっても初めて知ったことが多かった。 ・地域の文化遺産に対する地域の思いを知ることができた。 ・国語科等で身につけた力を活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り掛かる前に、長期的な展望を持ち、さらに綿密な計画を立てることが必要であった。 ・調査に時間がかかるため、学習時間の確保に苦労した。 ・教員も地域の歴史に詳しくないため、資料の収集に苦労した。さらに地域の歴史について教員の研修を深めることが必要である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流の中で、目上の方に対してきちんと話そうとする姿勢が見られた。 ・地域の生きた歴史教材に目を向けることができたことで、郷土を誇りに思う気持ちが芽生えてきたように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集できた資料の内容が難しく、児童だけで読み込むのは困難なことが多かった。 ・瑣末なことに気をとられ、地域の歴史の重みや人々の願いに目を向けにくい児童もいた。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々、市職員に対し、感謝の気持ちを持つことができた。 ・お世話になることが中心となるが、地域と連携することの大切さや必要性を理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流は必要になってから慌てて取り組むのではなく、普段から進めておくことが必要である。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の方との間の橋渡しとしての役割を十分に果たすことができた。双方のスケジュールの調整や学習内容の確認等を積極的に進めることができた。 ・6年生児童と交流を深めることができたことは地域にとっても大きな喜びであった。 ・学習したことを発信することで、地域にお住まいの方にもふるさとの歴史について知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との関わり方や話し方を工夫することが必要である。 興味や関心の持たせ方 話すスピード 言葉の選び方 等々 ・情報提供者との打ち合わせをもう少し綿密にする必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・今まで教員も児童も知らなかった(気がついていなかった)地域教材を発掘することができた。何気なく通り過ぎていく地域の風景の中にある歴史的な場所や史跡に気づくことができたことは大変有意義であった。
- ・今年度の語り部活動の対象は保護者中心であったが、次年度以降、地域全体を対象を広げていくようにしたい。
- ・次年度以降、今年以上に綿密な計画を立て、さらに詳しい形で教育計画上に位置づけるようにしていくようにしたい。
- ・学習に取り掛かる前の段階から、広く地域に呼びかけて情報提供者を求めていくようにしたい。



学社融合活動実施報告

学校名	田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
-----	---------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 ○本校は、西部公民館、西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童をいかに育成していくかは本校にとっての大きな課題である。そのため、地域を知る取り組みとして、地域に出かけたり、体験的な活動を通して積極的な地域との交流を図るようにしてきた。
 ○本校は、これまで地域とともに同和教育、人権教育に取り組む中で、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで連携し進めてきた。西部公民館とは、公民館と学校を結ぶ事業や取り組みについて協議し、特に西部公民館主催で本校での「西部公民館・明洋中学校作品展コーナー」を実施してきた。

活動名	西部地域学社融合推進協議会	学年・教科・領域等	各学年・国語科・算数科・生活科 ・総合的な学習の時間・特別活動
-----	---------------	-----------	------------------------------------

目標	学校	①子どもの教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合(生涯学習)を推進し、更に充実する。
	公民館(地域)	①本年度から地域主導型の学社融合事業に移行していく。 ②地域の子どもは、地域の中で育てていく意識を更に高めていく。 ③学社融合事業をもっと地域に浸透させていく。

支援者及び支援組織
 西部公民館および西部地域自主防災協議会・各地区の町内会

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)
 4月 4年 天神崎クリーン作戦(25日)
 5月 3年 町探検(12日)
 6月 2年 町探検(5日)、
 5年 西部花いっぱい運動・土作り(12日)英語学習(27日)、6年 ミシンエコバック作り(25日・26日)
 7月 4年 俳句をつくろう(8日)、5年 西部花いっぱい運動・花植え(4日)、5年・6年 英語学習(8日・15日)
 9月 2年 月見団子作り(9日)、4年 天神崎クリーン作戦(西部老人クラブと合同)(20日)
 10月 1年 かたかな教室(8~11日)、3年 昔のくらし(21日)
 4年 俳句を作ろう(11日)、
 6年 ミシンリフォーム(8日・10日)、タウンウォッチング(30日)
 11月 5年 西部花いっぱい運動(8日)、天神崎学習・日和山観察(18日)、4年・5年、グランドゴルフ大会(11日)
 5・6年 クラブ活動 学校開放週間(10日~15日)
 12月 5・6年 クラブ活動
 1月 2年 七草がゆ作り、5年 ミシンぞうきん作り、6年 防災学習発表会
 2月 4年 俳句をつくろう、5年 英語学習、6年 英語学習、外国の文化にふれよう

(2014年)西部地域学社融合推進協議会の事業との取り組みの様子

			
1年 楽しくカタカナ学習	2年 おいしい月見だんご作り	3年 町探検	メルヘンさん(読み聞かせ)
			
4年 俳句を作ろう	5年 花いっぱい運動の取り組み	6年 エコバッグ作り	4年 天神崎の清掃

	成 果	課 題
学 校	地域の方の支援がある授業展開を行うことで専門的な知識(俳句・ミシン等)を身に付けることができた。また経験からアドバイスいただくことで学習活動を広げ、深めることができた。また、教師が児童の実態に即した適切な指導を行うことができ、学習効果が上がった。家庭での学年別の学習の仕方を「家庭学習の手引き」として提示し、また、基本的な生活習慣の見直しに向けた「田三小 BOOK はなまるデー(ノーゲーム、ノーテレビの日:毎月13日実施)」の取組も定着し、各家庭に基本的な生活習慣を意識付ける手立てとしても良い効果が出てきている。	西部地域学社融合推進協議会との連携および、マンパワ(地域コーディネーター・学習ボランティア:OK先生)の拡大と連携を図り、各事業の充実と今後を見据えた事業展開を行うことが大切である。また、西部地域学社融合推進協議会の今後の目ざす方向性を確立させる必要がある。
* 子どもにとって	地域の人材を活用した授業で専門的な知識に触れることにより、学習が深まり、児童の学習意欲に繋げることができた。また、学習支援ボランティア(OK先生)の励ましや賞賛の言葉掛けで学習する喜びを味わい、地域の方と触れ合う良さを感じることができた。また、感謝する心を持つことの大切さが分かった。	「子どもの教育をよりよいものとする」ために、学習の楽しさや知識の習得、学習意欲の向上を図り、地域の課題となる学習(防災学習・環境学習等)とふるさとを愛する心、「生きる力」の育みと学社融合の更なる充実を図る必要がある。
* 子どもにとって	当事業を実施することで、地域の人を知ることができ、また、地域の良さや人の温かさを感じることができた。	これらの活動を通して、自分自身が感じたこと、体験したことを大きな糧として、様々な場面で生かすことができればと思う。
地 域 (公民館)	昨年度の学社融合活動実施報告の地域(公民館)の課題に2名のコーディネーターの増員により、更なる発展を目指していくと記述していましたが、本年度から地域コーディネーター自らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している。	学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進み、何らかの手立てを講じていかなければならない時期である。新たに加わった地域コーディネーターのネットワークを当事業に取り込みながら、地域の幅広い年齢層の方々や人材発掘に力を注いでいかなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○多くの学習ボランティアの方々が来校してくださることにより、児童と教師だけの授業形態では得られない知識を身に付けさせることができた。また、児童全員の活動に十分目が行き届き、どの児童も満足のいく活動を味わうことができた。公民館便りや学校便り等で取り組みの様子や事業の報告をすることで、町内会や老人会、各種団体等地域全体へ伝わり、関係団体や学習ボランティアの方々に理解を得られ、協力をしていただけるようになってきたと考えられる。

また、学習ボランティアの方々が授業に協力していただく機会が、回を重ねるごとに要領がよく分かるようになってきた。その結果、指導方法にもより効果が見られるようになってきている。授業を通しての会話や触れ合いの中から温かな人間関係が築けるようになってきた。学校便りや育成会広報誌などを活用し、学校や児童の様子を広く地域の方に知らせていき、また、運動会には地域のお年寄りを招待し、交流種目を通して親睦を深めるような取り組みを進めてきた。

その結果、交流した喜びの気持ちを伝えてくれるようになってきたり、児童も楽しんで活動することができてきている。お年寄りを大切にすることも育ってきている。サークルの方との協働で定期的に読み聞かせ活動を行うことにより、今まで以上に本に親しみ、読み聞かせに興味を持つことができるようになった児童もいる。

学社融合活動実施報告

学校名	芳養小学校	公民館名	芳養公民館
-----	-------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 ・芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を基盤として「子どもの安全・安心に関すること」「地域の伝統文化の継承」「公民館との連携した取り組み」など、学校・保護者・地域・公民館が一体となった子どもの健全育成を図るとともに、学社融合の取り組みを進めている。地域の教育力を生かしたさまざまな授業にも、地域の方々がSP(スクールパートナー)として参画し、担任とともに授業を作り上げている。また、平成19年から実行委員会を立ち上げスタートした「芳養ふれあい教室」では、芳養地域人材バンク登録者を中心に、多くの地域の方々が主体的に教室運営を行っている。講師も協力者も完全無償のボランティアであり、今年で8年目になる。どの教室についても、みんな「生きがい」や「やりがい」を感じながら積極的に取り組みを進めている。

活動名	芳養ふれあい教室と地域住民と公民館	学年・教科・領域等	全学年の希望者と地域住民
-----	-------------------	-----------	--------------

目 標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、青少年の健全育成を目指す。 ・児童が保護者や地域の方々と触れ合うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・公民館の事務局と連携を図り、芳養ふれあい教室の充実を図る。
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと交流することで、講師・協力者のいきがい、やりがいにつなげる。 ・学校に地域の人が気軽に出入りすることで、地域と学校の垣根をなくす。

支援者及び支援組織
 ・芳養ふれあい教室実行委員会(学校・公民館・児童センター・育友会・ボランティア代表)
 ・芳養ふれあい教室講師(地域・保護者のボランティ)

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)
 ・学社融合を推進させるために公民館と学校が中心に結成した「芳養ふれあい教室実行委員会」を基盤に、学校側が放課後に多目的教室や体育館などを開放し、教室運営をする講師や協力者が茶道や書道などの教室を開催している。全員がボランティアとして参加している。今年で8年目、研究指定から5年であり、38名体制で取り組んでいる。継続の要因は、公民館の事務局がコーディネーターとして地域住民と学校と教育委員会と連絡を取った。また、講師・協力者全員がボランティアとして活動した。そして、学校と公民館が両輪として機能した。現在の教室は、9教室である。

年度	人数	ふれあい教室への登録
19年	24名	講師 6名 協力者 9名
20年	30名	講師10名 協力者14名
21年	34名	講師 8名 協力者17名
22年	39名	講師 8名 協力者18名
23年	39名	講師 9名 協力者17名
24年	38名	講師14名 協力者14名
25年	39名	講師12名 協力者18名
26年	38名	講師11名 協力者19名

年 度	延べ人数	児童数
平成19年	113名	344名
20年	175名	344名
21年	289名	336名
22年	234名	325名
23年	380名	332名
24年	543名	334名
25年	557名	324名
26年	539名	297名





	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々が気楽に学校に入りやすくなり、学校と地域の垣根がなくなった。 ・芳養ふれあい教室実行委員会で企画運営し、講師と協力者によって主体的に教室を運営している。 ・講師・協力者の人数は、当初に比べて、2倍に増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教室の講師や協力者は、全員ボランティアとして活動している。平成19年度の講師は6名、協力者は9名、26年度は講師11名、協力者19名、講師・協力者ともに2倍に増えている。ボランティアを担っている方々が固定化してきており、学校と公民館の課題である。 ・講師や協力者にたいして子どもたち(児童会)から感謝の気持ちを伝えることが大切である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・生け花、茶道、書道、読み聞かせ、囲碁、中国語、英語、キンボール、フェルトの9教室から選べて、時間さえ重複しなければいくつも教室を選らべる。楽しんでいる。 ・参加人数は、約550名(のべ人数)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月「ふれあいだより」で教室の予定表を配布したり、掲示物で実施日を知らせているが、ふれあい教室の実施日をたびたび忘れることもあった。 ・貴重な体験ができる喜びや教えてくれる人に対する感謝の気持ちをよりいっそう高めたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後に学校で実施することで、学童以外での居場所作りにもなり、子どもたちにとっても保護者にとっても安心・安全な場ができる。 ・8年続けることで、学校外でのつながりが強くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがどういったことを学びたいのかアンケートなどを取る必要がある。 ・学校外で、地域の人への挨拶などが、出来ているとは言いがたいので、今後も様々な方法で交流を深めていくことが必要。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の目的どおり、子どもたちとふれあうことで生きがいや、やりがいを持つことが出来た。 ・継続して行われているので、学校との垣根がなくなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続してきているので、講師・協力者を増やし、さらに継続できるようにしなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・子どもたちは、茶道や生け花、書道などの日本の伝統文化を継続して学ぶことによって、礼儀や作法など技能を身につけ、伝統文化の素晴らしさを学ぶことができた。
- ・芳養ふれあい教室で学んでいる子どもたちに、講師先生達に対してお礼の言葉を書かせて、講師先生達に渡した。ふれあい教室で教えている先生たちは、子どものお礼文を読んでたいへん喜んでいた。
- ・芳養ふれあい教室の講師や協力者による主体的な教室運営が定着し、教室の内容が充実してきた。
- ・ボランティアを担っている方々が固定化してきており、今後の課題である。地域の人々に声かけをしていく。



学社融合活動実施報告

学校名		大坊小学校	公民館名	芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 校区は大坊区と団栗区の二つの地域からなるが、児童数の減少で団栗地区の児童は今年の6年生を最後に、当分なくなる。それに反し、老人会の人数は増えているが、会長さんの話によれば、動ける人はそう多くないとの事である。しかし、毎年、白楽会の皆さんは、学校で注連縄作りを教えることを当然のこととして活動してくれている。注連縄の飾りつけの日は、みかん産地としては大変忙しい時期であるが、うらじろ等の採集にも快く応じてくれる。 注連縄作りだけでなく、9月に行なう学習発表会にも参観してくれる人が多くなり、「自分の家の子が卒業したから学校には行きにくい」という雰囲気が、徐々に薄くなってきているように感じる。おかげで児童とも顔見知りの方が多くなり、校外でも声をかけていただくことが多く子どもたちも喜んでいる。					
活動名		ふるさと学習「しめなわを作ろう」	学年・教科・領域等	全校 生活科・総合的な学習の時間	
目 標	学 校	・しめなわ作りをすることにより、地域に伝わる習わしを知ると共に作り方を身につけ、人々の知恵を学ぶ。			
	公民館（地域）	・地域の伝統行事を児童たちに教えることで、教える者も学び直し、伝統を絶やさずに引き継いでいく。 ・地域と学校のつながりを、より一層強くする。			
支援者及び支援組織 白楽会(大坊老人クラブ) 大坊小学校育友会					
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 関係者会議等について 5月23日(金) 校区協議会の後、白楽会の方と本年度の学校の取り組みについてご理解いただく。 打ち合わせ① ふるさと学習での協力をお願いし、時期の確認をする。 11月18日(火) 白楽会 会長さんと当日の内容について打ち合わせをする。 打ち合わせ② 白楽会の中で参加者集め 材料準備 11月27日(木) ふるさと学習「しめなわ作り①縄ない」授業実施・反省会 授業① 出来上がった注連縄を見せてもらい各分品の意味や今と昔の飾り方の違い等について話を聞く。 学年別に目標を決め、縄ないをする。 縦割り班で高学年は低学年の手助けをし、班での作業をリードする。敬老会の方には2、3人ずつ、各班に入って指導していただく。 12月23日(火) 白楽会役員によるしめなわ飾り物(モッコク・ユズリハ・ウラジロ・本みかん)採集 準備作業 七・五・三のたれ用のわら作成 12月24日(水)ふるさと学習「しめなわ作り②飾り付け」授業実施 授業② 白楽会の方に飾り部品の付け方の説明を聞く。 縦割り班で高学年を中心にして飾りをつける。 各家庭でお正月かざりに使用する。					
					

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・白楽会と学校のつながりを保つ良い取り組みとなっていて、会長さんが交代しても引き継がれているので大変取り組みやすい。 ・低学年児童には難しい作業であるが、毎年繰り返すことで出来るようになっていき、子どもは自信になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・白楽会の方との打ち合わせで、活動中に使ってほしい言葉などをお伝えして、各グループでの指導がうまくいくように気をつけているが、もっと子どもから教えて欲しいことが気軽に言えるよう指導しておく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年取り組むことで、高学年は縄がなえるようになってきている。 ・地域のお年寄りと顔見知りになり、校外でも声をかけてもらうことが多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の習わしを教わっても、各家庭で生かされない部分がある。 ・手助けして欲しいことを自分の言葉で言えるようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事を教えてもらうことで、地域活動への感心が高まった。 ・子どもたちのおじいちゃんより年上の方々との交流をすることができ、新たなつながりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭でしめ縄を作る風習がなくなってきている。しかし、このような伝統を知ることも大事であるため、今後も様々なものとふれあっていく必要がある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに教えることで地域の伝統を次へつないでいく活動になった。 ・毎年取り組むことで、学校と地域との垣根が年々取り払われてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域のつながりをより一層深めるために、このふるさと学習以外での交流もしていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・学年が上がり、初めて自分の力で縄をなうことが出来たとうれしそうに語る児童がいた。低学年児童にとっては難しい作業ではあるが、だんだんと上手に出来る自分を実感させることができた。
- ・これまでは、高学年児童も教えてもらうばかりであったが、次年度からは高学年児童がこれまで教えてもらったことを下の学年に語るような場面も設定していきたい。
- ・子ども達は、作ることに集中し、材料集めも手間がかかる事であるとは気が付いていない。また、どの地域でも簡単に手に入る物と思っている児童もいる。来年度は材料採取についても関心をもちそこに人々の知恵があることにも気付くよう働きかけていく。
- ・年度初めに、白楽会の方と打ち合わせを行い、ふるさと学習の内容を説明し協力をお願いする。
- ・白楽会と学校、児童が良い関係作りができるよう、ふるさと学習以外での交流も深めていく。また、児童の地域貢献についても、ご意見をいただき活動の幅を広げていきたい。



11月27日縄をなう



12月24日飾りをつけて仕上げ

学校名		新庄小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>新庄小学校では、地域と連携し、地域を知り、地域で学び、地域を愛する児童を育成することを目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。</p> <p>新庄地域は、県指定無形民族文化財祇園祭の夜見世「ぎおんさん」を始めとする伝統的な行事も多く、地域や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。</p> <p>また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしている。また、年に一度合同研修会を開催し、当番校が公開授業を行い全職員が共に研修をしている。</p>				
活動名		農業体験学習	学年・教科・領域等 1・2年生活科 3・4年社会科,学級活動 5・6年社会科,総合的な学習の時間,学級活動	
目標	学校	農業の栽培収穫体験活動を通して、地域の様子を知ると共に、心豊かな子どもを育てる。		
	公民館（地域）	農業体験を通して、地域の方々と交流を促し、併せて地域の特色を学習し、地元の文化について学んでもらう。		
支援者及び支援組織				
地域の方々 JA紀南新庄支所				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>1～3年 野菜作り</p> <p>[野菜や花を植え栽培収穫することにより、いろいろな種類の植物を育てることができることを知り、大切に世話をする経験を通して、豊かな心を育てる]5月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習園に種や苗を植える。 ・分担を決め世話をする。 ・育てた体験を話し合ったり、発表したりする。 ・収穫し、調理したり家庭に持ち帰ったりする。 				
<p>1～6年 さつまいも作り</p> <p>[学習園でさつまいもを育て、栽培の苦労と収穫の喜びを体験する]5月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕耘、畝づくり、マルチがけを地域の方に手伝ってもらい、全校児童がさつまいもの苗を植える。 ・分担を決め、水やり草ひき等の世話をする。 ・さつまいもを収穫し、調理して食べたり家庭に持ち帰ったりする。 				
<p>4年 みかん</p> <p>[みかんの収穫をし農家の人の話を聞き、農業の様子を知り地域の特産物について理解を深める]11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みかん栽培のことを学習する。 ・地域の方に畑を提供してもらい、みかんの収穫体験をする。 ・農家の人やJA指導員から話を聞き、みかん栽培のことを学習する。 ・体験や学習を振り返りまとめ深め合う。 				
<p>5年 梅</p> <p>[梅の収穫加工を体験することにより、自然の恵み、農業の苦労や喜び、地元の産業の様子を知り、自分が生活する地域の理解を深める]6月～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅を中心とした農業の様子について学習する。 ・地域の方に畑を提供してもらい、梅の収穫を体験する。 ・梅をジュースや梅干しに加工する。 ・ジュースを試飲したり、家に持ち帰り家庭での話題にする。 ・梅の加工場や物品販売所を見学する。 ・体験をまとめ発表し、交流する。 				



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・教室だけでは教えられないことを学ばせることができた。 ・地域の方に依頼したり共に活動したりする中で、地域の人々との距離が近くなってきた。 ・学校や子どものことを知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が直接地域の役に立つようなものや学校の教育力を地域に生かすことのできるような活動を増やしていく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな農業体験を通して知識や経験が広がり、自然のことや農業のことを学習し、考えることができた。 ・地域へ出向き、地域の人に教えてもらうことにより、地域のことを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は意欲的に活動しているが、積極的になれない児童も見られる。しかし、そのような児童にこそ必要な活動である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域のことを知ることができ、地域の方と触れ合いの場がもてたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習の内容に工夫を加え、子どもたちがもっと満足できるような内容にしていくことが大切である。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと地域の方々が触れ合うことで、地域の活性化に繋がったのではないかと。 ・子どもたちと作業することにより楽しく出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には農業以外にも、地域のこと知ることの出来るものがたくさんある。今後も子どもたちに学ばせたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

- ・農作物の様子や作業から栽培の苦労と収穫の喜びを体験させることができた。
- ・分担を決め世話をすることから、役割の大切さを体験させることができた。
- ・農業の学習や体験をすることにより、地元の農業の様子を知り、地域への理解を深めることができた。
- ・栽培は長期にわたるため、興味を持続させることが難しい。
- ・協力してくれた地域の方は、積極的に関わってくれている。

次年度に向けて

- ・今後取り入れたい学習内容もあるが、現在も充実した取り組みが多いので内容をよく吟味し精選していきたい。
- ・学校の特長を生かして児童や学校が地域の役に立つような活動を取り入れたい。
- ・気軽に学校の手伝いをしてもらったり、子どもに遊びを教えてもらったりするような形の取り組みも検討したい。



学社融合活動実施報告

学校名	新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校校区は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯は比較的少ない。そして、移住してきた世帯の多くが若い世代であり、昔からの世帯は年齢層が高い傾向が見られる。しかし、どの世帯も学校に対する関心はたいへん高く、協力的であるように感じる。保護者の構成は、ほとんどが他地域からの世帯であるが、新二まつり(文化祭)やサークル活動など、学校行事や学習活動などに、保護者だけでなく、昔からこの地域に住んでいる方々の協力も多面にわたっていて、若い世代と地域の方が協力した活動も多く見られる。したがって、地域・家庭・学校が共に子どもを育てるといった基本的な考えのもと、活動を広げていきやすい学校であり、地域であるといえる。</p>			
活動名	新二まつり	学年・教科・領域等	全学年:生活科・総合的な学習
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会運営の下、各学年が、地域の環境や文化(行事)を通して学んだ事柄を、保護者や地域の方々に発信する場とする。 ・世代を超えた「ふれあい」を通し、地域に生きる一員として、新二校区を知り、校区・故郷を愛する心情を育てる。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々や公民館サークルの方々が授業や行事に参加することで、児童や保護者との触れ合いの場の枠が広がり、地域の連帯感を育てる。 	
支援者及び支援組織			
新庄第二小学校教育有会・小学校・新庄公民館・婦人会・地域の方々			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
9月 4日(木) 新二まつり実行委員会 本年度の「新二まつり」について、実行委員・協力委員について			
10月 1日(水) 学校便利にて、作品展への出品のお願いを掲載・配布 (地域・保護者向け 公民館報と共に地域に配ってもらう。)			
10月 3日(金) 新二まつり協力委員会案内状配布(育友会・地区委員・学級委員・職員)			
10月 8日(水) 職員会議 「新二まつり」について 昨年度の申し送り・要項・今年度の流れ等			
10月 8日(水) 役員部長会 要項説明・講師への仮打診・新規体験活動について検討			
10月17日(金) 新二まつり協力委員会 各部の担当確認、打ち合わせ			
10月24日(金) お楽しみコーナー運営協力依頼配布(保護者向け) 体育館割り当て(10月28日～11月9日まで)			
10月28日(火) (体験活動・持ち物)保護者向け案内			
10月31日(金) 各学年発表内容しめきり(児童会へ連絡)			
11月 1日(金) 「新二まつりのご案内」プリント 地域・保護者・学級でも配布 までに 体験活動(児童へのアンケート～調整～決定)			
11月 4日(火) 体験活動講師への依頼状配布			
11月 5日(水) 職員会議(新二まつり 最終確認)			
11月 6日(木) 準備 いすならべ(朝、1限)6年 午後準備(図画作品展示等)			
11月 7日(金) 全体練習(朝1限) 一般作品搬入・展示			
11月 8日(土) 準備(育友会各部会)			
11月 9日(日) 新二まつり			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの保護者・地域住民が学校を訪れていただき、子どもたちの発表を見ていただくよい機会となった。 ・学習したことの発表を通して、地域の方々にこの地域の「よさ」を再認識してもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々の見学位置を考え、より見やすいように発表の仕方や発表する位置を考える。 ・準備をより綿密にしたり、司会をよりスムーズにしたりすることで、発表と発表の間を短くするなど、運営に工夫をする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段、学校で学習できないことを体験できることは、子どもたちにとって視野の広がりにつながる。 ・地域の方々とのふれあいによって、地域を感じ、地域の一員としての自覚にもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々と一緒に楽しむだけでなく、地域の方々のおかげで体験活動ができることに今以上に感謝する気持ちを持たせる工夫が必要だ。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業では体験できないことが体験でき、将来にむけて、いい経験になったのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新二まつりが単なる学校行事としてだけでなく、人と人(保護者と地域・子どもと大人・子どもと地域等)をつなぐ大切な行事であることを、子どもたちにも意識づけていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと地域の方々が触れ合うことで、地域の活性化につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの方々に参加していただき、触れ合いの場を、たくさんもってほしい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

まつり当日は、昨年同様雨であったが、昨年の経験から前日の準備段階で、テントの数や配置などが計画的にできていたので、運営にも支障なく全体的にはスムーズであった。



まつり当日だけでなく前日の準備から、育友会員や地域の方々、婦人会の方々が、大変協力的である。

学社融合の趣旨を理解、つまり、この行事が学校を含め各団体の協力によって成り立っていることを充分理解していただき、体験活動やカレー作りなどを主体的に企画し、準備・運営をして、まつりを盛り上げようとする意識が根付いている。

また、体験活動その他で、意欲的に新しいものを取り入れようとしている。本年度は、体験学習の中に「ファイヤー・レスキュー」を、閉会式には「もちまき」を取り入れた。

課題としては、一般の地域住民の方々を巻き込んで、より大きな活動にするための手立てを考えていかなければならないことである。(写真: 左から 学年発表 体験活動「ファイヤー・レスキュー」 閉会式もちまき)



学校名		稲成小学校	公民館名	稲成公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>近年本地域は、大型スーパーや大型電気店の出店、また高速道路延長による工事等で、学校周辺の田園風景も大きく変わってきた。それでも昔ながらの繋がり、教育熱心な土地柄から地域の学校への協力体制は大変大きい。10年前から実施している「稲成ふれあいスクール」では、現在においても町民センターに寝泊りしながら学校へ通う「通学合宿」が行われており、夕ご飯の炊き出しや「もらい風呂」には地域の方々に大きな協力を頂いている。このように本校は、学校・家庭・地域（公民館）が一体となって子どもたちを見守り、育み、充実した活動が展開できている。</p>				
活動名		我が町「稲成」再発見（ふるさと学習） ～環境学習・伝統文化継承体験を通して～		学年・教科・領域等 2年・4年・5年生 生活科・総合的な学習の時間
目 標	学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習を通して地域を知り、自分たちの住んでいる場所の素晴らしさをあらためて発見し、まとめ発信することができる。 ・地域を知り、昔から伝わる地域の伝統文化を学ぶことで「ふるさと稲成」への愛着を深めることができる。 		
	公 民 館 (地 域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもを地域で育てるという意識の向上を図る。 ・地域社会の中で、住民と子どもたちとの関わりを深めることにより、地域全体の繋がりを深め、コミュニティの活性化を図る。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>小学校・公民館・育友会・保護者・地域住民・各町内会</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>今回は生活科や総合的な学習の時間に『我が町「稲成」再発見（ふるさと学習）』での取組を中心に報告する。下記の取組には地域の方々に深く関わっていただき、児童の学ぶ意欲を喚起し学習内容を深めることができた。</p> <p>・2年『まちのこと知りたいな』～地域のお店「よってって」見学～ 自分たちの地域を探検し、お店を見学することによって今まで気づかなかったことに気づき、お店で実際に教えてもらうことによって地域で採れた野菜がどんな風に家庭に届くのか学ぶことができた。</p> <p>・3年『ぼくらの町たんけん隊』～8つの地区の特徴って何かな？～ 校区をめぐり自分たちの8つの地区（地域）の特徴を時間をかけてフィールドワークした。1600年代から稲作中心の村として栄えた校区の特徴を知り、近年の大型店舗の出店により道路や住宅事情の変化も学んだ。また、高山寺等古くからあるお寺のことや南方熊楠に関することも学ぶことができた。</p> <p>・4年『稲成川の水生物から川の水質を調べよう』 稲成川の上流・中流・下流に見学に行き、それぞれの場所の水生物を採取し、水質と生物の関係を調べた。地域にお住まいの「ふるさとセンター」の先生に、時には専門的なことも指導して頂きながら稲成川の環境について学習を深め、その内容を地域に発信することができた。</p> <p>・5年『稲成の伝統文化を受け継ごう』～稲荷神社の由来から地域の願いへ～ 稲荷神社の由来や神社の祭り、奉納獅子舞について調べ、地域の方や公民館長さんより聞き取りをした。400年以上前から稲作中心だったこの地域が稲荷神社を中心に今日に至るまで発展してきた様子を学び、また3地区の獅子舞の中で「荒光地区の獅子舞」を実際に体験し実演させてもらうなど、稲成の伝統文化について学習を深めることができた。</p>				
				
		<p>稲成川の上流で水生物を採取し観察しました。</p>		<p>笛・太鼓に合わせて獅子舞を実演しました。</p>

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年のテーマに沿って、実際に現地に出向き地域の方々に教えて頂きながら学習できたことは大変良かった。今年初めて取り組んだ川を中心とした「環境学習」においても地元の「ふるさとセンター」から専門的なことを教えていただいたことで、学習内容は深まった。 ・「伝統文化の継承」では毎年「荒光の獅子舞」を伝授していただいている。指導者が少ない中、大変ありがたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年初めて取り組んだ川を中心とした「環境学習」では、まとめ・整理・発信において、さらに地域や各家庭を巻き込むことはできないか、探りたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマに沿った内容を地域の先生にも教えてもらうことで、より具体的により実践的な内容へと学習を深めることができた。5年生の児童は荒光地区に伝わる獅子の舞・笛・太鼓をしっかりと習得することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・獅子舞・笛・太鼓の習得については、たくさんの時間を要するため、早い時期から少しずつ取組を開始することも検討したい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・「稲荷神社」について発表し、「荒光の獅子舞」を実演することにより、昔からの地域の方々の願いを今の地域に発信することができた。地域の良さを改めて感じることもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であることの自覚を持ち、地域の催しに積極的に参加し地域の活性化につなげてもらいたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに地域の者が持っている知識を有効に利用、活用してもらうことができた。 ・地域の伝統文化を、次世代へ継承することができた。 ・「稲成・むつみふれあい文化祭」に集うことにより、子どもたちの今の学習内容を知るとともに、地域住民同士の交流が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、公民館、学校との連携をさらに深め、より充実した活動にしていく。 ・地域人材、地域にある教育資源をさらに発掘し、学習ボランティアとして学校に関わっていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

・昨年度は「農業体験学習」を中心とした地域の方々の関わりが多かったが、今年度は「環境学習」「地域探検」「伝統文化継承」という『ふるさと学習』をテーマとした関わりも実現することができた。特に初めて取り組んだ稲成川を中心とする環境学習においては、新たな教育資源、新たな人材を発掘することができた。地域教材開発という意味では評価できると考えている。また「伝統文化の継承」についても、子ども・親・地域の方々と今年も三世代の交流ができ、また「稲成・むつみふれあい文化祭」で児童の獅子舞を披露できたことは、評価できることと考えている。



○次年度に向けての取り組みの方向

・生活科や総合的な学習については、今年も学習ボランティアとして地域の方々に多く関わっていただいた。今後も地域教材の開発、ふるさと学習の内容の精選等、先を見通した系統的なカリキュラムを構築していきたい。

「稲成・むつみふれあい文化祭」では総合的な学習の発表の前に、高雄中学校ブラスバンド部の素晴らしい演奏を聴かせて頂きました。本校卒業生も立派に演奏していました。会場は大きな拍手に包まれました。



学社融合活動実施報告

学校名	田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本年度もひがしふれあい祭りが11月9日に盛会に行われた。今年度は残念ながら雨天だったために小学校の体育館を中心とした催しとなった。ひがしふれあい秋祭りでは、ひがし防災連絡協議会が中心となって製作した「かまどベンチ」のお披露目も兼ねて炊き出し訓練を行う予定だったが、残念ながら雨天のため2月に延期になった。</p> <p>7回目を迎えたひがしふれあい祭りだが、雨天のための準備や片づけ等に大変時間がかかると思われた。しかし、地域や保護者との協力体制が素晴らしく、各々が担当に別れて積極的に動いていただいたので、短い時間で済むとともに、普段子どもたちができないところまで掃除していただき、地域の方々が学校を大切に思っていたに思っていることがよく分かった。</p>			
活動名	「かまどベンチ」を使った炊き出し訓練		学年・教科・領域等 学校行事・総合的な学習
目標	学校	《学校行事・総合的な学習の時間》 防災教育の一環として、東南海・南海地震などの大災害が起こった時には田辺東部小学校が避難施設となることを認識するとともに、災害時に備えてかまどベンチの使い方を学ぶ。	
	公民館（地域）	《ひがし防災連絡協議会》 現在、学校や町内会、公民館で行っている防災・減災活動を充実させるための連絡協議会をつくり、ひがし防災カレッジを開催する。	
<p>支援者及び支援組織</p> <p style="text-align: center;">ひがし防災連絡協議会 (公民館・学校・町内会・地域団体)</p>			
<p>取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>《ひがし防災連絡協議会の発足》 ひがしコミュニティセンターは、高台にあり市の防災拠点となるため、日頃から防災活動を強化し対応していくことが求められている。そこで、学校や町内会、公民館で各自が行っている防災・減災活動を地域につながりをもたせ、より充実したものになるために発足した。 学校・公民館・地域が一体となるよう、ひがし公民館、田辺東部小学校、田辺東部小学校の育友会、田辺工業高校、町内会、地域の団体等、地域や世代を超えたつながりがもてるよう構成した。</p> <p>《ひがし防災カレッジの開催》 第1回 防災講演会 『語り部からのことば ～被災体験から学んだこと～』 講師 秦 詩子氏 人と防災未来センター語り部 第2回 かまどベンチ作成講座 第3回 かまどベンチ基礎部分製作 : 防災組織連絡会+田辺工業高校生徒 第4回 かまどベンチ本体部分製作 : 防災組織連絡会+田辺工業高校生徒 第5回 かまどベンチ炊き出し訓練 : 防災組織連絡会+小学校児童+一般参加者</p> <p>《小学校での取組》 総合的な学習の時間に、防災教育の一環としてかまどベンチを使って炊き出しの体験</p>			
			

	成 果	課 題
学 校	運動場の一角に、かまどとして使わないときはベンチとしていつもあり、子どもたちが常時目にする事ができる。そのベンチが、大きな災害が起こったときにはかまどとして役立つことを知り、災害について意識化することができた。	来年度も追加設置する予定があるので、来年度以降のことを考えて、設置する場所を十分に検討する必要がある。
* 子どもにとって	ひがしふれあい秋祭りにかまどベンチを用いた炊き出し訓練を行うことで、低学年の児童にも意識づけることができると考えた。5年生の総合的な学習の時間に、防災教育の一環として実際に体験することができた。	すべての児童が炊き出し訓練に参加することができなかったため、どの児童も体験できるように計画する必要がある。
* 子どもにとって	炊き出し訓練は、保護者とともに参加できるので親しみやすく、また、大きな災害が起こったときの約束などを親子で確認することができた。	小学校の運動場にかまどベンチを設置したが、製作時には小学生が関わることはできなかったため、別の方法で意識を高める必要がある。
地 域 (公民館)	防災について4つの町内会が一つにまとまって、広い地域での活動につながった。高校生と地域の方々が一緒になって、世代を超えた取組ができた。かまどベンチ作成には、田辺工業高校生徒会のメンバーも参加し、意欲的に働いてくれた。高校生たちも自分のふるさととして意識して働いてくれたように感じる。	基礎工事など、かまどベンチを製作するに当たって、たくさんの方で作業が同時にできないこと、安全性を優先するためには専門性が必要になるため、仕事が偏る傾向にあった。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会だけの防災ではなく、地域として広い範囲にわたっての取組につながるため、ひがし防災連絡協議会を継続していきたい。 ・ひがし防災カレッジとして秦さんの講演を企画したことは大変よかった。これからも、ひがし防災カレッジを続けていきたい。 ・今年度はかまどベンチを2基作ることができたが、実際に大きな災害が起こると2基では足りないため、計画的に増やしていく。 ・6年間の小学校生活の場で、どの子もかまどベンチの炊き出し体験ができるよう年間授業計画を立てる必要がある。 ・かまどの金属部分を田辺工業高校の生徒たちに作ってもらった。これからも、かまどベンチの金属部分の製作を田辺工業高校機械科の生徒さんたちに依頼することで、地域と高校との関係をより深めていきたい。 ・かまどベンチはできたが、そのかまどを使うための道具(鍋やしゃもじなど)なども計画的に揃えていきたい。 		

学校名		会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 「会津さわやかコンサート」や「昔の遊び体験」をはじめ、学校が保護者や校区協議会、公民館、地域の各種団体との連携・協力を図りながら、様々な地域活動・学校教育活動を展開している。現在497名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での子ども向け教室「おもしろ科学教室」などをはじめ、地域で子どもたちを見守り、育む活動に積極的に力が注がれている。また、地域スポーツクラブ、会津スポーツクラブの活動は、子どもたちのスポーツに対する関心を高めると共にスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれている。</p>				
おもしろ科学教室			学年・教科・領域等 全学年 理科・図工・総合的な学習	
目標	学校	公民館行事「おもしろ科学教室」へ出前教室を行っている。公民館などとの連携を進め、学校教育との融合を深める。子どもたちは、公民館・地域行事に積極的にかかわることで、地域への愛着、帰属意識を高める。		
	公民館（地域）	学校では普段出来ない経験を、公民館事業を通じて子どもたちにしてもらうこと。子どもたちが公民館行事に積極的に関わる機会を作り、地域とのつながりを築くこと。		
<p>支援者及び支援組織 秋津公民館、万呂公民館、会津小学校</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◆紙コップロケットを作ろう！！ 【 8月11日(月) 会場:秋津多目的研修センター 】 1～3年生とその保護者を対象に「紙コップロケット」を作成し、とばして遊ぶ。講師は会津小学校教職員。作成指導者として会津小学校教職員2名、公民館主事2名、秋津・万呂両公民館長。「紙コップロケット」を作成後、第2弾として「クルクルタネコプター」を作成して屋外でとばして遊ぶ。</p> <p>◆パタパタ飛行機を作ろう！！ 【 8月22日(金) 会場:万呂コミュニティーセンター 】 4～6年生とその保護者を対象に「パタパタ飛行機」を作成し、とばして遊ぶ。講師は会津小学校教職員。作成指導者として会津小学校教職員3名、公民館主事2名、秋津・万呂両公民館長。作成したパタパタ飛行機は、コミセンの3階大集会室でとばした。</p>				
				




	成 果	課 題
学 校	教職員が出前講座、講師・指導者として、公民館行事に協力している。学校と公民館の連携が強くなっている。地域での子どもたちの活動に触れることが出来る、良い機会である。	参加した子どもは充実した工作体験等をし、大変満足している。参加者が少ないので、広報の仕方を工夫する必要がある。また、教室の内容をどう豊かにするのが毎年の課題である。
* 子どもにとって	地域行事(公民館行事)に参加することで、児童自身も地域の一員としての意識が高まると共に、地域で自分たちが大切にされていると実感できる。取り組みの中で地域の人と触れ合うことで、地域への愛着心、帰属意識が高められている。	児童単独の参加を増やすと共に、保護者の参加も呼びかけ、児童・保護者(地域の人)が共に工作体験、科学体験をする機会としていきたい。(子どもにとって豊かな時間の保障となる)
* 子どもにとって	学校ではできない体験をすることにより、新しい発見をする喜びや、地域の方々とながりができている。	子どもたちが、より多くの方と触れ合うことができるよう、内容を検討していきたい
地 域 (公民館)	事業を通じて教職員と連携が取れ、つながりが出来ている。このつながりを活かし、他の公民館行事でも、学校や子どもたちが参加していただける体制を築くことが出来ている。	参加者が少なくなっており、子どもたちや保護者、地域の方のニーズを把握する必要がある。今後も連携を強くし、ささいな要望でも聞きだせるようにしていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今年の「おもしろ科学教室」では、低学年「紙コップロケット」「クルクルタネコプター」、高学年「パタパタ飛行機」づくりを、秋津多目的研修センター、万呂コミュニティーセンターで開催した。子ども、その保護者、おじいちゃん、おばあちゃんの参加があり、大変子どもにとって充実した教室となった。参加者が少ないので、参加者を増やし、子ども、その保護者、家族、地域の人々とつなげるという視点も大切にしながら、学社融合の取り組みを一層すすめていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上芳養小学校の地域には、梅やみかんを栽培している農家、それに関連した仕事に従事している人が多い。そのため、学校の梅学習への取組みを理解し、積極的に協力してくれる人が多い。 ・学校、公民館、地域が協力して取組んでいこうという素地があり、学校の行事などには保護者だけではなく、多くの地域の方が参加してくれる。特に運動会や作品展などでは、地域全体の盛り上がりも大きく、学社融合の大きな力となっている。また、地域の子どもは地域が育てるという意識が、住民の方々に共有されていて、常に子ども達の様子を見守ってくれている。 				
活動名		梅学習		学年・教科・領域等 3～6年生 総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・当地域の主たる産業である「農業」、とりわけ梅についての体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、農業に携わる人々の苦労や工夫、抱える問題点に気づく。さらに、地域の人々の願いや特色を理解し、地域とともに歩む子どもを育てる。 ・梅のPRを通して地域の産業に誇りをもつとともに、地域に貢献する児童を育てる。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と児童の繋がりを深め、日常的な交流を円滑にする。 ・地域の子どもは、地域が育てるという意識を深める。 ・学校と公民館の教育機能を十分に発揮し、様々な体験学習を展開することにより、地域の教育力を推進する。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>上芳養公民館、田辺市産業部梅振興室、JA紀南上芳養支所、梅生産者</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ○梅の収穫や加工、流通に関わる体験や学習を通して、地域の産物である梅についての理解を促す。 ○上芳養地域の多くの人々が携わる梅産業について学び、郷土に対する理解や誇りを育む。 ○地域の梅をPRすることにより、上芳養の梅の良さを他の地域の人たちに知ってもらい、地域に対する誇りや地域に貢献する喜びを感じる。 <p><日時・活動内容></p> <p>4月 6年生 修学旅行での梅配りについての学習を行う。</p> <p>5月2日(金) 梅学習連絡会会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の検討を行う。 <p>梅の学習は以前から行ってきたが、本年度より梅の学習が円滑に行えるよう学校・上芳養公民館・田辺市梅振興室・JA紀南・生産者が一体となり、「梅学習連絡会」として発足した。</p> <p>5月18日(日) 6年生 修学旅行で梅配り</p> <p>修学旅行1日目 新京極で梅配り(PR活動)を行う。(300パック)</p> <p>6月3日(火) 5年生 座学(上芳養の梅について)</p> <p>6月17日(火) 3年生 梅拾い</p> <p>6月18日(水) 3年生 梅の加工体験(梅ジュース作り)</p> <p>6月18日(水) 6年生 修学旅行、梅配り(PR活動)報告会</p> <p>お世話になった方々、保護者を招待し報告会を行う。</p> <p>6月19日(木) 5年生 梅加工場見学</p> <p>6月24日(火) 5年生 梅拾い・加工体験(梅ジュース作り・梅干作り)</p> <p>7月22日(火)～29日(火) 5年生 梅の天日干し</p> <p>10月2日(木) 5年生 座学(梅産業について)</p> <p>[今後の活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5年生 梅のパンフレット作り・パック詰め 修学旅行での梅配りに向けての準備 4年生 梅の着花観察・座学(上芳養の環境) 				
				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生から総合的な学習の時間を使って「梅博士になろう」という学習を始め、学習の締めくくりとして6年生で梅配りを行う。一連の活動を通して、地域理解と地域を誇りに思う心を育むことができた。 ・実際の活動の計画から公民館、田辺市梅振興室、JA紀南、梅農家の方々等、様々な人と繋がりをもつことができ、交流が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の取組みとして行っているが、必要な内容や実際の学習活動を整理していく。更に、保育所や中学校の取組みとの連携を図っていく。 ・収穫、加工などを体験することで、それらの理解を更に深める。更に、学年の段階、対象や場所等を考え、それに適した発信方法を工夫していく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・梅栽培に携わる人々の苦労や工夫、喜びを知ることができた。 ・修学旅行の梅配りでは緊張もあったが、自分達の地域の自慢である梅を配ることで自分自身の自信にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動が単に受動的な体験に留まらないように、子ども達が課題意識を持つ。 ・地域の梅生産者、田辺市梅振興室やJA紀南など関係団体の協力があったはじめて取組めることを理解するとともに、下さった方々に感謝の気持ちを忘れず活動を深化させていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の主な産業である「梅」について学習し、梅の種類や栽培方法を知るとともに、仕事に従事する人々の思いを感じることができ、郷土への愛着心を養うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅の学習が、単独の、また一過性の取組みとして終わらず、日常的に地域の行事に参加できるように、地域との繋がりを深めていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々は、子どもとの会話や交流を通して、子ども達からエネルギーを得ることができた。 ・PR活動等を行うことで地域に誇りを感じ、梅栽培の仕事についての理解が進む。このことは、後継者不足の問題解決の糸口として期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの方々に主体的に携わって頂けるよう、情報提供に努めるとともに、参加しやすい雰囲気作りを行っていく。 ・学校や関係機関、支援者との連携を密にし、支援の方法や内容について考え、更に充実させていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

〔評価〕

・これらの活動を農業体験学習として位置づけ、3年生から学習を始め、その締めくくりとして6年生では上芳養の梅配り(発信)を行った。一連の学習は、4年間という長期的な取組みであるため、系統的な学習を展開することができた。また、児童のコミュニケーション能力や地域(郷土)愛、豊かな心を育み、人格形成に果たす役割は大きい。同時に、地域作りにも貢献できていると思われる。

・食育面から見ても、自分達で作った梅干を給食に利用したり、家庭科の調理実習に使ったりするなどして、他教科と関連させた学習を展開させることができる。

〔次年度に向けての取り組みの方向〕

・梅学習連絡会が立ち上がったことで活動が円滑に行えるようになった。今後もこの連絡会を充実させ、地域との連携を深めていければと考える。

・3年生から梅についての学習を始めるが、系統の整理を考えていく必要がある。例えば、3年生も5年生も梅ジュースを作り、また梅干作りも軽重はあるにせよ似たような活動を行っているの、今後見直しを要する面だと考えている。



学社融合活動実施報告

学校名	中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>田辺市街地周辺の農村地帯にある本校の児童は、明るく元気で、異なる学年関係も上位の学年の児童が下学年の児童の世話をするなど良好である。地域住民の教育への関心は高く、学校教育活動にも協力的である。</p> <p>小学校における学社融合の取組は、本年度より3年間、「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、中芳養地域に根付いたものになるよう工夫しながら進めているところである。</p> <p>授業や学校行事を通しての教育活動は、住民間の交流を進めたり、融和を図ったりする重要な役割を果たしている。学校としても、こうした取組の中で、児童が地域社会で認められ、地域の子どもとしてつながりを深められるような関係を築いていきたいと考えている。また、地域がもつ教育資源(人的・物的)を学校教育に生かして、特色ある中芳養小学校の学校教育を展開していきたい。</p>			
活動名	中芳養コミュニティ運動会/中芳養合同作品展	学年・教科・領域等	特別活動(学校行事)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを深めることで、児童と地域の住民の交流がさらに進むようにする。 ・地域とつながることで、自分の住むふるさとを愛する心を育む。 ・地域の住民に子どもたちを知ってもらうことで安心して暮らせる町づくりに取り組む。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・体育・文化行事を通じて地域内の異世代の交流を深める。 ・地域の子どもの成長を見守り、子どもの健全育成に取り組むという気運を高める。 ・一つの事業を地域内のみんなで作り上げるという地域の連帯意識を育成する。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>中芳養公民館 校区町内会 芳寿会 中芳養幼稚園 中芳養中学校 各園・学校PTA 中芳養共育コミュニティ本部</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>中芳養コミュニティ運動会 平成26年9月28日(日)</p> <p>地域を巻き込んだ運動会を実施した。運営についても事前に検討会を持ち、公民館・町内会・PTA・学校とそれぞれで分担しながらの運営をした。</p>			
			
<p>地区で活動している皆さんによる三輪車レース</p>		<p>老人会「芳寿会」の皆さんと玉入れ</p>	
<p>運動会の名称を中芳養コミュニティ運動会に変更し、スローガンとして、「地域とのつながり」を意識したものにした。また、中芳養小学校出身の高齢者の皆さんを意識して尋常小学校当時の校旗を掲げたり、1年から6年生の縦割り班での活動を取り入れたりして取り組んだ。運動会後には、合同反省会を持ちこの事業についての意見交換や反省を行った。</p>			
<p>中芳養合同作品展 平成26年12月13日(土)～14日(日)</p> <p>今年、初めて地域の文化力の向上と交流の促進を図るために「中芳養合同作品展」を開催した。公民館が地域に呼びかけ、趣味を生かした地域の方の作品を集め、幼稚園・小学校・中学校の子どもたちの作品も展示した。公民館活動で行った「焦がし絵」教室の作品や老人会「芳寿会」の皆さんによる陶芸教室の作品も展示した。約500点もの絵画や写真、作品などが集まり来場者を楽しませた。また、地域の方の笑顔を集めた「300人笑顔プロジェクト」の写真や小学校の百年史をスライドで流すなどして、地域の方が懐かしく思い出せるような展示を心がけた。中芳養地域だけではなく、他の地域に住まわれている方々も中芳養合同作品展に多く来られていた。展示会は、子どもたちにとって普段見ることのできない作品に触れるよい機会となり、出品された方にとっても、自分の作品を見ている地域の人や児童の様子を見て満足感を味わうことができたことと思う。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から3年間の「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、地域のつながりを深める取り組みが始まった。 ・従来取り組まれていた活動も、単独で行うのではなく町内会や公民館などより多くの住民が参加し、楽しめることがつながりを深め、地域の教育力・文化力を高めるために必要という趣旨の下に取り組んでくれたことは、これからのつながりを深めていくためのきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに人とのつながりを深めていくために、地域の人とのかかわりを持たせる場の設定をしていく必要がある。 活動においても目的意識を子どもたちにも持たせ、何のために活動しているのかを考えさせることで心の成長にも期待したい。 ・子どもたちだけではなく、地域の方同士もつながりや共助の気持ちが深まることを期待したい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながりが深まっていくことは、子どもたちにとって郷土を愛する心を育てることにつながり、より安心して暮らせる町づくりにつながるものと思われる。また、人とのつながりがコミュニケーション能力や生きる力を高めることにもつながるものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の中に活動を位置づけていく必要がある。より効果的な方法や内容の精選を行うことで授業時間の確保も検討していく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの活動の成果を地域の人たちに見てもらうことにより、見守られているという安心感につながった。 ・地域の大人と一緒に活動することで、大人に対する信頼が増した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も地域の一員であるという連帯意識を育んでいきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じて子どもたちとだけでなく、大人同士も交流を深めることができた。 ・地域の子どもの成長を知ることができた。 ・みんなで事業を盛り上げようと参画し、連帯意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加、協力してくれる個人や団体を積極的に発掘していきたい。 ・子どもの活動から大人も学ぶという意識を醸成していきたい。 ・他の事業、地域活動に対しても連帯意識を持ち、取り組んでいきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本年度の取り組みとしては、中芳養コミュニティ運動会では地域の方がお互いに触れ合う機会として効果的であった。アンケートの中で保護者からは、いろんな場で地域のために働いている方々を知ることができ、一緒に活動できて楽しかったという意見も出されていた。また、合同作品展では、普段は地域の方が学校に来られる機会が少ないため「久しぶりに学校に来させてもらったよ」という喜びの声も聞くことができた。

次年度に向け、行事的なものを学校とのつながりを深めるために設定したが、授業など教育活動の中に地域の方が入っていただけるような内容を設定していきたい。また、方法や目的を明らかにしていくことで地域の方々にも参加していただき子育てに関わる関心を深めさせたい。



学社融合活動実施報告




学校名		上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>・当地域は農村地域であるが、最近、宅地造成が進み農業以外に従事する人も増えつつある。そこで、地場産業である「農業」とりわけ、梅(6年)、みかん(5年)、野菜・花(4年～1年)について1年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、農業に携わって額に汗して一生懸命働いている人々の苦労や工夫、抱えている問題点に気づく。また、地域の人々の願いや食文化、地域の特色やよさを理解し、地域を考え、ともに歩む子どもを育てることを目標に学社融合を推進する。</p> <p>・来るべき南海・東南海地震や台風・水害などの災害に対して、地域の危険箇所を学習したり、避難経路を確認したりして自らの命を守ることを目指す。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
文化活動・農業体験学習			全学年・音楽・総合	
目標	学校	<p>・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、生き方指導につなげていくことを目標とする。</p> <p>・幼・小・中・公民館の連携を強め、文化活動や防災教育の取り組みを進めていく。</p>		
	公民館(地域)	<p>・農業体験学習や文化活動を通じて、地域住民と児童が交流する機会を作り、地域活性化につなげていくことを目標とする。</p>		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局)</p> <p>上秋津学社融合委員会(幼稚園、小学校、中学校、公民館)</p>				
<p>26年度の取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>事例① 文化活動の取り組み</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本年度は、上秋津ふれあい音楽会を紹介します。上秋津ふれあい音楽会は昨年より、地域の交流をより深くし、文化の香りを地域に広げようという趣旨で開催されています。年々参加団体が増え、本年度も成功裡に会が開催されました。</p> <p>参加団体(秋津野合唱団、幼稚園、中学校、特別ゲスト、PTAコーラス、小学校)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>秋津野合唱団</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>幼稚園</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>中学校</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>特別ゲスト</p> </div> </div> <p>事例② 5年みかん学習の取り組み</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本年度は、5年のみかん学習を紹介します。5年生は、本年度校内にみかんの木を植えました。以前から校内にはみかんの木がありましたが、数年前に枯れたので、再度自分たちで育てながら観察することになりました。今年度新しく借りた農園でも観察・摘果・収穫の体験をしました。参加団体(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南、上秋津公民館、老人会、西牟婁振興局)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>みかんの植栽</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>みかんの植栽</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>みかんの摘果</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>みかんの収穫</p> </div> </div>				
<p>留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館やその他協力機関と共通理解を図る。 ・子どもが自ら調べたり、考えたりして答えを見つけていけるような場面を設定するように努める。 ・学習や音楽の成果を地域に向けて発信したり、地域の方々の喜ばれるような活動になるように努める。 				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽会を通して、地域の方々と交流が図られ地域をまきこんだ文化的行事を行えた。 ・梅やみかんの学習を通して、従事している人々の苦労や工夫を子どもたちに分からせることができた。 ・登下校時や普段の生活であいさつや話をするなど地域の方々との関わりを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの団体が参加しているために、日程・時間の調整が課題。 ・野菜作りは、指導をお願いする人が決まっているので、広く人材を発掘するのが課題。 ・校外学習するみかん農園を継続してお借りできる方をみつけることが課題。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したこと練習したことを多くの人たちの前で発表することができ、子どもたちの自信につながった。 ・地域の人々と知り合うことで、挨拶や礼儀正しい態度行動がとれるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画をきめ細かく立てるとともに、どのような力を身につけているのか、教科学習にどうつながるのか、再度検証する必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験を通して、農産物を作る喜びや、農業に対する関心が持てた。 ・地域の方々と接する機会が増え、交流促進に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験を通して出会った方々と定期的に接する機会を持つことで、より交流を深めさせたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験や上秋津ふれあい音楽会を通じて、地域との交流促進に繋がっている。 ・農業体験では、支援者が農業に対する知識を子ども達に教えることで、高齢者の方々の生きがいになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験学習の支援者(老人会やJA紀南青年部)のメンバーが、固定化している。また、JA紀南青年部の人員が年々減少しつつある。これからもこの学習を続けていけるよう、地域の農家の方々にも声をかけ、幅広い協力者の発掘に努めていきたい。 ・学校や支援者と連携を密にして、今後は防災学習等の取組みも行っていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・平成25年度から始まった上秋津ふれあい音楽会について、保護者アンケートを実施した。その中で、地域をあげての音楽会、PTAコーラスの参加、ゲストの音楽家の歌唱や演奏等が高い評価をいただきました。来年も、さらに充実させて、地域の文化活動の発展に貢献したい。
- ・梅畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなどができている。学校としては、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらすとともに地域作りに貢献させたい。
- ・地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流により、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの厳しさを感じ取るなど「生き方」を考えさせたい。
- ・花づくり名人の指導を受けて栽培した花は、子供達の心を豊かにするとともに、花に対する知識や栽培する技能を身につけることができた。また、いろいろな花の育て方に関心が高まった。今後は、公民館や幼稚園だけでなく、地域の多くの施設に花を届ける活動をさらに広げていきたい。
- ・児童が栽培した野菜を一緒に料理している家庭もあり、自然に「食育」が実践されるようにさせたい。
- ・今後は、現在の取り組みを継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」、みかん資料室の活用)と連携を進めていきたい。
- ・農業体験の指導者の世代交代を図りたい。
- ・幼・小・中・公民館が連携して避難訓練等に取り組みたい。

学社融合活動実施報告

学校名		秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域、社会教育関係者が一体となり、子どもの健全育成のため協力し合って連携を進めている。 ・地域の方々の協力を得ながら、地域の文化や伝統を学ぶことで地域のよさを知り、また、様々な行事を通して地域の方々との交流を深めることで、子ども達のコミュニケーション能力も高まってきつつある。 ・地域の方々は、行事を通して子ども達と関わることを楽しみにしており、参加にも協力的である。 				
活動名		春秋会(敬老会)との交流	学年・教科・領域等	全学年 学校行事
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での子ども達の学習や生活の様子を保護者の方だけでなく、地域の方に参観していただき、今後の教育に生かしていく。 ・地域の行事に参加することで、地域の方との交流を深め、地域のよさを再確認し、地域と地域の文化を大切にすることを育てる。 		
	公民館(地域)	<p>普段から子ども達と接する機会の少ない高齢者の方々が、公民館主催のイベントを通じて、交流し楽しむ事で、地域の活性化に繋げていきたい。</p>		
<p>支援者及び支援組織 秋津川小学校育友会・秋津川公民館・秋津川町内会</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>①秋津川町民運動会(9月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉入れ競技で、地域のお年寄りと全校児童が対戦し、楽しみながら交流を行った。 ・運動会の最後に踊る『秋津川音頭』を、事前に公民館長さんから教えてもらい、参加者全員で踊って交流した。 <p>②敬老行事への参加(10月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～6年生が公民館長さんと地域の方に『おるり音頭』の指導を受け、敬老行事で発表した。また、1・2年生は、運動会で踊ったダンスを発表した。 <p>③地域清掃作業(11月7日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5・6年生が、春秋会(老人会)、中学生とともに地域の清掃活動を行った。 <p>④秋小祭り(11月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会が企画・運営する『秋小まつり』に春秋会(老人会)の方や、自分たちの祖父母を招き、昔の遊びを教えてもらいながら、交流をした。 <p>⑤年賀状での交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の70歳以上のお年寄りに、全校児童で年賀状を書いて送った。 				
				

	成 果	課 題
学 校	子ども達にとって多くの地域の高齢者と楽しくふれあえるたいへんよい機会となった。また、高齢者の方が今まで受け継いできた地域の文化に、子どもたちが触れるよい機会になった。学校にとっても、地域と、より深く関わってよかった。	・学習活動と関連させながらの交流のあり方を検討していく必要がある。
* 子どもにとって	・普段接する機会が少ない方々とも、いろんな場面で楽しくコミュニケーションをとることができた。 ・地域の方の前で発表し、大きな拍手をもらったことが、子どもたちにとって大きな自信となった。	・交流のための準備や練習のため、休憩時間や放課後も活動することがある。
* 子どもにとって	地域住民の方々と交流する習慣が身についており、地域全体が家族のような温かさを感じる。	出来る限り子ども達に負担がかからないよう、楽しめる範囲でこれからもご協力いただきたい。
地 域 (公民館)	・公民館主催イベントのほとんどが、高齢者の方々と交流できるものになっているため、子どもたちも慣れており楽しそうに参加してくれている。	・マンネリにならないよう例年工夫しながら進める。 ・学校との連携を密にし、お互いの負担を軽減しあえるような運営方法を模索する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

子ども達が多くの地域の方と色々な場で楽しくふれあえることができた。
 敬老会での発表は、地域の方にどんな子どもが小学校に通っているのか、どんな様子なのかを知っていただくとともに、子どもたちにとって大勢の前で発表するよい機会となった。また、敬老会の方々も発表を楽しみにしてくれている。
 秋小祭りでも同様で、子どもたちもお年寄りと交流することを楽しみにしている。
 年賀状での交流は、地域の方からの返信もたくさんあり、喜んでもらえている。
 地域との交流行事が多くなり、児童数も減少している今、行事の見直しは必要だが、春秋会との交流は双方にとって有益な部分が多いと思われるため、今後も継続していきたいと思う。

学社融合活動実施報告

学校名	三栖小学校	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校は風光明媚な環境にあり、梅を中心とする農村地帯である。しかしながら、専業農家数は過去に比べて減少傾向にある。また宅地造成が進み、他の地域から流入してくる人も多くなってきている。子どもたちは、温厚で誠実な性格の子が多い。本校PTA組織も「育宝会」という名が示すように、子どもは地域の宝という意識が地域全体にあり、地域・保護者の学校教育に対する関心が高く、学社融合の活動もとても協力的に行えている。</p>			
三栖の史跡巡り		学年・教科・領域等	5・6年総合的な学習
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりすることで三栖地域の歴史への理解を深め、今後の学びに生かすことができるようにする。 ・地域の方から直接お話を聞く中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りをもたせる。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める。 ・学校との組織的な支援体制の確立を目指す。 ・子どもたちの地域への関心、愛着を深める。 	
支援者及び支援組織			
公民館文化委員			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<p>取り組み 三栖の史跡巡り 第6学年(男子20名 女子24名) 日時 11月7日 9時～15時 下三栖(三栖廃寺、五郎地蔵寺、善光寺、三栖王子、八上王子)</p> <p>第5学年(男子26名 女子25名) 日時 11月27日9時30分～15時 上三栖 中三栖(尋声寺、三栖村方文書庫、妙見宮、珠簾神社、伝馬所跡、長尾坂、稻荷神社、大剎寺跡) ねらい 三栖地域の歴史への理解を深めるため、地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりする。 地域の方に直接お話を伺ったり、質問をさせていただいたりする中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。</p> <p>活動内容 公民館文化委員の方と一緒に、説明を聞きながら地域の史跡を歩く。</p>			
			

	成 果	課 題
学 校	公民館の文化委員の方々から説明を聞くことで、より詳しく地域の歴史や史跡のことを知ることができた。また地域の方と一緒に史跡をめぐったり、弁当を食べたりする中で交流ができた。	児童が理解できる範囲の言葉や授業のねらいを十分打ち合わせる必要がある。
* 子どもにとって	地域の方々と交流することができ、世界遺産である熊野古道が自分たちの住む地域を通っていることを知り誇りに感じた。	数名の文化委員の方が参加して下さったが、説明して下さった方との交流はよくできていたが、その他の方々との交流も昼食時などもう少し時間があれば交流することができたのではないか。
* 子どもにとって	地域を知ることによって地域への関心や愛着が育まれた。 普段接する機会の少ない方と交流する機会ができた。	より多くの方と触れあう機会を持ち、社会性を身につける。
地 域 (公民館)	地域の人材を学校教育の場で生かすことができ、世代を超えての交流ができた。 子どもたちに地域のことを知ってもらうだけでなく、自分たちも地域の歴史を考える機会となり、知識の研鑽にも繋がった。	今後も公民館と学校が連携を密にしながら活動していくことが大切である。 活動を継続できるように、講師となる文化委員の育成が必要である。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・本校には熊野古道が通り、史跡なども多く残っている。児童は登校途中など目にはしているが、それがどういうものなのか知っている児童は少なかった。今回の学習を通して、それぞれの史跡がいつ頃のもので、どうして建てられたものかという歴史を学ぶことができた。また公民館文化委員の方が8名程度、また住職さんの協力などを得ながら説明していただいたり、一緒に弁当を食べるなどの交流ができた。

史跡巡り後は、グループに分かれて壁新聞をつくりまとめをした。今後も「三栖の史跡巡り」を通して、児童が校区の歴史について学べる機会として取り組んでいきたい。



学社融合活動実施報告

学校名	長野小学校	公民館名	長野公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 長野地区では、学校と公民館活動(地域の各種団体などの活動をはじめとした社会教育)との連携を密にし、様々な教育活動に対して、公民館活動のご協力をいただきながら、子どもたちの教育に取り組んでいる。 また、地域の方々も、子どもたちの活動に対して、常に気をかけていただき、行事をはじめとした様々な機会において、学校の教育活動に対し、多くのご協力をいただいている。</p>			
活動名	地域学習「長野の『ステキ!』を見つけたよ」「長野の宝『梅』について」「那須与一の墓伝説・長尾の熊野古道(ジュニア語り部)」長尾坂	学年・教科・領域等	生活科・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体との連絡を密にする中で、学校と地域の教育力を育てる。 ・地域の方々との交流により、コミュニケーション能力を深め、地域を大切にする心を育てる。 ・地域に貢献している人々の生き方を通し、自分の生き方や進路を考える力を育てる。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちには、地域で、地域から学ぶことで、地域の良さを知り、愛着をもってもらおう。 ・地域には、地域ぐるみで子どもを育てる大切さに気づいてもらい、より一層地域と学校が一体となって取り組むことができるような体制をつくる。 	
<p>支援者及び支援組織 長野公民館 田辺市役所長野連絡所 長野簡易郵便局 JA紀南長野店 石川商店 長野小学校育友会をはじめとした地域の方々</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取組として、公民館の協力のもと、地域学習を中心とした活動内容を展開してきた。 また、地域から学ぶことは、地域の良さ、地域の人たちが大切にしてきたものを学ぶとともに、地域の課題に気づかせる機会でもある。将来、地域を支える力となる子どもたちに、これからの自分達ができる事は何かを考えていく機会としたい。</p> <p>【1・2年生の取組】「長野の『ステキ!』を見つけたよ」 (内容) 地域の田辺市役所長野連絡所、長野簡易郵便局、JA紀南長野店、不動寺をはじめ地域の様々な方々にお話を聞き、それぞれの方が、お仕事をされる上でのご苦労などを聞かせていただいた。長野の地域にあるすてきな一面を知ることができた。さらに、その内容をまとめ、学習発表会で発表をし、多くの地域の方々に見ていただいた。</p> <p>【3・4年生の取組】「長野の宝『梅』について」 (内容) 地域の産業学習で、本年度は『梅』について学習した。地域の『梅』農家を訪問し、『梅』栽培の工夫や苦労話、収穫作業も教えていただき、「天日干し」や「選果」の作業も体験させていただいた。また、地域にある『古城梅』の原木のお宅も訪問し、長野の『古城梅』の歴史を学び、地域の『梅』の知らなかった一面を知ることができた。さらに、まとめた内容は、学習発表会で多くの方々に見ていただいた。</p> <p>【5・6年生の取組】「那須与一の墓伝説・長尾の熊野古道(ジュニア語り部)」 (内容) 西田公民館長さんに、長野に古くから伝わる不動寺にある『那須与一の墓』の伝説をお話いただき、そのいわれを知り、長野の歴史の一面を学習した。また、公民館長さんと那須久生さんのお二人に、熊野古道『長尾坂』の歴史についてもお話いただき、一緒に古道を歩きながら、歴史のある『熊野古道』の一端を体験した。この内容はまとめて、学習発表会において地域の多くの方々に見ていただいた。</p> <p>【全校児童】『長尾坂のクリーン作戦』 (内容) 西田公民館長さんに、長尾坂のお話を聞き、長野にある歴史の道「熊野古道」を大切にする意義を学び、その後、全校児童と地域の方々で、古道(長尾坂)の清掃活動を行った。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある産業や地域の課題を学ぶことで、ふるさとを愛する心を育てるよい機会となった。 ・熊野古道の語り部ジュニアの取り組みと古道の体験学習は、児童もいっしょに体験することで、地域の一員としての自覚と古道を大切にしようとする機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活や産業についての理解を深め交流していきたい。 ・地域の歴史を知り、ふるさと長野を大切にしようという意識と長野の歴史を守ろうという行動ができるようにしていきたい。 ・地域の課題を知り、子どもなりに解決に向けて考えていけるようにしていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより地域の人々の苦勞を知ることができた。 ・地域の歴史を学ぶことにより地域への関心や地域を良くしようとする意欲が目覚めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事への積極的な参加を促し、地域のすばらしさや暮らす人の願いを学ぶ学習を展開していきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある様々な主体、それらの良さをすることで、地域への関心、愛着が生まれてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちなりに地域の将来を考え、自分たちにできることを考えてもらうきっかけをつくってきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の取り組みや学習発表会を通じて、取り組みの内容や子どもたちの様子を知ることができた。また、取り組みに関わった方々は、学習発表会によりその成果も知ることができ、やりがいへと繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと継続的に関わり、子どもたちの地域に対する関心、地域の子どもたちに対する関心、それぞれを育む取り組みを展開していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【成果】

- 訪問させていただいた方々はどのの方々も大変協力的で、地域ぐるみで、「地域の子どもを育てていこう」という長野の方々の思いが実感できた。
- 地域の方を訪問させていただいたことで、子どもたちもより具体的な体験をさせていただけた。
- 学習発表会では、地域学習でのまとめを工夫して発表し、地域の方々から好評であった。

【次年度に向けての取組の方向】

- 公民館と連携して、地域の方々との交流を、よりいっそう深めていく。
- 地域の課題等に、子どもたちなりに問題意識を持たせ、地域と共に学ぶことを大切にしていきたい。



長尾坂クリーン作戦
(全校で)



長尾の熊野古道
(5・6年)



長野地域の産業について
(3・4年)



長野の地域学習
(1・2年)

学社融合活動実施報告

学校名		伏菟野小学校	公民館名	長野公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が育友会準会員として物心両面において援助いただいております、児童の見学や遠足、さまざまな体験活動等において助けられています。 ・学校に対して地域の方は協力的で、運動会や校内環境整備作業、クリーン作戦では、伏菟野区と共催という形をとっている。特に運動会については、実行委員会を組織して企画運営に当たっていただいております、毎年大勢の方が参加してくださっている。 ・地域の特色である「ホタル学習」や「米作り」は、地域の方を講師に、教育計画の年間計画に位置づけて全校で取り組んでいる。 ・「ふれあい交流会」や「どんど焼き」等の行事へ地域の方に参加いただき、子どもたちを見守っていただいております。 				
活動名		ホタル学習	学年・教科・領域等	総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域に開かれた学校」を推進し、「学校と地域が共に児童を育てる」という理想を実現する。 ・学習発表会や交流行事を計画し、児童のがんばりを保護者・地域の方々に見ていただく。 ・地域の方を講師に、地域の方々と児童が活動を通して交流を深める。 ・子どもたちのがんばる姿や元気を発信し、地域の方々も元気になっていただく。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の温かさ、人と人とのつながりの大切さを学ぶ。 ・地域活動に携わり、地域への関心、愛着を深める。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>和歌山県シニアマイスター（谷口 昌氏）・長野公民館・みやご会</p>				
<p>取り組みの経過（日時・ねらい・活動内容等）</p> <p>・伏菟野地区のシンボルであるホタルについて親しみをもつとともに、地域の方からその生態や飼育方法を学習し、ホタルを守り育てる意義を理解する。さらに、これらの活動を通して地域の自然全般への関心と探究心を高め、自然環境を大切にしようとする心を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月20日（月） 13:50～14:35 第1回ホタル学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの種類とその生態に関するお話（理科室にて） ・6月12日（木） 13:50～14:35 第2回ホタル学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタルの飼育方法の学習と採卵装置のセット（理科室にて） ・6月26日（木） 13:50～14:35 第3回ホタル学習 <ul style="list-style-type: none"> ・カワニナの餌づくりと餌やり（理科室にて、その後自然観察園） ・7月3日（木） 13:50～14:35 第4回ホタル学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ふ化直後の幼虫観察と幼虫飼育箱のセット（理科室にて、実体顕微鏡使用） ・12月11日（木） 13:50～14:35 第5回ホタル学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ホタル幼虫の放流（理科室にて、実体顕微鏡使用、その後自然観察園） 				

	成 果	課 題
学 校	・「ホタル学習」を通し、自然や環境を大切に する気持ちを育むとともに、かけがえの ない命の大切さに気づくこともできた。ま た、大勢の方が協力し合いながらホタルを 守っていることに気づくこともできた。	・講師の方が高齢化にともなう体調不良のため、 今年度をもって「ホタル学習」の指導を終了す る。そのため、今後は、地域のホタルの取組に関 わっている「みやご会」や公民館と相談しながら、 講師の後継者探しと「ホタル学習」自体の在り方 について検討していくことが必要である。
* 子ども にとって	(感想より)・学習を通し、幼虫が百足みたくカワ ニナを溶かして食べる肉食だったことを知りました。 幼虫の姿を知り成虫のホタルはますます美しく見え ました。環境についても勉強になりました。ホタルは 死ぬことで川などが汚れていることを知らせてくれ ます。日ごろから環境について気をつけようと思 います。	・長年講師を務めてくださった「ホタルおじさん」こと谷口さん と子どもたちとの結びつきは深く、今年度で「ホタル学習」の 指導を終えることは、子どもたちにとってもたいへん残念な ことである。
* 子ども にとって	・地域活動にもよく参加し、地域の人々とのふれあ いが日常的なものになっている。 ・ホタル学習を通じ、地域の一員という自覚が育ま れている。	・学びを通じて、自分たちができることを考え、行動できるよ うになる。 ・地域の一員として、地域の将来を考えることができるよ うになる。
地 域 (公民館)	・地域と学校、地域と子どもたちが一体と なり、様々な取り組みを進められている。 ・将来を担う子どもたちが、地域のシンボ ルであるホタルへの関心を深め、また自 然の大切さを学ぶことができた。	・講師に関することも含め、今後のホタル学習の 在り方を学校とともに検討していきたい。 ・学校・地域の様子に記されているとおり、学校 が地域の生活の一部となっている。体制を維持 しつつ、地域の実状を見つめながら、地域活動 の在り方を検討していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

・6月初旬に行われるホタル鑑賞会「伏菟野ほたる鑑賞の夕べ」には、児童も職員も積極的に参加し、地域の方々と一緒に鑑賞会を盛り上げる一端を担っている。「ホタル学習」で育てた幼虫も自然観察園に放流しているため、自分たちの育てたホタルも飛んでいるという喜びを味わうとともに、地域の活性化に向けた取組に参画しているといった一体感を味わうことができ、児童たちにとっても有意義な取組となっている。

(次年度への取組)

・地域の特徴の一つでもある「ホタル学習」を継続していけるよう、講師の後継者となる方をさがしたり、学習内容の見直しを行ったりしながら、今後も公民館や「みやご会」との連携を密にしていく。

学社融合活動実施報告

学校名	咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がPTA準会員として物心ともに協力してくれ、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしている。地域の祭礼では児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子どもを育てていこうという土壌がある。みふくし学習(ふるさと学習)を学社融合の柱として、生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心に地域の自然や文化、歴史について地域の人・もの・ことから学び地域にかえしていくことを目指している。</p>			
活動名	学校開放の日	学年・教科・領域等	全学年・生活科、社会科、総合的な学習の時間等
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見てもらい一緒に活動することで、地域の方々を知り地域とのつながりを深める。 ・地域の方の協力を得て、学校だけではできない学びや活動を行う。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見たり、ともに活動したりすることで、学校や児童の様子を知る。 ・地域の方々の交流や活躍の場をつくることで、地域の活性化を図る。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>公民館、老人会、学校地域連携推進会議、保護者、田辺人権擁護委員会田辺部会、西牟婁振興局林務課、エビとカニの水族館、柳瀬保育園</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>11月12日「学校開放の日」</p> <p>学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方とともに学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校開放の日」を設定した。校区全戸に案内を配布するとともに、保護者と学校地域連携推進会議、老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は保護者、地域住民あわせて約80名の参加があった。</p> <p>①授業公開 各学級、国語・算数・理科の授業を公開し、保護者や地域の方々に参観していただいた。</p> <p>②親子木工教室 地元の林業家、真砂典明さんを講師に親子木工教室を開催した。地元の産業である林業や身近にある森林、木材等について学び、木を材料にのこぎりや金槌を使って4～6年の児童各自ひとつずつ花台を完成させた。保護者だけでなく地域の方も児童の作業を手伝ったり教えたりしてくれた。</p> <p>③むかしのあそび 1・2年は生活科、3年は社会科の学習として、高齢者学級や老人会を中心とした地域の方々に昔の遊びを教えていただいた。ななこ(お手玉)、まりつき、かごめかごめ、独楽回し等、グループごとに遊びを体験させてもらった。最後に、地域の方とともに「いろはかるた」を楽しんだ。</p> <p>④花の苗植え・「人権の花・紙風船」打ち上げ 2・3年生が地域の方の指導により育てた苗を、地域の方々と一緒に学校の花壇やプランターに植えた。その後「やさしさや思いやりの花が広がりますように」との願いを込め、地域の方が見守る中、集会を開いて4・5年生が育てたヒマワリの種を紙風船に入れて飛ばした。</p> <p>⑤巡回水族館 海の生き物とのふれあいやウニ、ヒトデをつかった実験等を「エビとカニの水族館」の協力を得て実施した。地域の保育園にも呼びかけ、年長児が学校を訪れた。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園児から高齢者まで大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができた。地域との一体感が得られた。 ・木工、むかしのあそび、苗植え等、地域の方の技術があつてこそその学習や、大勢の大人の助けなしにはできない学習・活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動を一日に凝縮したため、準備や運営が大変だった。しかし、一日にまとめたから参加しやすく大勢の方が来てくれたという面もある。どのようにして無理なく多くの方々に学校へ足を運んでもらうか、地域の方にとってもプラスとなるような活動をしていくか、日程や時間設定も含め考えていく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から木工を教わり質の高い学習ができた。また、保護者や地域の方々の助けやアドバイスを得て難易度の高い作品を完済させ満足感が得られた。 ・昔の遊びを教わり一緒に楽しむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから地域に発信したり働きかけたりするような、子どもが主体となる活動も考えていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ともに活動してくれる大人がいることで、地域に見守られ支えられているという安心感が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな活動を一日に凝縮したので慌ただしい感じがした。もう少しゆったりと大人と子どもが触れ合うゆとりがあつてもよかった。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や児童の様子を知ることができた。また、木工技術や遊びなど、微々たるものではあるが「文化の継承」につながる活動ができた。 ・教えたりともに活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、大人同士がつながるきっかけにもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が固定化してきている。いかにして参加者の幅を広げ地域全体の活動にしていけるか考えていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

「学校開放の日」は学校や地域の年間行事として定着しつつある。来年度は咲楽小学校統合10周年なので、今年度の成果と課題をふまえ、「みふくし学習」を意識し児童が主体的に取り組めるような内容を工夫して、日程等も熟考し、より多くの方に学校の様子を知ってもらうための機会にしていく必要がある。今後も学校と地域双方にとって無理のない形で、互いのプラスになるような「学校開放の日」の取り組みを続け、さらに学校と地域を結びつきを強めていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館
<p>学社融合における学校・地域の様子 本校は、地域の諸団体及び敬老会などの地域住民との交流、地域の人材や施設の活用、また、地域活動への参加をとおして、教育目標の達成に努めている。今までの取り組みにより、学校への協力や支援体制にも広がりが見られるようになってきた。今後もお互いの専門性を生かしつつ、学校が地域住民の活動の場となり、生き甲斐の場となるよう公民館とも協力して様々な活動に取り組んでいる。</p>				
活動名		親子人権学習会	学年・教科・領域等	全校児童・道徳・生活科・総合
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者、地域住民が台風12号の体験談を通して、自分の命を守る防災教育と命の大切さについて学ぶ機会とする。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域をつなぐ手段として、地域人材や地域の諸団体の情報を学校に提供して頂き、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。 ・学校と地域や地域住民同士のつながりを深める活動や生き甲斐づくりを支援する。 		
<p>支援者及び支援組織 龍神公民館・龍神公民館中山路分館</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取り組みとしては、学校ができること・できないこと、地域ができること・できないことを意識し、学校力と地域力で子どもを育てる学社融合を目標に取り組んだ。今年度は初めての取組として公民館とタイアップし、地域の講師を招聘して児童・保護者・地域住民合同による人権学習会を開催した。 10月10日(金)親子人権学習会 (対象)全校児童・保護者・地域住民 (ねらい)公民館と学校がタイアップし、地域の教育力を活用して学校・保護者・地域住民合同の防災教育と命の大切さを学ぶ機会とする。 (活動内容)台風12号の体験談を通して、自ら身を守る防災教育と命の大切さについて、児童・保護者・地域住民の学習会を行った。 (支援者)龍神公民館・龍神公民館中山路分館</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館と協賛した運動会種目に加え、地域行事への児童の参加をとおして、学校との協力関係が深まった。 ・学校ができることと地域の方ができることを意識し、単にゲストティーチャーに教わるだけではなく、学校でも学習し、地域の方からも学ぶ学校力と地域力で子どもを育てる取り組みが持てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の高齢化が進み、講師の人選や今までの活動内容の見直しが必要になっている。村の人口減少もあり、校区にこだわらず村内からの講師招聘を公民館と協力して行う必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・事前と事後学習に学校でも取り組むことで、興味関心がわき、地域の方の体験談をとおして、命を守る防災教育と命の大切さについて学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後の取り組みが大切であるので、自主的な学びを促す事前学習を計画し、事後は学習したことを振り返る取り組みを今後も企画したい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から学ぶ機会をもうけることが子ども達にとっても大切な体験であり、このことをとおして、地域の一員としての自覚と地域の方に見守られていることを感じる機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験談をとおして防災についての意識を高めることができた。今後は、地域防災への参加など地域の一員としての自覚を持たせる取り組みを継続したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中から講師を人選していただき、公民館だよりに掲載していくことで、学校と地域、学校と公民館、公民館と地域の結びつきが強くなった。 ・地域の行事へ職員や児童が参加することで地域との親密なつながりを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館が主催する地域行事への参加や地域の施設訪問、地域探検の機会を持ち、地域学習に今後も取り組みたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

- ・公民館とタイアップして親子人権学習会を共同で実施することで、地域が一体となって防災教育への意識の向上と命の大切さについて学ぶ機会とすることができた。
- ・公民館だよりに掲載していくことで、地域の方の参加を得ることができ、地域防災についての学習の場となったと考える。
- ・事前の講師との打合せ、学校での事前指導と事後の振り返り学習により、発達段階に応じて学習の定着が図れた。また、児童の感想やお礼の手紙に対して、講師が再度来校され、児童への言葉掛けをいただくなど、児童と講師とのつながりも深まった。

(次年度に向けての取り組みの方向)

- ・学校ができること、地域ができることを意識して、学校と地域の教育力で子ども達を育てる学社融合を旨としたい。
- ・地域住民の高齢化等により、講師の人選などが困難になることが予想できるため、公民館とより協力して取り組みを進める必要がある。

学社融合活動実施報告

学校名	上山路小学校	公民館名	龍神公民館・殿原分館・東西分館・宮代分館												
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>統合後6年目を迎える本校は、区、公民館分館、婦人会、高齢者学級、老人クラブ、自主団体等に支持され学社融合を図ってきた。平成24年度から3年間、田辺市教育委員会より「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」というテーマで研究指定をいただき、発表年である今年度は学校、公民館、3分館がより一層連携し、学校と地域が一体となって学社融合を進めた。</p> <p>本校では、地域と繋がるために学校地域連絡協議会を組織し、共催の事業を行ったり子どもの現状について話し合ったりしている。また、公民館とPTAとで学社融合推進委員会を組織し、学社融合の授業や取組を進めるために具体的協議を進めている。</p>															
活動名	地域交流体験	学年・教科・領域等	全学年・生活科・総合												
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を中心に地域との交流を図る。 ・昔から伝わる遊びや伝統的な物作りについて学習し、地域に住む人の思いに迫る。 ・挨拶や言葉づかい等、適切な応対ができる態度を養う。 													
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動を通して、子どもとふれあうと共に学校教育への理解を深める。 ・地域の方々が交流する機会を提供する。 													
<p>支援者及び支援組織</p> <p>龍神公民館・宮代地区・東西地区・丹生ノ川殿原地区・上宮代ふれあいクラブ・殿原老人クラブ・丹生ノ川はてなしクラブ・あけぼの学級・せいじゅ学級・宮代和の会</p>															
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○活動の概要</p> <p>例年、それぞれで行われていた交流体験であるが、今年度は学社融合研究発表会において一堂に会して行うことを決定し、公民館の取組として位置付ける。公民館が地域の団体と交渉をし、地域の方々の移動や準備物についても企画する。</p> <p>○日時</p> <table border="0"> <tr> <td>4月15日(火)</td> <td>学社融合推進委員会</td> <td>(公民館がコーディネーター役となることを決定)</td> </tr> <tr> <td>4月21日(月)</td> <td>学校地域連絡協議会</td> <td>(今年度の学社融合事業について協議)</td> </tr> <tr> <td>9月1日(月)</td> <td>学校地域連絡協議会</td> <td>(地域交流体験について協議)</td> </tr> <tr> <td>11月9日(日)</td> <td>地域交流体験</td> <td>(昔の遊び体験・干し柿作り体験・藁草履作り体験)</td> </tr> </table> <p>○活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 昔の遊び体験(上宮代ふれあいクラブ・あけぼの学級・せいじゅ学級) <ul style="list-style-type: none"> ・1,2年生が活動する。 ・おはじき、お手玉、コマ回し、ウラジロ飛ばしを班ごとに指導していただき、体験する。 2 干し柿作り体験(殿原老人クラブ・丹生ノ川はてなしクラブ) <ul style="list-style-type: none"> ・3,4年生が活動する。 ・図工科で削った竹串に、むいた柿を差して、伝統的な保存食である干し柿を作る。 ・昔の話を聞く。 3 わらぞうり作り体験(宮代和の会・あけぼの学級) <ul style="list-style-type: none"> ・5,6年生が活動する。 ・1学期から地域の方の指導で行ってきた米作りの発展として、その藁を使ってぞうりを製作する。 				4月15日(火)	学社融合推進委員会	(公民館がコーディネーター役となることを決定)	4月21日(月)	学校地域連絡協議会	(今年度の学社融合事業について協議)	9月1日(月)	学校地域連絡協議会	(地域交流体験について協議)	11月9日(日)	地域交流体験	(昔の遊び体験・干し柿作り体験・藁草履作り体験)
4月15日(火)	学社融合推進委員会	(公民館がコーディネーター役となることを決定)													
4月21日(月)	学校地域連絡協議会	(今年度の学社融合事業について協議)													
9月1日(月)	学校地域連絡協議会	(地域交流体験について協議)													
11月9日(日)	地域交流体験	(昔の遊び体験・干し柿作り体験・藁草履作り体験)													

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に子どもたちの様子や学校について知っていただく機会となった。 ・公民館がコーディネートすることで、地域との交渉がスムーズになり、学社融合をより効果的に行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の年齢が高くなり団体の存続も危うくなってきている中で、取組をいかに継続していくか。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を深めることができた。 ・日常生活においても、地域の方々と交流しようとする心情が芽生えつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体となって交流内容を企画できないかを考える。 ・積極的に高齢者とコミュニケーションが取れる児童の育成。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者交流を通して、広い上山路地区としての地域理解が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身ではなく、より積極的に地域と関わろうとする心情や態度を育てる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通して、学校と地域の結びつきを深めることができた。 ・地域の方々交流する機会を提供することができた。 ・地域団体の枠を超えて活動、交流する機会を提供できた。 ・公民館主事、分館長を中心とした学社融合の授業作りを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性のためには学校を中心とした取組が有効であるが、いかに継続していくかが課題である。 ・公民館は龍神地区で一つなので、このような取組を全体で行うことは難しい。より分館の力が求められる。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

公民館主事を中心とした取組とすることで、学校が主体でなく地域を主体とした取組にすることができた。学校にとっては、授業であるゆえに教師が主となるべきではあるが、今回学社融合推進委員会で十分話し合い、公民館が積極的に動く体制をとれたことで、負担が大いに軽減できた。地域にとっても、上山路全体が交わる機会となり、学社融合という双方が生きる活動ができたのではないかと考える。

○次年度に向けての取り組みの方向

今年度、このような取組ができたのは、学社融合研究発表という機会をいただいたことによるが、この研究を推進していく中で「学社融合推進委員会」という核となる組織を立ち上げることができた。広範囲に及ぶ龍神を一つの公民館で統括していかなければならないという問題はあるが、学校と公民館がより話し合いをもち、地域を活性化できる取組を考えていく必要があると考える。



学社融合活動実施報告

学校名		龍神小学校	公民館名	龍神公民館 龍神分館
<p>学社融合における学校・地域の様子 龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。「ダイヤモンドを磨くのはダイヤモンドである。人を磨くのもまた人である」という共通認識の下、児童を地域で生活する様々な方々と触れ合わせることで、児童も地域の方も元気になっている。 保護者や地域の方は、学校の教育活動にたいへん協力的である。運動会はもとより、様々な学校行事、授業に地域の方が学校を訪れる。</p>				
活動名		龍人学を通して元気な人を育てる	学年・教科・領域等	全学年・5年生 総合・生活・社会・学校行事他
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことにより、子どもの様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。 ・学校と区民の交流・連携を深め、児童の健全な育成を図る。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと触れ合うことにより、元気になる。 ・学校との連携を図る活動を通して、地域で子どもたちを育てようとする態度を育てる。 		
<p>支援者及び支援組織 龍神農園(信貴 久敬氏) 濱口孝夫・濱口イツ子夫妻 龍神公民館龍神分館</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 昨年度は人との触れあいを通して、元気な児童を育てる取り組みを行ってきた。今年度は農業体験活動を通して、自然を学び、人と触れあう取り組みを行った。</p> <p>1 ヤーコンの収穫 10月15日 対象 全校児童 ヤーコンは南米アンデス高地原産の根菜である。数年前から、龍神地区在住の信貴さんが龍神の風土にあったこのヤーコンを育てている。龍神村の特産物にしたいという思いから、「龍神ヤーコン」と名付けている。3月中旬に植え付けていたヤーコンを全校で収穫した。初めてのヤーコンの収穫に、子どもたちは歓声を上げた。収穫したヤーコンは、自宅に持ち帰ったり、給食でかき揚げにして食べた。</p> <p>2 米作り 対象 5年生 地域の方に指導・支援していただきながら、米作りについて調べ、米作りを体験した。濱口さんが子どもたちのために選んだ品種が、味が最高で作りやすく、特に進物に大変喜ばれる「初恋の味」であることから、児童はもみまきの時からどんな味のお米ができるのか、大変楽しみにしていた。収穫したお米を使って、家庭科で調理実習をし、米作りの指導をしてくださった濱口さんを学校にお迎えし、お礼の昼食会を開催した。濱口さん夫妻を囲んで、児童は、4月からの米作りを振り返りながら、感謝の気持ちを一人ひとり伝えた。</p>				
				
				
				
				
<p>4月22日 もみまき 4月28日 稲の観察 5月 7日 稲の観察 5月20日 田植え 6月16日 稲の観察 9月 3日 稲の観察 9月10日 稲刈り 9月18日 脱穀 10月15日 精米 11月 6日 調理実習(ご飯・味噌汁他)とお礼の昼食会 12月 1日 学習発表会で米作りの取り組みをまとめ掲示する。(模造紙8枚)</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の方との関係がより密度の濃いものとなった。 ・農業体験活動を通して、農業に関わっている地域の方々の工夫や思いを知ることができた。 	昨年度の課題でもあったが、地域の方と教職員が、取り組みについて、共に反省する時間を十分にとることができなかった。
* 子どもにとって	龍神地域のいろいろな方々が、龍神村を盛り上げるために様々な取り組みをしていることを知ることができた。自分たちが育てたお米やヤーコンを食べることで、自然の恵みを感じることができた。	取り組みを通して、新しい学習課題を見つけさせる機会を持つことができなかった。
* 子どもにとって	地域の方が自分たちのために、さまざまなことをしてくれていることを知り、感謝の気持ちを持つことができた。	感謝の気持ちを伝える方法を更に考えていくことが必要である。
地 域 (公民館)	地域の方が、学校教育に興味・関心を持ち、地域で子どもたちを育てようという気持ちが育った。	学校教育に協力していこうとするグループを作っていく必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

今年度は農業体験活動を通して、自然や人と触れあうことができた。「龍神ヤーコン」の収穫では、児童は、初めてヤーコンを収穫する喜びと感動を味わうことができた。龍神村を活性化しようとする信貴さんの存在にも気づくことができた。


米作りの取り組みでは、濱口さんのきめ細かな配慮により、子どもたちが半年あまりの米作りに主体的に取り組むことができた。学習発表会での米作りの取り組みのまとめが、体育館の壁面いっぱいであったことからこの取り組みが、児童にとって実り多いものであったことがわかる。5年生担任が濱口さんとの打ち合わせを密にしたことで、児童の体験活動が主体的なものとなった。



(次年度に向けて)

- ・本校での農業体験活動を整理し、地域の方の支援・指導がより効果的なものになるように考えていく。
- ・取り組みが終わってから、新しい課題を発見させるよう工夫することが必要である。

学社融合活動実施報告

学校名		中辺路小学校	公民館名	中辺路拠点公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの良さを知り、ふるさとを誇りに思う子どもの育成を図るふるさと学習を核に、学校・保護者・地域が一体となった学びの町作りを目指し活動を続けている。 ・開かれた学校を心がけ、様々な行事を通して地域の方々に学校を訪れていただき、子どもたちが頑張っている姿を見ていただけるよう努めている。 ・6年間の中辺路ふるさと学習を策定し、地域の支援を受ける学びの体制作りに取り組んでいる。 				
活動名			学年・教科・領域等	生活科・社会科・家庭科・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と共に学び、地域に親しみをもつことができる。 ・ふるさと中辺路に愛着をもち、その良さ、魅力を発信することができる。 ・地域の方々に協力参加していただくことにより、学校と地域の関係を密にしていく。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの支援者として、地域の教育人材の発掘と学校支援の拡大を進める。 ・地域の子を学校と共に見守り育てる教育の基盤を深めていく。 ・地域の方々に、学校と公民館が協力し合って教育活動を進めている取り組みを紹介していく。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>学習支援者(AT:エリア・ティーチャー)・・・地元在住の旧小学校卒業生・地元女性会・福祉協議会・老人会等</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と共に学び、地域に親しみをもつことができる。 <p>【活動内容】(11月の取り組み)</p> <p>4日 [芸術鑑賞] 中辺路町内4校・栗栖川保育園が集まり、ともに中国の影絵を鑑賞した。</p> <p>6日 [ふるさと遠足] 校区内の熊野古道を地域の語り部の方と一緒に歩き、いろいろなことを教えていただいた。</p> <p>11日 [収穫祭] 縦割り班活動で、老人会の方々とともに植えて収穫したサツマイモで焼き芋作りをしたり、老人会の人たちとグラウンドゴルフをしたりした。最後に焼き上がった芋を一緒に味わい、1日交流することができた。</p> <p>14日 [人権教室] 地域の人権擁護委員さんに来ていただき、「勇気のお守り」という教材を使って、授業をしていただいた。</p> <p>18日 [親子給食会] 子どもたちの給食の様子を見ていただき、いっしょにその日の給食を食べてもらった。</p> <p>18日 [保護者学級] 青少年センター職員を講師として招聘し、「情報モラルについて」インターネットや携帯等の被害について、研修を行った。</p> <p>19日 [学校評議委員会] 子どもたちの日頃の様子を見ていただき、感想を述べていただいた。</p> <p>28日 [焼き物教室] 高学年を対象に湯飲みやお皿などを作る機会をもつことができた。</p> <p>28日 [白百合ホーム訪問] 旧二川校区にある老人ホームを訪問し、お年寄りと交流を図った。</p> <p>29日 [三味線練習] 地域の伝統である「子ども三番叟」の三味線につなげるため、またいろいろな曲をひくことができるように練習を行った。</p> <p>29日 [高学年読み聞かせ] 地域の読み聞かせサークルの方に読み聞かせをしていただいた。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、郷土を学習の軸に、支援者とともに発展的に深めることができた。 ・中辺路の歴史・文化・自然について学び、「ふるさと中辺路を誇りとする子」を願う、ふるさと学習の道筋が確立できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、支援していただいた方々のネットワークにより、地域全体に広がる支援者の参加体制を構築したい。 ・校区の多くの地域について、各学年、各年度の学習計画と地域人材をさらに明確にすること。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりがそれぞれ課題を見つけ、ふるさと学習に取り組む上で、学習支援者のおかげで、深まりのある学びができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の視野の広がりを、ふるさと学習を通してどのように拡大していくか。 ・児童の自主的な活動や地域と結びついた学習活動を工夫していく必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にすむ人たちから、分かりやすいアドバイスを受け、地域の先生をより身近な存在として実感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区に多くの集落があるが、年間授業時数の関係で学習の対象となる地域が限られるため、6年間を見通した計画が必要となる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統や文化など様々な資源を学校の教育の場において、効果的に活用できた。また、これらの地域の資源や人材の発掘につながった。 ・学校と公民館が連携し、保護者、地域の多数の協力、支援により、共育コミュニティ本部事業を盛会に実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は、学校と地域人材の橋渡し役として地域人材の情報をつかみ、人材確保に努めること。また、さらに多くの地域の人材ネットワークを広げていくことが大きな課題である。 ・学校と公民館がより連携を深めていくこと。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・地域の人々のふるさとによせる思いや学びの深さを実感でき、郷土について再認識できた。
- ・旧二川小学校の運動場を利用し、地域の方々と交流する機会をもつことができ大変良かった。
- ・年間を通じた取り組み提示や支援者希望の学校発信をしっかりと行い、公民館と一層のつながりを深める。
- ・今後の取り組みの方向として、中辺路共育コミュニティのメインテーマ「学びの町 中辺路ともに育み ともに育つ」の方向性のもと、ふるさと学習を継続していく。



学社融合活動実施報告

学校名		近野小学校	公民館名	中辺路公民館 近野分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての諸行事の中で、保育園、小中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事(区民体育祭・近野まるかじり体験・近野フェスティバル・文化祭・近野山間マラソン等)を運営していくことで学社融合の取り組みを進めている。特に、JA女性会、近野獅子舞団、近野振興会、中辺路森林組合との交流が盛んである。 ・地域の方々は大変協力的で子どもたちとも積極的にふれあってくれる。また、そのふれあいを楽しみにして喜んでくれている。今後もさらに、地域や公民館との連携を充実させ、学社融合を深める取り組みを進めていきたい。 				
活動名		～近野のお宝伝承～「道中を伝える」	学年・教科・領域等	全学年 生活科・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化を学習することで、郷土に誇りを持ち、文化を継承しようとする児童を育てる。 ・地域の方と触れ合うことで、地域の方々のふるさとの思いや自分たちに込められた期待を知る。また、上学年が下学年に学んだことを伝える活動を通して仲間意識の向上を図る。 ・学社融合を推進し、学校・家庭・地域の教育力の向上を図り、特色ある学校づくりに努める。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の伝統や文化・自然環境などを大切に、学校と地域の各種団体や協力者と連携しながら子どもたちと地域住民の交流を深め地域の活性化を図る。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近野獅子舞団 ・近野振興会 ・近野まるかじり体験実行委員会 				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○6年前から県指定無形文化財「野中の獅子舞」の近野小学校版「道中演舞」を行っている。7年前に、地域の横笛作りの名人から譲り受けた50本あまりの笛を活用しようということから、地域の近野獅子舞団の方に協力頂き、笛と太鼓の練習を始めた。中学年と高学年は横笛と太鼓で「道中」を演奏し、低学年は獅子舞(頭は3年生男子)で創作舞を舞う。</p> <p>○本年度の練習日程と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇5月16日 6限 ◇5月16日から11月23日までの隔週金曜日 <ul style="list-style-type: none"> ・近野獅子舞団の方々に来ていただき、横笛や太鼓を教えていただく。(3～6年) ・全学年の児童に見せたり、一対一で教えたりしながら、伝えていく。(3～6年) ◇発表前日の練習日9/26 10/31 11/12 11/22) <ul style="list-style-type: none"> ・近野獅子舞団の方に野中の獅子舞「道中」の発表の練習を見て、指導していただく。(1～6年) ◇5月～11月までに全校合同で練習時間をとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・上学年の児童が下学年の児童に見せたり、一対一で教えたりしながら伝えていく。(1～6年) 				

	成 果	課 題
学 校	・県の無形文化財に指定されている郷土の伝統文化「野中の獅子舞」を支える近野獅子舞団の方々から指導を受け、横笛・太鼓の練習を重ねることは、郷土を愛する態度を養い、文化を継承していく大事な取り組みとなっている。	・取り組みを続ける中で、横笛の不足を感じている。地域に呼びかけるなどの対応をしているが、今後更に横笛の確保が難しい。 ・昼間にかなりの回数で指導に来て頂かなければならないため、獅子舞団の方に負担を掛けている。
* 子どもにとって	・伝統文化の継承ということで、地域の期待や応援を頂いている。そのため、子どもたちは自信を持って取り組み、達成感を味わうことができている。	・児童数が減少する中で、一人の役割が大きくなっていくため、不測の事態に対応しきれなくなり、子どもの負担増になることもある。
* 子どもにとって	近野区民体育祭などの地域を挙げての行事に参加し、地域の多くの皆さんと交流することができた。	今後も地域の伝統や文化を地域住民の方々から学び、子どもたちの学習に役立てていきたい。
地 域 (公民館)	近野区民体育祭をはじめ、近野フェスティバル、近野まるかじり体験イベントなど地域をあげての活動を学校と公民館が一体となって実施していくことにより、地域との融和と活性化が図れた。	学校の様々な行事を通じて校区である近露・野中地域の住民との交流やコミュニティ形成が図れるよう、継続的な取り組みを行っていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・9/27 近野地区の敬老会に依頼を受け「近野小道中演舞」を披露。地域のお年寄りの方々に大変喜んで頂いた。

・11/3 地域のお祭り「近野まるかじり体験祭り」に、職員も実行委員の一構成員となり、学校の授業として全員参加し、「道中演舞」を披露した。また、当日は、近野獅子舞団の方々とのコラボレーションも行うことができた。お祭りに来ている他地域の方々や地域の方に見て頂く。

・11/13 「郡市音楽会」にて「近野小道中演舞」を披露。

・11/23 「近野フェスティバル・文化祭」にて「近野小道中演舞」を披露。地域の方々に見て頂く。

○地域の獅子舞団の方々にご指導頂く中で、輝く地域の大人の姿に触れることができたり、自分たちの発表を見て喜んでくれる地域の方々の温かい思いに触れたりすることができた。

○伝統文化の継承ということで、地域の期待や応援を頂き、児童の自信や達成感を育てることができている。

☆児童数が減少する中、難しい面もあるが、できる限りこの取り組みを続けていきたい。また、現在は小学校6年間の取り組みだが、中学校とも連携し、9年間の取り組みとしていくことができればと考える。



学社融合活動実施報告

学校名		鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>大塔地域では3年間の田辺市指定研究を受け、大塔地域共育コミュニティ事業を立ち上げた。本年度はその初年度として、地域の指導者に学校に入っただき、学社融合の取り組みを行っている。昨年度から引き続いて、5月には共育ミニ集会と題し、地域の方々に学校をお呼びして、年間の学校行事について説明するなど、交流を図った。主な学社融合の取り組みとして、低学年では「昔の遊び」、中学年では「昔のくらし」「鮎川の偉人」、高学年では「語り部学習」「福祉学習」「ミシンサポーター」などを実施し、地域の方々と触れ合い、学び、交流している。また、消防署と連携を行い、「着衣泳」「起震車体験」などの防災学習も行った。年度末には、再度共育ミニ集会を行い、本年度のまとめと次年度に向けての交流を行っている。</p>				
活動名		語り部学習	学年・教科・領域等	5年 総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の指導者を招き、熊野古道が通っている地元の歴史や文化、先人の知恵について学習する。 ・地域の方々に分かりやすく伝えられるような語り部発表を行う。 		
	(地域公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって、地域住民との交流の機会とし、心豊かな子どもを育むとともに、学びを通して郷土を愛する子どもたちを育む。 ・地域では、「地域の子どもは地域で育てる」といった意識、環境づくりを更に推し進め、地域力を高めていく。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>小学校、公民館、地域ボランティア</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>				
【日時】	【ねらい】	【活動内容】		
4月23日	大塔の歴史を知る	熊野古道について調べる		
4月30日		調べたことを発表する		
5月13日		調べて疑問に思ったことを各自調べる		
5月28日		校区内の熊野古道について調べる		
6月4日		校区内の熊野古道で現地学習を行う		
6月11日		グループに分かれて、地元の王子について調べる		
6月26日	語り部に挑戦する	語り部の練習を行う		
7月2日		語り部に挑戦しよう(学習発表会)		
11月23日		語り部DVDを作る		
1月	語り部を伝え、つなぐ	語り部DVDを作る		
2月		4年生に語り部を行う(現地で)		
				
語り部学習		学習発表会		

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や先人の知恵を学ぶことで、郷土を愛する心を育てるよい機会となった。 ・計画的に授業を展開し、地域の指導者に入っていたことで、学習の意図、ねらいを共通理解しながら進めることができた。 ・学習発表会で語り部学習の成果を披露することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年かけて取り組んできた語り部学習を4年生に伝え、次年度からより深化した取り組みを模索していくこと。 ・今後も継続していくために、資料の整理、保管を行っていくこと。 ・ふるさとのよさを児童に教えることを通して、保護者や地域の人にも知ってもらうこと。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や先人の知恵を学ぶことができた。 ・地域の指導者から世界遺産である熊野古道について学び、自分たちの住む地域を誇りに思うよい機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が意欲的に取り組むことができていたのか、また、発表を通してコミュニケーション能力の高まりが見られたのかを検証していくこと。 ・中学生の英語での語り部の発表とのつながりを深めること。(相互発表の場面設定)
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・語り部学習(地域学習)を通して、地域の文化、歴史についての関心や理解度が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを通して地域を知っていく過程で、自分たちの郷土を愛し、他の地域の人たちにも自慢できるようにつなげていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに、自分たちの知っている地域の文化や歴史、言い伝えなどを伝えることに喜びを感じている。 ・子どもたちの元気でかわいい笑顔に接することで元気をもらうとともに、地域における役割の一つとしての活動ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の素晴らしい文化、歴史などを次世代に伝えるとともに、その活動を通して地域の大人たちも自身の生きがいがづくり、地域づくりにつなげていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○今年度の評価

鮎川地域には熊野古道が通り、史跡なども多く残っている。児童は登下校中にそれらを目にはしているが、それがどのようなものなのかを知る児童は少なかった。今回の学習を通して、それぞれの史跡がいつ頃建てられたもので、どのような歴史や文化があるのかを学ぶことができた。


また、地域の指導者には公民館職員とともに副読本や写真、パネル作りとたくさんの教材を作っていた上、職員の現地研修でも大塔地域のことについて分かりやすく説明していただいた。更に、他学年も含め、何度も授業に入って下さり、様々な面で学校のサポートをしていただいた。語り部学習では5年生と一緒に熊野古道巡りをして、歴史や文化について児童に詳しく説明して下さるなど、多くの支援をいただいたとともに交流を深めることができた。

○次年度に向けての取り組みの方向

3年間の田辺市指定研究を受けた初年度の取り組みの課題として、授業に参加してもらう地域の指導者が固定化しているという実情が挙げられた。次年度は公民館との連携をさらに深め、地域指導者の広がりを図り、様々な場面で、地域の方々の協力が得られるよう、学社融合の取り組みを広げていきたい。

また、次年度からは三川小学校との学校統合があるため、三川地域のよさも伝えていける学社融合の取り組みを展開していきたい。

学社融合活動実施報告

学校名		三川小学校	公民館名	大塔公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校は、小規模校でありかつ全校児童が児童養護施設から通学しているという実態から、多様な人間関係を培うためにも、学校行事のみならず日々の教育活動においても、地域の方々の協力を得て進めている。地域にある障害者支援施設「あすなる木守の郷」や高齢者の福祉施設、児童養護施設等との連携はむろんのこと、大塔地域共育コミュニティ事業の観点からも大塔地域全域で共通課題を持って学社融合を進めている。特に今年度は、共育コミュニティの柱の一つでもある「ふるさと学習」を核に据え、大塔三川地域の伝統や歴史、文化等について、各学年部でテーマを決め、調べたり地域の方に教わったりしたことをまとめあげた。成果物として、学校全体で「三川ふるさとマップ」に仕上げ、地域のお楽しみ会で発表したり「マップ」を地域の全戸に配布したりした。</p>				
活動名		ふるさと学習	学年・教科・領域等	全学年、生活科・総合的な学習・各教科・道徳・特別活動
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人や高齢者の方々と交流することで、地域の歴史や伝統、文化を学ぶ。 ・地域を始め広く多くの方々に児童の様子や発表を見ていただくことで、学校教育や児童への理解・協力並びに支援をいただく。 ・保護者や地域の方といっしょに取り組むことを通して、地域やふるさとを愛する豊かな心を培う。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにとって、地域住民との交流の機会とし、心豊かな子どもを育むとともに、学びを通して郷土を愛する子どもたちを育む。 ・「地域で子どもを育てよう」といった意識の更なる向上を図るとともに、子どもとの関わりの中で地域力を高めていく。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>三川小学校、三川小学校PTA、PTA・OB、大塔公民館、三川分館、三川地域振興推進会、区長会、交通安全協会、老人会、ボランティア協会、大塔あすなる会、三川郵便局、JA紀南、合川駐在所、道路委員、匠の会、三川連絡所他</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○たけのこ掘り(5/1) 1～4年生が、竹ノ平地区の山で竹の子ほりを体験する。</p> <p>○茶摘み(5/23) 全校児童が、竹ノ平地区で茶摘み、茶作りたいけんをする。出来上がったお茶は、11月の「三川地域お楽しみ会」で来場者にふるまい茶として提供する。</p> <p>○「匠の森」間伐体験(7/1) 関東地方の建設業者さんの組合「匠の会」が田辺市の製材業者さんとともに、日本の木材のよさを広めることを目的に取り組んでいる活動に全校児童で参加する。保平地区の山林にて、間伐を行う。</p> <p>○さつまいも掘り(11/6) 1～4年生が、木守地区の畑でサツマイモ掘り体験をする。同時に学校園でも栽培したイモを全校で収穫する。その後、収穫したイモを使って、校内で「焼き芋」を行う。</p> <p>○しめ縄作り(12/22) 地域の方からしめ縄作りを教わり、全校児童一人ひとりがしめ縄を手作りする。家へ持ち帰り飾った後、1月の鏡開きには再び持ち寄り、「どんど焼き」をする。</p> <p>○三川ふるさとマップ作り(1学期・2学期)(低学年) 地域にある郵便局やJA、駐在所など公共施設に出かけ、仕事調べを行い絵や文章にまとめる。</p> <p>(中学年) 三川の面川区に伝わる「大蛇伝説」について、現地に出向き地域の方に話を聞いたりその様子調べたりした。また、「三川鮎研究会」の方に教わり「鮎の放流」体験をしたり鮎の人工孵化や飼育について聞き取り学習を行い、ミニ新聞にまとめた。</p> <p>(高学年) 「合川ダム」や「殿山発電所」を全校で見学し、そこで聴き取ったり見たりしたことをまとめた。また「防災学習」として、平成23年に災害を受けた熊野地区について、前年度に引き続き見学したり地域の方に聴き取ったりしたことをまとめあげた。</p> <p>(全校の取組として) 各学年部のテーマにそって調べたことを絵や説明書を添えて「三川ふるさとマップ」(壁掛け版)(配布版)としてまとめた。11月の「三川地域お楽しみ会」で全校児童が学習した「ふるさとマップ」について説明したり配布版マップは、三川全戸に1月学校便りとともに配布した。</p> <p>○防災学習(12/16) 大塔公民館・地域の方を講師に迎え、防災に関する知識をクイズ形式で学んだり新聞紙スリッパを作ったりして防災に備える学習を行った。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が課題意識を持って、地域の特徴や文化等を体験を通して学ぶ事で今まで以上に地域に対して愛着や誇りを持つことができた。 ・地域の方々と交流を深める中で、児童の様子や学校の取組等について理解をしていただき、協力・支援をいただく機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度末をもって学校は閉校となるが、これまで積み上げてきた地域とのつながりやふるさと学習などについて、整理をしつつ継承していく。 ・大塔共育コミュニティ事業との連携等も活用しながら学社融合の取組を進めていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産物や歴史・文化などについて体験を通して学ぶことができた。 ・「三川地域お楽しみ会」の場で、成果物も含め自分たちの学習発表を参加者の方に見ていただき好評価を得たことで自己肯定感を持つことができた。 ・地域の方々との交流を深める機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の統合により、日常の生活圏と学校の生活圏が拡大される中、双方のつながりや交流を大切にしていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方といっしょに体験活動を行ったり聞き取り学習を行ったりすることで、地域の良さを再発見するとともに地域の方々からの支えや愛情を感じ交流がさらに深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催の「ふれあい教室」等も含め地域の取組にも積極的に参加し、日常での交流も継続していく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童とともに活動したり交流を深めることは、高齢化が進む地域にとって、日常生活における喜びや大きな活力となっている。 ・共育コミュニティ事業と関わって、地域人材バンクを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共育コミュニティ事業と連携した取組を積極的に進めていく。 ・来年度学校統合により、児童の日常生活圏と学校生活圏が広がるため、より有効的な地域とのつながりを模索していく。

評価及び次年度に向けての取組みの方向

・本校では、児童数が年々減少し、また今年度は全校児童が養護施設入所者ということから、人間関係の固定化を解消しより豊かな教育活動の展開を求めて、学校と保護者、地域も巻き込んだ教育活動を展開してきた。「ふるさと学習」を核とした学社融合の取組を進めることで、保護者並びに地域の方々や地域の関係機関、さらには地域在住でなくても縁のある方々から児童や学校教育への理解や支援・協力を得ているところである。さらに、今年度から「大塔地域共育コミュニティ事業」との連携が始まり、今まで以上に地域との繋がりが広がり教育内容も豊かになってきた。

・今年度取り組んだ「三川ふるさとマップ」の学習は、全校児童が学年部のテーマを持って地域に積極的に関わりまた地域からも協力・支援をいただき、さらに成果物としてマップを完成させ、「三川地域のお楽しみ会」で発表したりマップの全戸配布をしたりと発信・広がりのある取組ができた。

・来年度本校は閉校となるが、これまで行ってきた学習融合の取組を整理して、継承していきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		富里小学校	公民館名	大塔公民館・大塔公民館富里分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校校区は、全人口の約半数が60歳以上という高齢化が進んだ地域である。地域唯一の学校として、地域住民は本校の教育に対してとても協力的で、常に物心両面で協力・支援してくれている。6地区278世帯であるが、全校児童28名中、67%は過疎対策で建てられた住宅に住んでいて、校区内の3地区には小学生がいない。そうした中で、ふるさとを愛する子どもを育てるため、地域の方々や、諸施設・関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招聘したりすることで、ふるさと富里の自然や文化についての学習や地域の人々との交流を深めている。また、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している。</p>				
活動名		ふるさと学習	学年・教科・領域等	全校児童 国語科・生活科・総合・特別活動
目標	学校	ふるさと料理教室や俳句教室などで地域の方々に授業に参画していただくことで、ふるさとの文化や自然についての学習を深める。また、いっしょに活動することで、地域の人々との交流を深め、ふるさとを愛する子どもを育てていく。		
	公民館（地域）	子どもたちにとっては、地域のいろいろな人と交流をもつことで心豊かな成長と、学びを通してふるさに愛着をもち、地域住民との結びつきを強める機会とする。 地域住民にとっては、学校の授業に関わったり、各種行事に積極的に参加することで、地域の子どもたちと交流をもち、身近で子どもたちの成長を見守っていく。地域で子どもたちを育てていく。		
支援者及び支援組織				
大塔公民館・大塔公民館富里分館・各区長・とみさと保育園・富久寿会(敬老会)・あすなる平瀬の郷・大塔あすなる会・ふる里富里会・とみさと句会・JA紀南女性会富里支部・大正琴サークル 等 各団体の方々				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
【ふる里料理教室】講師：JA紀南女性会富里支部のみなさん				
<みそ作り>9月3日・5日 中学年				
<p>3年生の国語科「すがたをかえる大豆」の学習も兼ねて、みそ作りを体験させてもらった。茹でた大豆に食塩・米・麦・糶菌を加えることで、「みそ」にすがたをかえることを実感することができ、国語科の学習が深まった。</p> <p>JA女性会の皆さんが家庭用に作る時期に合わせて日程を組むことで、生活改善センターの設備を使わせてもらうことができ、出来上がるまでいっしょに保管してもらった。</p> <p>また、手作りのみそを使った料理を教えてもらい、いっしょに味わった。</p>				
				みそ作り
<こんにゃく作り>11月26日 高学年				
<p>こんにゃく芋からこんにゃくを作る方法を教えてもらった。</p> <p>こんにゃく芋・木灰から作った灰汁など、必要なものを前もって準備し、すぐに作業ができるようにしてくれていたため、完成後みんなで手作りのふるさとの味を試食することもできた。</p>				
【俳句教室】「とみさと句会」の皆さんとの交流				
<ul style="list-style-type: none"> ・低学年…俳句の作り方について教えてもらい、俳句作りを楽しむ。 ・中学年…句会の開き方について教えてもらい、句会の皆さんとともに俳句を鑑賞する。 ・高学年…句会を開き、句会の皆さんとともに楽しむ。 				
* 俳句教室の1年間の予定、活動内容についての打合せを行う。(5月)				
夏(6月) 秋(10月) 冬(2月)				
* 作った俳句を『ふるさと富里祭り』や『おおとう生涯学習フェスタ』に出品・展示する。				
【富里たんけん・富里発見】				
<p>1～4年生は、身近な地域の調べ学習を行い「ふれあい学習発表会」で発表した。3・4年生は、小学生のいない平瀬地区を中心に調べたことをまとめた。</p> <p>5・6年生は、富里小学校に統合される前の、上野小学校、下川小学校、平瀬小学校について調べ学習を行った。</p>				



こんにゃく作り

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に授業に参画してもらうことで、授業内容が豊かになった。ふるさと料理教室では、次の学習内容について意見をいただくこともあり、参考になった。 ・地域の方々が多く集う「ふる里富里まつり」では、句会の様子を紹介したり、作品を展示したりと、学校の取組を紹介することができ、学校の様子を見ていただく良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生がいない地域の高齢者の方々にとっても、小学校を身近に感じ、学校に足を向けてもらえるような取り組みを考えていく必要がある。また、児童が地域へ出向いていって交流する活動を増やしていきたい。 ・学校の取り組みが、地域の活性化につながっていけるよう、さらに公民館や他団体との連携を密にしていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの文化や自然に興味を持って調べたりまとめたりでき、ふるさとを愛する心情が育ってきた。 ・地域の方々との様々な交流を通して、場に応じた言葉遣いやマナーを考えることができる児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」で学んだことを、積極的に地域の方々に伝えていく。 ・地域へ働きかけていくような、子どもたちの主体的な取り組みができるようにしていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと学習」を通して、地域の恵まれた自然や文化・歴史についての関心や理解が高まり「自分たちの住む地域」への愛着が深まった。 ・これらの取り組みを通して、居住地区以外の校区住民との交流も深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の人々に見守られている」「地域の一員である」という意識を育み、自ら進んで挨拶をしたり、地域の大人と会話したりするなど、子どもたちのより一層の主体的な取り組みができるようにしていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふる里富里まつり」などで、学習の成果発表に接することで、学校の活動を身近に感じる事ができた。又、その機会を大変楽しみにしている。 ・地域学習で子どもたちが地域に出向くことで、特に小学生の住んでいない地区においても、子どもたちの元気な様子に触れ、交流することで、子たちから元気ももらい、生きがいを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加及び地域行事によりできた子どもや保護者とのつながりを、さらに深めていけるよう「声かけ」や「見守り」など、それぞれの立場でできることを継続し、地域力を高めていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】

□「ふるさと料理教室」では、中学年の「みそ作り」で教科学習との関連も考えた計画的な取り組みができ、学習が深まった。また、「こんにやく作り」「みそ作り」ともに、地域に伝わる伝統的な料理という観点にとらわれず、昔ながらの手作りの良さを教えてもらう内容で、とても良かった。

□「とみさと句会」の方々と俳句教室は、定着した取り組みとなっている。句会のメンバーの皆さんも、定例の句会の中で「俳句教室」に向けての取り組みを話し合い、それぞれが俳句を用意することが励みとなっているようで、学校にとっても地域の方々にとっても有意義な取り組みとなっている。

□富里について調べたことを、「ふれあい学習発表会」で発表し、保護者や地域の方々に聞いていただく機会を持つことができ良かった。

□今年度、公民館で作成した「地域ボランティア名簿」を活用し、地域学習をさらに発展させていく。

【次年度に向けての方向】

* 今後は、児童数が減少していくことを見越し、継続して取り組むことができる内容の活動を考えていく必要がある。

* 地域の高齢者が学校に来てもらうことが難しくなっている中、積極的に地域に出向いて行き、一緒に活動できることを考え、地域の方々との交流の機会をさらに増やしていく。

* 大塔公民館富里分館と連携した取り組みが、年間を見通した計画的なものになるよう、組織的な取り組みを確立させていく。

学社融合活動実施報告

学校名 本宮小学校	公民館名 本宮公民館 (本宮分館・四村分館・請川分館)
--------------	-----------------------------------

学社融合における学校・地域の様子

本宮地域に住む子どもたちは、過疎化・少子高齢化が進み、統廃合により校区が広がったことから友達との交流がなかなか深まらない状況にある。こうした背景において、学校だけでなく家庭・地域社会の中で、将来地域社会の一員として貢献できる子どもを育てていくという考えのもと、保護者・地域・専門家による支援を受けながら学社融合の取組を進めている。保護者・地域にとって、子どもたちへの関心は高く、参観日や懇親会はもとより各行事への出席率が高い。地域に住む、各サークルの方々も積極的に授業支援に参加して頂いたりしていることから、地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が高い。

活動名 ふるさと学習	学年・教科・領域等 3～6年:社会科・総合的な学習の時間 1,2年:生活科
---------------	---

目標	学校	・地域の方の協力を得て、ふるさと本宮の様子や産業、歴史や文化などを学習することにより、ふるさとに対する誇りと愛情を育てる。 ・ふるさとを調べ、まとめ、伝えるなどの活動を通して、表現力やコミュニケーション能力を向上させる。
	公民館(地域)	・地域の持つ教育力およびそれぞれの分野で専門的な知識を持つ方々を学校教育の中に活かすとともに地域ぐるみで子育てをする意識を高め、本宮町の歴史や文化、自然に親しむ子どもの育成のための手助けを行う。

支援者及び支援組織

保護者 地域に住む方 共育コミュニティ音無本部 本宮語り部の方

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

以下のような「ふるさと学びのプログラム」をたて、6年間かけての人間形成を図っている。

町と向き合い町を知ろう			郷土に誇りを持つ子		
学年	内容	学習パートナー	学年	内容	学習パートナー
1	学校たんけん(4月) ・2年生に校内を案内してもらい、学校の様子を教えてもらう。		1	昔の遊び(12月)	地域のお年寄り
2	まちたんけん(5・6月) ・請川地区(郵便局・駐在所・商店)と川湯地区(旅館・ホテル)を訪問し、施設の様子や仕事について学ぶ。		2	生き物探検(7月) 1,2年合同	
3	音無茶製茶(5月) ・地域の名産である音無茶の収穫体験と収穫したお茶の葉を活用して自分たちでお茶づくりに取り組む。	地域のお茶農家 宇恵さん	3	昔の暮らし(2月)	地域のお年寄り
	三里合同町見学(6月) ・本宮町の産業施設(牛舎・食品製造工場・音無紙すき)を見学する。		4	キッズ本小太鼓(6～9月) 3,4年合同 ・運動会で練習の成果を発表した。	奥熊野太鼓 メンバー
4	水生生物調査(6月) ・生物の専門家である瀧野先生に教えて頂きながら、地域の川の水生生物の採集や川の状況調査を行った。	環境学習アドバイザー 瀧野秀二先生	5	大瀬観音訪問(6月) 大瀬の太鼓踊り(6～9月) ・運動会で地域の方と一緒に踊りを披露した。	保存会の皆さん
5	間伐体験(1月) ・地域の山林で間伐体験をする。	本宮林研の方々	6	平治川の長刀踊り(平成25年度実施)	
	熊野古道学習(2月) ・6年生の「熊野古道学習」を聞き、来年度の学習の見通しをもつ。				
6	熊野古道学習(6～9月) ・世界遺産や地域にある熊野古道・王子跡について現地学習などを通して学び、「ふるさとを話そう」という冊子にまとめた。	県世界遺産センター坊先生 絵画講師 杉本麻絵さん 本宮語り部 小淵静子さん 大竹雅子さん			



世界遺産登録10周年記念フォーラムにて語り部発表

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習パートナーの支援によって、子どもたちの学習意欲を高めることができた。 ・見学や現地学習で子どもたちが見たことや感じたことをまとめ、様々な方法で発信することにより、表現力の向上につながった。 ・6年生による「熊野古道学習」において、本校の語り部原稿や「ふるさとを話そう」という冊子を作成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊野古道現地学習では、語り部の方による実際の語りを聞く機会を設けていく。 ・ふるさと本宮と子どもたちのつながりがさらに深まるよう各学年の取組を充実させていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習パートナーの方による講話や指導を受け、本宮のよさを再発見し、ふるさとに対する誇りと愛情をもつことができた。 ・指導頂いたことに対する感謝の気持ちをお礼の手紙に表し、地域の方との交流を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の目指す児童像である「自分の思いを表現できる子」に迫るためにも、ふるさとの良さを自分の言葉で話す活動を充実させたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習パートナーの専門的な知識や技能を学ぶことで、尊敬の念をもち、地域に対する関心が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学習を機会に、ふるさとの良さや伝統文化を少しでも話せる子どもに育つよう支援したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統文化の保存や語り部活動を子どもたちに知ってもらう良い機会となった。 ・子どもたちと一緒に活動し、交流することにより、元気をもらい、楽しく取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習パートナーとして多くの地域住民に参加してもらえよう啓発活動をさらに充実させていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

[評価]

- ・地域にある豊富な教育資源を活用することで、学習が充実すると共に、学校、保護者、地域がふるさとの良さを再認識し、伝統文化を大切にする意識が高まってきている。
- ・子どもたちが学習パートナーと関わることによって、学びを深め、本宮やそこに住む人の良さに気づき、自己を高めるとい人づくりにつながっている。
- ・子どもたちの学習をもとに、本宮町の小中学校が合同で語り部ジュニアとして発表できたことは、今後の取組の土台となった。

[次年度に向けての取り組み]

- ・本年度の取組を基に来年度以降も継続できるプログラムに充実・改善していく。
- ・ふるさとの良さをさらに実感できるよう、学校・地域の交流、特に子どもと地域の大人が関わる機会を増やしていく。



音無茶摘み体験



水生生物調査



熊野古道 現地学習



熊野古道
こどもまんだら

学社融合活動実施報告

学校名		三里小学校	公民館名	本宮公民館三里分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>・本校校区は、世界遺産である熊野古道が通り、熊野川にそそぐ三越川が流れており、緑いっばいに囲まれた自然豊かな地域である。しかし、少子高齢化が進み児童数も40名前後を推移し、複式の学級もある。地域の人々は、学校に協力的で子どもたちを温かく見守ってくれている。本校では、米作りや語り部活動、地域探検など各学年が地域の方の協力を得て学社融合の取り組みを早くから実施してきたが、3年前に本宮地区の共育コミュニティ事業にも加わり更なる充実を図ってきた。教育計画の中に「三里大好き」をテーマに各学年の年間計画を立て、様々な体験活動を通して「地域を愛する心」「地域を誇りに思う心」を育てている。特に語り部活動では、本宮語り部の会の方に指導を受けたり、また田辺市熊野ツーリズムビューロー・世界遺産センターの職員の方の御協力を得たりしながら、児童が語り部活動を継続発展させている。</p>				
活動名		語り部ジュニア活動	学年・教科・領域等	5・6年生 総合的な学習の時間・特活
目 標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に生きる学校として、地域を生かした学びを深める。 ・学校を中核とした、社会教育団体との融合を模索する。 ・共育コミュニティ事業に積極的に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指す。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の事業と学校の授業が一体となった学社融合の取り組みを行う。 ・地域人材の知識や技能を生かしたボランティア活動を推進し、参加した地域住民が児童との交流を通して教育活動への意欲を高める。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>本宮公民館（三里分館）・地域住民・本宮語り部の会・田辺市熊野ツーリズムビューロー・世界遺産センター職員・本宮行政局教育事務所職員</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p><語り部ジュニア活動></p> <p>1)日 時・・・4～11月</p> <p>2)場 所・・・校区内にある熊野古道(伝馬継所～伏拝王子)</p> <p>3)ねらい・・・三里地区の自然環境や社会・伝統文化と自分との関わりに気づき、故郷を愛する心を育てる。</p> <p>4)内 容・・・○地元の語り部の方や世界遺産センターの方から、熊野古道の魅力や歴史的な背景について教わった。(4月)</p> <p>○現地にてフィールドワーク 5/19 (本宮語り部の会のメンバーが同行し、語り部のレクチャーを受けた。)</p> <p>○語り部活動(1回目) 5/28 南山大学附属小学校4年生(92名)に現地にて語り部を行った。(語り部のメンバー同行)</p> <p>○語り部活動(2回目) 6/27 田辺第一小学校5年生(39名)に現地にて語り部を行った。</p> <p>○語り部活動(3回目) 7/5 世界遺産登録10周年記念事業の古道ウォーク参加者に現地で語り部を行った。</p> <p>○語り部活動(4回目) 8/5 田辺市の新採用教員研修会において、現地で語り部を行った。</p> <p>○語り部活動(5回目) 11/27近野小学校5・6年生(7名)に現地で語り部を行った。</p> <p>○語り部発表会 11/1 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年記念フォーラムにおいて、本宮小学校・中学校の児童生徒と共に語り部発表を世界遺産センターで行った。</p>				
<p>* 年度末には、来年度に向けて4年生児童に現地で語り部を行い、語り部活動について伝授する。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部活動を通して、教育活動の充実が図られ教育効果の向上が見られた。 ○町内の学校(本宮小学校・本宮中学校)の児童生徒と一緒に語り部の発表を行うことでよい交流になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部活動マニュアルを整えていく。 ○語り部練習の仕方を工夫し、時間を有効に使う工夫をする。 ○地域の語り部の方や世界遺産センターの方との打ちあわせの時間のとり方を工夫する。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション能力が高まった。 ○地元の語り部の方から、熊野古道や地域についての歴史などを教えてもらうことで、郷土愛が養われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部活動について、進んで調べ学習を行ったり地元の語り部の方から話を聞いてまとめたりする学習をさらに充実させる。 ○語り部活動を振り返ることで、次回の語り部についての創意工夫を図る。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部を通して地域の良さや歴史的価値を学ぶことで、自分の故郷を大切にしていこうとする気持ちが生まれてきた。 ○自分の思いや考えを表現する力が向上してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方への感謝の気持ちを忘れずに活動を行うようにする。 ○語り部活動での自己表現力をさらに磨く。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の語り部の会のメンバーが、語り部の方法を指導することで、児童と交流した。 ○本宮行政局の一階ロビーで、学社融合の取り組みが分かる掲示物を展示した。 (三里小学校は8～9月) ○本宮行政局教育事務所の各担当者のバックアップによっていろいろな活動がスムーズ行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語り部活動の様子を公民館の広報誌などで地域の人々に定期的に伝えていく。 ○本宮町内の学社融合に係る行事の打ち合わせ会で、行政だけでなく公民館との連携も密にしていく。 ○地域の教育力を高めるための学校・家庭・公民館・行政がどのように連携するか共通理解していく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

<評 価>

- 学社融合の取り組みの一つとして語り部 活動を行うことで、地域の良さや歴史的価値を知ることができ、児童の郷土愛が向上した。
- いろいろな学校の児童や、一般の方に語り部を行って交流することで、児童のコミュニケーション能力が向上してきた。

<次年度に向けての取り組みの方向>

- 語り部活動の更なる充実を目指して、児童の自己表現力を磨き、故郷の良さを語れるようにしていきたい。



地元語り部のレクチャー



南山大学附属小学校 児童への語り部



世界遺産登録10周年事業での語り部

学校名	東陽中学校	公民館名	東部・南部公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>公民館施設を併設した近畿唯一の中学校として、本年度も公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取り組みを実施することを目指してきた。地域の方々も公民館長、公民館主事の働きかけに協力的で、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができてきている。公民館の掲示板には生徒の行事への取り組みの様子や教科の作品等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している。</p> <p>地域にある田辺第一小、田辺第二小、田辺東部小との連携を深めた学社融合の取り組みを推進してきた。東部公民館・南部公民館主催の東南部地域カレッジにおいて、校長より、地域・保護者に学社融合の意義や学校支援ボランティアについて説明し、協力を求めた。地域や保護者は、高い関心をもち、47名の多くの方々が人材バンクに登録してくれた。</p>			
活動名	公民館・地域・小学校と連携した取り組み	学年・教科・領域等	全学年・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援ボランティア等の学社融合の取り組みを推進する。 ・学校と公民館と市立図書館「たなべる」との連携を進める。 ・校区の小学校と連携を深め、児童・生徒が交流できる企画を進める。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と地域とのコーディネーター役として、地域の教育力や特性を生かした取組みを進める。 ・地域の方が主体的に参画できるようサポートする。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p style="text-align: center;">東部公民館</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【地域との連携】</p> <p>○10月4日(土) 弁慶祭りへの参加 弁慶祭りへのよさこい踊りの参加を行った。アオイ会場においては学年全体で踊ることにより、地域を盛り上げることに貢献した。</p> <p>【公民館との連携】</p> <p>○8月19日(火) 公民館主催 写真教室 公民館主催で、地域の写真に詳しい方々を講師として招聘し、コンピュータ部、文芸部の生徒が、写真の撮り方、構図、写真の鑑賞のポイント等について教えていただき、写真撮影を通して地域の方と温かく触れ合うことができた。</p> <p>○8月26日(火)27日(水)公民館主催 パソコン教室 公民館が主催となり地域の高齢者に対して初級パソコン教室を行った。その際、講師は本校の技術科教諭が行い、パソコン部の部員が受講者に対して1人ずつ付き添い、パソコンの技術習得の手伝いや説明を行った。</p> <p>○10月17日(金)～19日(日) 公民館主催 公民館写真展・文化展 昨年度まで別々の日に実施していた写真展と文化展を、本年度は本校多目的ホールで写真展、公民館大集会室で文化展を同時開催した。写真展には、夏休みの写真教室で教わった生徒の作品や地域の方々の撮られた写真、文化展には本校技術家庭科や美術科、地域の婦人会、子ども会、高校生等の作品が展示され、作品を通して交流を行った。</p> <p>○公民館の掲示板の活用 公民館大集会室前の掲示板に本校の教育目標および生徒作品の展示を行い、公民館を訪れる地域の方に生徒の取り組みを知ってもらった。</p> <p>【学校支援ボランティア】</p> <p>○家庭科の授業での郷土料理調理実習でのボランティア 学校と公民館が連携し、家庭科で地域の郷土料理に詳しい方々を学校にお招きし、2年生を対象に郷土料理調理実習を実施した。事前会議を本校応接室で行い、本番は本校調理室で行った。メニューは「鯛の紀州煮」、「ほうれん草のおひたし」、「炊き込みご飯」の3種類で、郷土料理を学習する良い機会となった。</p> <p>○図書ボランティア 公民館の人材バンク登録より学校支援ボランティアとして学校図書の管理ボランティアを導入した。</p>			

	成 果	課 題
学 校	<p>学校支援ボランティアとして図書ボランティアを導入した。新刊の整理など図書室担当職員の仕事が軽減された</p> <p>写真展を多目的ホールで開催したことで、本校にも気軽に地域の方が写真を見に来てくれ、生徒と触れ合い、より良いコミュニケーションの場づくりが進んだ。</p>	<p>公民館を併設した近畿唯一の中学校であることを生かし、地域の教育力を生かした新たな取り組みを公民館と連携して進めていかなければならない。また、地域との連携を深めるためにさらなる学校の開放に取り組んでいくことが大切である。</p>
* 子どもにとって	<p>コンピュータ教室では生徒が教える立場になることで、地域の方にどのように接すれば上手く伝わるかをしっかり考える良い機会となった。</p> <p>郷土料理調理実習では、自分達の郷土料理についてや地産地消について学習し、地域の方と温かく交流できた。</p>	<p>行事等の限られた活動に限定されることなく、日常においても、子どもと地域の方が共に学べる環境の構築が必要である。</p>
* 子どもにとって	<p>地域の方とは、料理教室や写真教室といった行事の交流だけでなく、図書室の本の整理などの日常的な交流が増えつつある。</p>	<p>積極的に交流しようという意識を持たせたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>人材バンクを創設し、広く協力者を募ったことにより、今まで学校に踏み入ることのなかった地域の方も、気軽に参画できる機会が増え、そのような方からも、取り組みに対する意見をいただくことができた。</p>	<p>地域の方が気軽に中学生との交流事業を体験していただけるよう、人材バンクの宣伝を一過性のものではなく、継続的に進めていきたい。</p> <p>また、地域の方から提案された、中学生との取り組みを展開したい。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本年度は、公民館と学校の併設の利点を最大限に生かすため、学校玄関の校銘板の隣に、公民館銘板を設置し、門扉の開放により、地域の人々が学校や公民館に出入りしやすい環境づくりに力を入れた。中でも、学校支援ボランティアの取り組みは、今後、学社融合をさらに推進していくきっかけとなった。また、保護者(育友会)と地域の人々を結ぶ活動に積極的に取り組み、より地域力や保護者力を学校として活用できるようにしていきたい。



校銘板と公民館銘板



学校支援ボランティア
【清掃活動】

学校支援ボランティア
【図書ボランティア】



学社融合活動実施報告

学校名	明洋中学校	公民館名	中部・西部・芳養公民館
-----	-------	------	-------------

学社融合における学校・地域の様子
 本校での学社融合の取り組みは、公民館主事と学社融合推進教員で作っている明融会を中心に取り組みを進めている。融合の取り組みは、学校に講師等を招いて行う授業や活動と、地域に本校の生徒が出向いて行う活動の大きく分けて2パターンがある。地域から講師を招いて行う授業や活動には、生け花教室、郷土料理授業、浴衣の着付け教室などがある。昨年度からは夏休み中に地域の方々の協力のもと補習授業なども行っている。また、ブラスバンド部が行っているプロムナードコンサートに田辺第一小学校の合唱部が出演したり、うえのやま幼稚園サッカー部と明洋中学校サッカー部が合同練習を行うなど、地域の小学校や幼稚園・保育所との交流も盛んに行っている。地域に出向いての活動としては、地域の祭りや地域の施設でブラスバンド部が演奏したり、地域の保育所に卓球部や柔道部が訪問し、園児たちと遊ぶなど、多くの生徒が地域の方々や地域の園児たちと交流を図る取り組みを進めている。

地域の方々との交流学習	学年・教科・領域等	全学年・家庭科・特別活動・クラブ活動
-------------	-----------	--------------------

目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを実感し、故郷を愛する気持ちを育成する。 ・地域での活動を通して、多くの方々に関わることによりコミュニケーション能力を育成する。 ・地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちと交流を深めることで、生徒たちから元気をもらい、地域の活性化につなげる。 ・様々な事業を展開し地域の人が学校に出入りすることで、地域と学校の垣根を取り払う。 ・学校に対する理解を深めることにより、学校を身近に感じ、地域ぐるみで子どもを育てようとする気持ちを育てていく。


支援者及び支援組織
 芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々、各公民館

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

明融会(学社融合推進教員と公民館主事の会議)	
第一回4月18日(金)	内容 本年度のテーマ・津波警報時の避難について・今後の予定について
第二回6月24日(火)	内容 学校訪問について・今後の予定について
第三回10月9日(木)	内容 生涯学習フェスティバルについて・今後の予定について
第四回1月16日(金)	内容 学校・各公民館の取組と今後の予定について
第五回3月16日(月)	内容 今年度の取組の総括と反省

地域から学校へ

◎鱈の三枚おろし(家庭科調理実習)
 芳養婦人会の7名にご協力いただき、鱈の3枚おろしの授業を行った。安全面でも大変助かっている。



◎3年夏休みの補習(3学年)
 夏休みに補習学習を2週間行った。その際、校区内の退職された先生方から指導して頂いた。個別指導ができ大変効果があった。

◎浴衣の着付け教室(家庭科クラブ)
 夏休み家庭科クラブの生徒が、地域の方々から浴衣の着方を指導してもらった。

◎ミシンの使い方・裁縫(家庭科実習)
 芳養婦人会のご協力のもと、ミシンの使い方等について指導して頂いた。個別指導ができスムーズに授業が行われた。


学校から地域へ

◎しおさい祭り
 ブラスバンド部がしおさい祭りに参加し演奏を行った。多くの地域の方々が聴いてくれた。

◎保育所との交流
 地域の保育所に卓球部や柔道部が遊びに行き、園児たちと交流を図った。お兄さん・お姉さんたちとの交流を園児たちは喜んでいた。

◎地域の作品展
 美術作品や手芸作品を、公民館主催の作品展に出品した。

◎避難訓練
 地域の防災訓練にクラブ単位で参加した。(100名程度)
 また、もとまち保育所とも合同で避難訓練を行なった。



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は地域の防災訓練にクラブ単位で参加した。また、もとまち保育所と共に避難訓練も行った。加えて、防災講演会を6月に実施した。地域の方も参加してくれた。地域の方々と共にを行う行事は、生徒たちにとってコミュニケーション力をつけるよい機会であった。 ・鯨を開く学習やミシンの使い方学習では、地域の方々が各班での作業を受け持ってくれ、効果的に学習が行えた。 ・地域の保育所や幼稚園、小学校との連携は、中学生にお兄さん・お姉さんであるという自覚を持たせることが出来、生徒たちにとっては良い経験になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を継続することは大切なことである。そこで、今後、地域との防災訓練をどういう形で継続していくかが課題である。 ・義務教育9年間の視点を持って取り組む場合、3つの小学校と3つの公民館とどのように学社融合を進めていくかが課題である。 ・家庭学習の定着や学力の向上を図っていくために、家庭との連携、地域との連携が必要になる。学校として地域の教育力を向上させるためにどのような取組が必要か検討しなければいけない。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・お礼・お礼の手紙・コミュニケーションの取り方など、様々な年齢・立場の方々との交流で、生の学びがあった。 ・取り組みの中で、喜怒哀楽を地域の方と共有できる機会を持った。 ・自分たちも地域の一員であるという自覚が芽生えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々により確かなコミュニケーションを取る姿勢を続けさせたい。 ・地域行事などに参加するクラブが限定されてしまう傾向があるので、できるだけ多くの生徒に、機会を与え、地域に貢献できることは何かを自ら考えさせたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から、さまざまな専門的な技術を学ぶ機会を得ることができた。 ・地域の方に来てもらうだけでなく、生徒自身が地域へ出向くことで、自分たちも地域の一員である自覚ができ、地域を大切にしたい気持ちが芽生えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が会得した知識や技術を日常生活に生かしていけるような取り組みをしたい。 ・学社融合の取り組みで芽生えてきている、自分が住んでいる地域に対する愛着や誇りを、今後、一人一人の生徒が具体的な行動として表していけるかが課題であると感じる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・国体のボランティアに参加することで、社会活動に対する感心が高まった。 ・生徒たちとの交流を通じて地域の状況を再認識し、学社融合のために何が必要なのか考える機会となった。 ・生徒たちと交流することで、楽しさや生き甲斐を見つけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者の固定化、高齢化により、次の世代に引き継ぐことができず、事業を継続することが出来なくなるため、広報は勿論のこと、幅広い協力者の発掘を公民館が担っていかなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価




・本年度は、郷土料理授業やミシンの使い方授業、浴衣着付け教室、それに加えて、紀州手まり教室など、地域の婦人会から多くの方々講師として学校に来ていただき、充実した取り組みができた。特に本年度行われた近畿技家研(鯨の三枚おろし授業)では、芳養婦人会の協力のもと大変充実した発表になった。また、昨年度に引き続き行った夏休み中の補習授業では、地域の方々のお力添えにより年々充実した取り組みになっている。

次年度の取り組みの方向

来年度は、新しい行事や取り組みを取り入れるのではなく、今まで行っている郷土料理やミシンの使い方授業や、夏休みの補習授業など、今までの取り組みを更に充実したものになるよう取り組んでいきたい。そのために、定期的に関いている明融会を大切にしていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		高雄中学校	公民館名	秋津・万呂・稲成・東・中部公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>今年度は、生徒たちが以前よりも防災についての意識を高く持つことができた。それは、各学年による取り組みや学校全体で企画した、地域の方との避難訓練により、生徒たちが自分の立場というものを身を持って知ったからである。</p> <p>しかし、学校の実践が保護者や地域の方に理解されているかについては課題である。もう少し、学校訪問の時などに参加を促していきたい。公民館との連携は密にしている。また、プラスバンド部が地域のイベントで自分たちの音楽を披露することにも力を注いできた。このような取り組みを大事にしながら、来年度はさらに地域との関わりを深められるように努力していきたい。</p>				
活動名		地域の活性化と防災に対する考えを深める	学年・教科・領域等	総合的な学習の時間
目標	学校	生徒が、地域の一員としての意識や自覚を持ち、地域社会に貢献する意欲や態度を身につけ、高めていく。 防災に対する意識を高め、地域に啓発しようとする姿勢を培う。		
	公民館（地域）	地域と協力して活動をすることで、交流を深め、地域の一員であるという意識を高める。今後の活動の基盤になる、つながりや意欲を持ってもらう。		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>育友会・町内会・公民館・地域団体等</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>☆津波避難訓練の実施</p> <p>日時 10月31日</p> <p>・ねらい・・・◎地域の避難場所への経路を確認し、防災実践力を身につける ◎中学生は守られる立場ではなく、守る立場であることを自覚する。 ◎協力して避難することの大切さを学ぶ。 ◎合同避難訓練をする中で課題を見つけて、今後に生かす機会とする。</p> <p>・活動内容</p> <p>3年生が、地域の園児や敬老会の方と共に避難場所に移動する。</p> <p>☆防災・安全マップ作り</p> <p>日時 10月23日</p> <p>・ねらい・・・校区の災害危険場所・交通安全上の危険場所・避難施設・避難経路を調べ、災害時や登下校時の危険回路に役立てる。また、マップにまとめ、学校全体で共有する。</p> <p>・活動内容・・・班ごとに高雄中学校校区の調査をし、調べた内容をマップにまとめ、全校で共有する。</p> <p>☆クリーン作戦</p> <p>日時 9月4日</p> <p>・活動内容・・・◎八幡神社・愛宕山・高山寺・宝満寺の4か所の避難経路の清掃をする。</p> <p>☆ミニ紀州てまり政策</p> <p>日時 12月 3日</p> <p>・活動内容・・・中部公民館のサークルの方の呼びかけに、本校の文化部が賛同し、国体の選手たちに贈るてまりを制作した。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加することで、地域の活動を通して交流し、避難訓練については自分たちが守る立場であることを意識できるようになってきている。 ・避難場所の清掃活動や、避難訓練を学年やクラブ単位でも行い、防災についての意識が一層高まってきたようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・町内会が中心となる活動のため、連携を密にして学校としても計画的に取り組んでいきたい。
* 子どもにとって	生徒たちは、地域の園児や敬老会の方と避難する経験により、中学生としてやらなければならないことを再確認できた。	人との関わりの中で高齢者の方への気遣いなどが学べたが、さらに積極的に声かけができるようにすること。
* 子どもにとって	自分たちは、地域でどんなことができるのかを理解できた。活動を通じ、存在を知ってもらったことで、つながりができた。	活動に参加するだけでなく、地域が求めている内容に近づけ、より充実した活動を展開すること。
地 域 (公民館)	若い世代の力が、地域には必要であることを活動を通じて改めて理解していただけた。 参加者同士意欲を高めあうことが出来た。	地域とのつながりを深め、地域社会に参画しやすい居場所を作ること。子どもたちを受け入れる態勢を整えるためにも、学校、地域との連携を深めていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と一緒に取り組むことにより、防災への意識はもちろん、地域の一員であるという自覚を持つことができた。 <p>次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の地域ぐるみの避難訓練を続けることで、今年度の反省となった点についての対策を考えていく。 		

学社融合活動実施報告

学校名	新庄中学校	公民館名	新庄公民館
-----	-------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

本校の学社融合の取り組みの核となる3年生の「新庄地震学」は今年で14年目を迎え、改訂を加えながら、地域の方々や小、中、高と連携を深めてきました。また、全国の防災に関する交流会に生徒が参加する機会もいただきました。この取り組みが評価され、本年度、「ぼうさい甲子園」でグランプリを受賞しました。

1年生の「地域学習」では、市指定無形文化財「新庄杜氏唄」でも保存会の方々に杜氏唄の歴史や唄を教えていただくことができました。また、昨年度に引き続き、県指定天然記念物「奥山の甌穴」へ現地調査に行き、他にも「地域の林業」、「地域の漁業」、「祇園祭り」、「南方熊楠」、「鳥の巣泥岩」、「新庄中学校の歴史」について学習しました。2年生では、エルトゥール号避難救助を劇にして上演し、助け合いや貢献について考える機会を作りました。地域の方から指導や照明で協力していただきました。文化祭では地震学、地域学習、劇の発表を行いました。

夏休みには、シーカヤック作りに参加し、秋には内之浦湾に漕ぎ出し、地域住民の方々の企画に参加させていただきました。

地震学・地域学習・各教科の取り組み	学年・教科・領域等	全教科 道徳 総合 特活
-------------------	-----------	--------------

目標	学校	<p>【3年生地震学】9教科8テーマから地震・津波を中心とした防災学習に取り組み、後輩、保護者、地域に向けて発信する。</p> <p>【1年生地域学習】自然・産業・歴史・文化の学習。【2年生劇の上演】地域の方をゲストティーチャーとして招聘、劇の取り組み。</p> <p>【各教科の取り組み】各教科の授業に合わせて、ゲストティーチャーを招いた授業を実施する。</p>
	公民館（地域）	公民館サークル等の関係者や地域住民の参加を促し、生徒との交流を深め、地域との連携を大切にする。

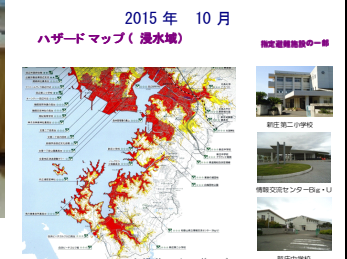
支援者及び支援組織

保護者、幼稚園、保育所、小学校、高校、新庄公民館、地域住民、新庄漁協、大湊神社 個人事業所、関係各機関

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

新庄地震学

教科	内容
1 国語	防災標語・防災カルタの製作 「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。また、過去の防災標語のカルタを制作し、防災の啓発活動を行う。
2 家庭	防災ずきんの製作 できるだけ学校や家庭にあるものを再利用し、防災ずきんを制作する。それを地域の方に配布して連携を深めるとともに、災害時に備える。
3 数学・技術	三平方の定理を利用した凧の製作 昨年に続き、三平方の定理を利用して凧を製作する。今年度は、防災で交流した東京の高校生のデザインの凧を製作し、災害時の情報伝達に生かす。
4 英語	宮城県の「青い鯉のぼりプロジェクト」に向けて 宮城県の「青い鯉のぼりプロジェクト」に参加する。手作り鯉のぼりのうろこに、小学生に英語でメッセージを書いてもらい、被災地とのつながりを深める。
5 美術	地震学カレンダーの製作 地震学カレンダーを作成し、地震や津波に必要な情報を紹介し、本校の地震学や防災学習の取り組みをまとめる。
6 社会	過去の津波被害について 新庄の過去の写真と現在の写真を比べることにより、過去の津波被害を知り、これから必要な防災を考える。
7 理科	緊急地震速報とヒマワリの栽培 地震や津波のメカニズム、緊急地震速報の原理について探求する。また、ヒマワリを育て、神戸市や福島県と交流する。
8 音楽・体育	歌とダンス防災教育 歌やダンスを用いて、多くの人に防災の啓発活動を行う。出前授業で小学生にも覚えてもらうことで、家庭内の防災意識の向上にもつなげる。



【1年生地域学習】

- ・県指定天然記念物「奥山の甌穴」の現地調査
- ・田辺市無形文化財「新庄杜氏唄」の伝承
- ・祇園祭り
- ・新庄中学校の歴史
- ・鳥の巣泥岩
- ・地域の漁業
- ・南方熊楠
- ・地域の林業

【2年生劇の上演】エルトゥール号避難救助を劇にして上演し、助け合いや貢献について学習しました。

【シーカヤックフェスタin shinryo2014の取り組み】

- ・夏休みに有志でシーカヤックを製作し、塗装、防水加工を施し、内之浦湾に漕ぎ出しました。

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・例年のように、ゲストティーチャー招聘授業を実施し、様々な視点から交流を深めることができた。 英語・クリスマススピーチ 道徳・各学年性学習 家庭・2年生「お魚ママさん」湊浦漁協 ・夏休みの校内整備作業や、体育大会、文化祭など、学校行事には多くの地域住民が参加協力してくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの教科でゲストティーチャーを招聘し、授業を実施していく必要がある。1年生の地域学習や2年生の劇、3年生の地震学は今後も継続、中身の精選をしていくことが、さらなる向上につながっていくものと考える。 ・地域の人々が参加しやすいような催しや企画を立てていくこと。 ・諸経費の捻出。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生が地震学に取り組むことで、小学校、高等学校、地域との交流・絆を深めることができ、防災について様々な視点から学習することで防災意識も高まった。 ・パワーポイントを使うことでプレゼンテーション能力を高めることができた。 ・生徒1人ひとりが新庄中学校の生徒であるとともに、新庄地域に暮らす一員であることが自覚できてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で系統立てた取り組みになるようにしたい。 授業時間等にも工夫が必要である。 継続的に取り組み、生徒が成長して地域住民となった時に、意識が高まっているようにしたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野で多くの人々との出会いや触れ合いがあったこと。 ・たくさんの方々と出会い、交流することで、新庄地域の文化や特徴がわかってもらえたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組むテーマの選択肢は十分であったか。 ・生徒たちの興味は満たされたかの検証も必要かと思われる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方々の参加により、生徒と地域住民の触れ合いの場ができたこと。 ・津波の体験談を聞くことで、参加者自身の防災意識の向上につながったと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに来ていないゲストティーチャーにもお願いできるように手配していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向
〈評価〉

14年目を迎えた「新庄地震学」も、本年度はさらに全国的に注目され、「ぼうさい甲子園」でグランプリを受賞することができた。また年末には神戸市での「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」に生徒4名が参加、本校の取り組みを発表し、全国の中学生と交流を深めた。




「手作りシーカヤック」は、生徒有志が部品の加工、組立、塗装等、製作に意欲的に取り組み、完成したシーカヤックで体験活動もでき、大変有意義であった。また、地域の方々も取り組みに協力的であり、広がりを見せている。

〈次年度に向けての取り組み〉

本校の学社融合の核である新庄地震学を継続、さらなる中身の充実を目指していく。学社融合の取り組みは地域の協力があってこそ実施できるものであるので今までに築き上げてきた地域との絆をさらに深めていくことが大切である。そのために、学校、公民館、地域との連携を大切にしていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 本校では育友会をはじめ、公民館・町内会・敬老会など地域との連携を深める取り組みをいくつも行っている。昨年度と同様に、上芳養地域にある保育所・小学校・中学校・公民館・第二のぞみ園との地域連絡協議会をもち、各機関の年間行事の確認や、今年度の連携に向けた話し合いをおこなった。 また参観日以外の学校開放週間・体育大会・文化発表会などのときには保護者だけでなく地域の方々も来校し、学校の様子を見てもらっている。</p>				
ころころ山読み聞かせ			学年・教科・領域等	全学年総合的な学習の時間
目標	学校	地域の読み聞かせサークルであるころころ山の方々に、ゲストティーチャーとして毎月集会に来ていただくことにより、本に親しみを持ち、読書することを通じて、思考力・表現力を育成する。		
	公民館（地域）	子どもに読書の楽しみを伝えるため、読み手本人の読書に関する教養を深める。 読み聞かせサークルの活動を活性化させ、地域の文化力の向上を目指す。 地域の子どもを知り、地域で子どもを育てるという気運を高める。		
<p>支援者及び支援組織 上芳養中学校 読み聞かせサークルころころ山</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) この活動は平成23年度から開始された。今年度も年度当初にころころ山サークルさんと国語科担当教員で打ち合わせを行い、取り組みを継続していくことと日程を調整した。そして月1回の本の読み聞かせ・ブックトークを行うこと、ころころ山文庫(ブックトークで紹介された本の貸し出し)の設置、夏休み中の学校図書館の本の分類・整理を行うことが決定した。</p>				
4月	読み聞かせの実施			
5月	読み聞かせ・ブックトークの実施			
7月	読み聞かせの実施			
8月	学校図書室の本の分類・整理			
9月	読み聞かせの実施			
10月	読み聞かせ・ブックトークの実施			
11月	読み聞かせの実施			
12月	読み聞かせの実施			
1月	読み聞かせの実施			
2月	小学校・第2のぞみ園と交流予定			
				
				
				
<p>各教室での読み聞かせの様子</p>				

	成 果	課 題
学 校	近年、中学生の読書不足が課題となっている。 その中で地域の方に読み聞かせやブックトークをしてもらうことによって、生徒が本や新聞に触れる機会をつくることができた。	紹介していただいた本などをころころ山文庫として、スペースをつくって設置したのだが、借りる生徒が一部生徒に限られてしまっている。 今後、生徒へ紹介する機会を多く持って、生徒の読書への関心を高めていくことが必要だと感じた。
* 子ども にとって	地域の方に本の読み聞かせをってもらうことにより、本に触れる機会ができた。 読書や新聞に対する関心が高まった。	ブックトークなどで紹介していただいた本を積極的に読んでいく必要がある。
* 子ども にとって	地域の大人が学校を訪問することによって保護者以外の地域の人を知ることができた。 「読書の喜び」を地域の人と分かち合うことができた。	読み聞かせに来てくれた方に地域で積極的に声かけするなどの自主性や社交性を身につけさせたい。 読み聞かせのお礼に、今度は自分たちの選んだ本を紹介するなど、相手に自分の好きなものをうまく伝える能力を身につけさせたい。
地 域 (公民館)	子どもに読み聞かせるために、読み聞かせについての教養を深めることができた。 サークル活動の仲間たちと勉強会などを開くことによって交流を深めることができた。 地域の子どもを知り、地域で子どもを育てるという気運を高めることができた。	サークル活動が継続するように、読み聞かせのスケジュール調整などを会員内で行い、無理のない活動を今後も続けていきたい。 現在の子どもたちの興味・趣向を調査し、子どもの実態に即した活動を行いたい。 小学生・中学生の保護者を新しく入れることによって、常に子どもに興味を持ってもらえる本の選定を行いたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向 (評価)</p> <p>・生徒たちにとって、本や新聞に触れる機会をつくることができた。この活動を継続的に取り組んでいくことにより、生徒の本に親しむ態度を育てていきたい。そしていろいろな本を読むことにより、思考力・表現力を養っていきたい。 この取り組みを始めてから本を読む生徒が徐々に増えてきているように思われる。</p> <p>(次年度に向けての取り組み)</p> <p>・これまで小学校・中学校・公民館・地域サークルなどで連携した取り組みを継続して取り組んでいきたい。 ・地域の連携をさらに深め、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索し取り組んでいきたい。特に、敬老会との連携強化を図っていきたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名	中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本校では、「梅勤労体験」「中芳養夏祭り」「芳寿会との交流」「芳養の里交流」など、地域との交流を通して、「豊かな心」「生きる力」の育成を目指している。保護者や地域、関係団体の方々はこうした学校の取組に対して協力的で、異世代との交流や地域の自然や文化、産業との触れ合いの機会をより多く設けることができている。1年生の取り組みである梅勤労体験学習は、JA紀南中芳養支所の協力を得て、受け入れ先の梅農家を紹介してもらい、広く地域に出て体験することができた。</p> <p>また、本年度は、「芳寿会」との交流学习を発展させ、「夏祭り」に向けた盆踊り講習会、全校で行っている陶芸教室へ参加等、生徒と共同して取り組めるよう工夫した。</p>			
活動名	老人会との交流を通して地域とつながる	学年・教科・領域等	全学年・総合的な学習の時間
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の取り組みを発展させ、「学校と地域が共に子どもを育てる」という目標に向けて取り組む。 ・世代を超えた交流により、先達の経験や知恵を継承することで「ふるさと」の良さを実感させる。 ・地域の人々との交流によって、コミュニケーション能力を高める。 ・地域で暮らす人たちの生き方を通して、自分の生き方を考え、進路決定に生かす。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化、伝統を子どもたちに伝える。 ・事業を通じて交流を深め、「お互いに顔見知り」の関係を作る。 ・中学生に対する理解を深め、子どもたちを地域で鍛えるという機運を高める。 ・地域の良さを子どもたちに伝える中で、地域住民自身も地域に対する愛着を再認識する。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>中芳養公民館、中芳養地区老人会「芳寿会」</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>			
盆踊り講習会 7月18日(金)	<p>「中芳養夏祭り」に向けて、芳寿会の方々に盆踊りの講習をして頂きました。全校生徒と職員で5曲の踊りを教えて頂きました。「巡礼」「弓引き」等の地域に伝わる踊りもあり、地域文化を伝承する良い機会になりました。</p>		
2年生との交流 Human-chain 8月20日(水)	<p>「先達に学ぶ」をテーマに、毎年2年生が夏休みに交流会をもってきました。ニュースポーツ「囲碁ボール」で交流を深めた後、戦争や災害の苦難を乗り越えてきた体験談、仕事や生活の中で身につけた人生訓、伝えていきたい文化や伝統等について話をして頂き、生徒達の質問にも答えて頂きました。</p>		
体育祭での交流 共同競技種目 9月21日(日)	<p>体育祭種目に「ゲートボールリレー」「玉入れ」の種目があり、毎年中学生と同じルールで参加して頂いています。本年度の「ゲートボールリレー」には、芳寿会から2チームのエントリーがあり、中学生と競技を通して楽しく交流することが出来ました。</p>		
全校生徒と交流 陶芸教室 10月3日(金)	<p>毎年行っている「全校陶芸教室」に芳寿会の方々をお招きして、生徒と共に陶芸に取り組んでもらいました。公民館主事と連携して参加者を募ったところ10名の方が参加してくださいました。陶芸は初体験という方が大半でしたが、和気藹々と生徒と机を並べての体験は、大変好評でした。教えてもらうばかりではなく、同じ立場での交流は、お互いに新鮮なものでした。</p>		
中芳養地域 合同作品展会 12月13日(土) 12月14日(日)	<p>中芳養地域の合同作品展会で、芳寿会の方々の陶芸教室の作品を生徒作品と共に展示させて頂きました。</p> <p>来年度以降の作品展会への出品意欲が出てきて欲しいと期待しています。</p>		



	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・「盆踊り講習」は、地域の文化に触れる良い機会となった。小中で連携して、毎年実施していきたい。 ・本年度は、教えてもらうだけでなく、生徒と共同での取り組みを通して、地域の老人会との連携が深まった。 ・学校の取り組みを理解し連携協力により、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもを育てるという意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、残念ながら「夏祭り」が中止になり、講習の成果を披露することが出来なかったが、来年度も講習会を実施し、小中で連携していきたい。 ・陶芸教室だけでなく、地域の人々と共同の取り組みを工夫して連携を強めていきたい。 ・特別な取り組みだけでなく、学校で行う授業の中で、交流を深められる継続的な取り組みを工夫していきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出での活動や共同での授業の中で、挨拶や礼儀、マナーを学ぶ良い機会となった。 ・地域の方々との授業で、交流が深まり、距離感が縮まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のときだけでなく、日常的に地域の方と挨拶や会話ができるようにしていきたい。 ・様々な人との出会いや体験を通して、自分の生き方や社会福祉のあり方を考える学習につなげていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・先達の経験や知恵を学ぶことができ、地域の文化に触れることができた。 ・共に活動することによって、お互いに顔見知りの関係を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて知識を深めるだけでなく、自ら地域の歴史を調べ、発掘していこうという機運も育てたい。 ・地域の一員として、地域の行事に積極的に参加していこうという気持ちを育てていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統、文化を子どもたちに伝えることができた。 ・日常生活の中で中学生と関わりがなかった人も、交流を通じて顔見知りになることができた。 ・子どもを持つ保護者でなくても交流を通じて地域の子どもの教育に対する関心を高めることができた。 ・地域の魅力を伝えるために、地域について考え、意識することによって、地域に対する自らの想いを再認識することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・学校行事に対しての協力者を積極的に発掘していきたい。 ・「教えてあげる」という意識だけでなく、「自分も学べる」というお互いに利点のある関係であることを協力者に意識してもらえるようなコーディネートのある方を今後も考えていきたい。 ・幅広い年代の方に地域・学校行事に関心を持ってもらえるように広報活動を工夫したい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・中芳養祭での発表などにより、学校への協力という形に終わらず、「地域に学び、地域に返す」という、学校と地域との双方向性をもった取り組みとすることができた。

・生徒、教職員、保護者、地域の方々が、お互いの顔が見える活動をする事で信頼関係を深め、「学校・保護者・地域が一体となって地域の子どもを育てる」という意識を高めることができた。

・出会いや触れ合い、体験を通して「豊かな心」や「生きる力」の育成を目指したこの取り組みがさらに充実したものとなるよう、時間の確保と学習内容などについて研究していくことが大切である。

・定期的開催されている中芳養地域連絡会を、お互いの情報交換や共通、共同の取り組みの構築等、積極的な取り組みを進める活動へと発展させていきたい。また、公民館との関係をさらに密にし、地域の教育力の掘り起こしを進めていきたい。今後、地域の協力者をリストアップして、積極的に学校教育への参加を呼びかけていきたい。また、学校教育の中で、地域人材の活用場を具体的に検討していきたい。

・取り組み内容については、常に新しい視線で再評価し、精選充実の取り組みを進めていきたい。



学社融合活動実施報告

学校名		上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>郷土を愛し、本校教育活動に協力してくださる方々の多い上秋津。「農事体験学習」、「職業体験」、「上秋津の文化財・施設の地域学習」、「中学校文化祭への公民館芸術サークルの作品展示」、「中山間地域にある校区の防災学習発表」など従来の取組にもまして、上秋津町内会・愛郷会・校区協議会・公民館などの代表者ならびに地域協力者の方々の熱意と笑顔が見える1年間でした。</p> <p>初めて取り組んだ防災マップ。全校生徒122人が公民館・上秋津町内会の皆さまと一緒に、中山間地区にある校区の課題「土砂災害」に向き合いながら、上秋津の未来について考えました。</p>				
活動名		防災学習(防災マップづくり)	学年・教科・領域等	全校生徒 総合学習の時間
目標	学校	①「その時」に生き残り、活動できる生徒の育成をめざします。 ②学校と地域社会が一体となって教育に取り組み、郷土に誇りを持ち、自立した次世代の育成をします。		
	公民館(地域)	地域住民と生徒が、災害に対する共通の認識を持つことで、今後起こりうる大災害に備える。		
支援者及び支援組織 上秋津公民館 上秋津町内会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
★1学期 6月下旬 学社融合(防災担当)～公民館指導主事連携会議 ①1学期 7月18日(金) 終業式後の「総合学習の時間(全校生徒)」				
・『ビデオ上映』 本年度避難訓練を動画で紹介～震災・Eディフェンス動画 ・『地区別防災会議Ⅰ』 ア 全校生徒を地区ごとに分けて地区生の確認 イ その時に備えて、11地区リーダーを決定 ウ さらに家の近い3～5人のグループ23組に分ける エ マップリーダー(23名)を決める。 オ 『夏休みの防災アンケート』について説明				
★夏休み 7月下旬 学社融合(防災担当)～公民館指導主事連携会議 ②夏休み 登校日 8月21日(木)「総合学習の時間(全校生徒)」				
・『ビデオ上映』 7月18日『地区別防災会議Ⅰ』のようすを動画で紹介 ・『地区別防災会議Ⅱ』を『夏休みの防災アンケート』をもとにマップリーダーが議事を進行 ア 地区の防災課題について話し合う。 イ 地区の注意箇所を話し合う。 ウ 避難場所について話し合う。				
・防災マップづくり方について説明 ・防災マップづくりの計画(防災マップリーダー)				
③夏休み後半 8月22日(金)～27日(水) マップリーダー23名が仲間と担当地域を写真撮影 ★夏休み 8月下旬 学社融合(防災担当)～公民館指導主事連携会議 ④2学期 9月 7日(日) 公開授業・日曜参観『防災マップづくり』				
8:15 体育館集合・点呼・説明(公民館・町内会協力者の紹介) 8:30～10:00 『防災マップ調査』 10:15 体育館集合 10:30～11:30 『防災マップ作成』 11:30～12:15 『防災マップ発表』 12:15 講評				
				
				
				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防災能力・減災能力を高めることで地域に貢献。 ・地域の大人も参加することで、校区の意識を高められた。また、学校の取組を地域に公開。 ・全教職員が「防災マップづくりの手法」を共有。また、公民館並びに町内会の班長も、「防災マップづくりの手法」を共有。 ・校区の知識を全員で共有できた。 	<p>防災学習の重要性を、職員全体で認識し、年度がかわっても継続して取り組むこと。</p> <p>郷土愛を高めるために、マップに土地の言い伝え、文化、地域の誇り、特産物を加える。</p>
* 子どもにとって	<p>家族や地域と支え合うことと、早めの避難が大事であることを再認識できた。</p> <p>地域の一員として、事前の取組や、当日の活動で役割を果たし、自己の有用感を認識できた。</p>	<p>災害時に、ベストを尽くして行動する力が、本当に備わっているか。</p> <p>自ら、周囲の課題を発見し、解決のために仲間や家族、地域に対してはたらきかけることができるか。</p>
* 子どもにとって	<p>生徒自身がいつも通っている通学路で、地域住民の方から、昔起きた災害では、どこが土砂災害があった等の話を聞く事ができ、より災害に対する関心が持てた。</p>	<p>統一して集合場所を上秋津中学校にしていたが、学校から遠い家の生徒は、少し大変であったと思う。</p> <p>集合場所の検討をしていきたい</p>
地 域 (公民館)	<p>中学校・町内会・公民館が連携して、校区内の危険な場所を再認識することができた。</p> <p>危険箇所の選定時、生徒目線と大人目線の違いがあり、お互いに良い意見交換になった。</p> <p>地域住民と中学生が直接交流する良い機会になった。</p>	<p>地域住民の参加人数が少ないように感じたので、これからはもっと参加していただけるよう工夫していきたい。</p>
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>公民館・町内会・学校の連携プレーで取り組めた、防災マップづくり。できあがった23枚の防災マップは、公民館で10月～11月にかけて約一ヶ月間掲示し、住民の方々に見ていただくことができました。防災マップを、デジカメやスマホで撮影していかれた住民の方々もおられました。地域が一体となって、未来に向けて前進できたことが良かったです。</p> <p>公・小・幼との学社融合会議より、さきの台風12号では、近隣の元保護者男性に、園をボランティアで守っていただい話を聞き、災害時に人手が不足するのは幼稚園であることが分かりました。ただし、園の周辺にも土砂災害が心配される所があり、生徒や教職員を派遣するタイミングについては、平成27年度の「中山間地にある校区の防災学習発表」等で、生徒・教師・地域で検討をしたい。「【例】①まず避難 ②無事の確認 ③地域の状況把握 ④安全な地域への教職員と生徒の派遣」</p> <p>町内会長の「災害は、くるのはわかったあるんやさかいに、何とかしておきたい！」との発言に、力をいただくかたちで始めた本校『防災学習発表』を、今後とも継続して、災害に強いまちづくりと、人材育成に貢献したい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名		秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、生徒同士の人間関係もよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため連帯意識が強く、地域では「秋津川の子どもは秋津川の大人が守る」の合い言葉にあるよう、人々も子ども達を見守り育ていこうとする意識が強い。学社融合の取り組みから、子ども達が地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになってるとともに、備長炭等の優れた地域の文化を学び、炭琴の演奏を披露することで、地域に誇りを持ち、地域の方々も学校行事や子ども達との活動を仲介として、地域内の交流が活発に行われている。また、コミュニティとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p>				
活動名		秋津川ふるさとまつり	学年・教科・領域等	全学年 (全教科・総合)
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切にすることを育てる。 ・炭琴演奏を全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。 ・授業を公開することで、秋津川中学校を地域の方々に知ってもらい、開かれた学校づくりを進める。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子ども達が交流を深めることで、郷土愛を育み、地域としての連帯感を高める。 ・地域住民、各種団体、学校が協力して一つの行事に取り組み、来場の方々に秋津川の産業や伝統文化、教育活動の一端を知っていただくことで地域の活性化を図る。 ・地域住民に学校の取り組みに目を向けてもらい、子ども達の健全育成に関心を持っていただく。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>秋津川小中学校育友会、秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川振興会、JA紀南上秋津支所秋津川店、JA女性会、秋津川婦人会</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>○ 5月28日(水) 平成26年度第1回 公民館協力委員会 平成26年度秋津川公民館事業計画の提案・承認、役員の選出 第30回ふるさとまつり 11月16日(日)開催 決定</p> <p>○ 7月29日(火) 平成26年度第2回 公民館協力委員会 盆行事について</p> <p>○ 8月27日(水) 平成26年度第3回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 開催日時の確認(11月16日(日)) 農林産物品評会へ出展の呼びかけ・お願い</p> <p>○10月28日(火) 平成26年度第4回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 運営について協議 準備・片付けの分担や、当日の役割、当日のイベント日程等を決定</p> <p>○11月14日(金) 生徒の作品等の飾りつけ、炭琴演奏等の準備</p> <p>○11月15日(土) 地域の方々による会場設営並びに農林産物品評会等</p> <p>○11月16日(日) ふるさとまつり当日</p> <p>1、2限は公開授業(地域の方々に自由に授業を参観してもらう)</p> <p>3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏・南中ソーランを披露 演奏曲目「ふるさと」「ありがとう」</p> <p>5限も公開授業</p> <p>※昼食は、婦人会の方々が作ってくださった「炊き込みご飯」をいただきました。</p>				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々が「ふるさとまつり」に 来校し、秋津川小・中学校を身近に感じ、 児童生徒の様子を知ってもらいよい機会と なった。さらに、炭琴演奏や南中ソーラン を披露することで、秋津川中学校の地域 に根ざした教育活動の一端を知ってもら いよい機会となった。 ・授業参観をしてくださった方は少なかった が、本校が実施している少人数を活かした 丁寧な授業の良さを認識していただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく多くの来校者がいたにもかかわらず、 そのほとんどは催し物会場の運動場や体育館へ 行ってしまい、授業を参観して下さる方が少な かった。もう少し、当日の広報に力を入れる必要 がある。 ・11月には本校の文化祭も今年度は日曜日に 開催された。少人数ながら素晴らしい発表内容 であるが、来場者が少ない。ふるさとまつりとの 兼ね合いも今後検討していきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしてい るため、大勢の人を前に発表するという貴重 な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一 員としての連帯感や自覚を促すきっかけと なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ないということもあって、地域からは大 切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅 れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責 任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をするべ きかを考える主体的な態度を育てたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・炭琴演奏や踊りなどの披露を通して、自分た ちの取り組みや地域行事に関わっている姿を 多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、一生懸命この行事に取り組 んでいる姿を通して、ふるさと秋津川の良さを 再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の行事や活動に積極的に関 わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を 高めていただきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力してこの行事を開催す ることで、地域の活性化にもつながっている。 ・多くの来場者に秋津川の産業や文化、そ して、学校や子どもたちの取り組みを知っ ていただく良い機会となった。 ・少人数ながらも、子どもたちがひたむき に行事に参加・協力してくれていることで、 地域住民も元気と活力をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢、過疎の進む地域にとって、この様な 交流行事が益々重要になってくると思われる。今 後も継続して開催していけるよう、学校ほか各種 団体とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・時間的な制約があるが、行事をさらに盛り上 げ、マンネリ化を避けるために、子どもたちの声 を取り入れたり、世代間で交流ができるような新 たなイベント内容も検討してみたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつりへは多くの来訪者があったにもかかわらず、授業参観をして下さる方が少なかったのは残念だった。授業参観をして下さった方からは「少人数の授業がとても良かったです。」「先生が丁寧に指導している。」等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さを褒めていただいた。 ・7月から練習をつんできた炭琴の演奏は、「ふるさと」「ありがとう」ともたいへんよいできばえで炭琴サークルの方々から、また、元気のある「南中ソーラン」は地域の方々からもお褒めの言葉をいただいた。そのことは、生徒達にとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。また炭琴演奏は一人ひとりが責任をもってよい演奏をしなければ全体としてまとまらないものであるため、各自の責任感を高める役割も果たしていると思われる。 ・大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の仲間内だけでしか生活していない生徒達にとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。 ・生徒達は、今は、地域の方々から与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒達から主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒達に秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う。 		

学社融合活動実施報告

学校名	衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
-----	-------	------	-------------

学社融合における学校・地域の様子

本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴えることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤が確立されている。「生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる」という目標実現に向け、地域・公民館との連携を深め、生徒にとって有効な活動に発展する企画・運営を心がけておこなっている。さらに、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。地域の人たちとの体験活動やコラボ実践を通して、生徒は好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる豊かな人間性を身に付け、地域に誇りを持ちつつある。

活動名	みんなが輝こう みんなで輝こう	学年・教科・領域等	全学年 総合・美術・技家・英語・理科等
-----	-----------------	-----------	------------------------

目標	学校	・自然や地域の人々とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、心を育て、生き方を学ばせる。
	公民館（地域）	・地域と学校、子どもたちのつながりを深め、地域ぐるみで子どもの成長を育む。また、その体制をつくる。 ・地域のことをよく知り、地域への関心、愛着を持ってもらう。

支援者及び支援組織

三栖幼稚園・小学校、田辺市梅振興室、JA三栖等地域団体・企業、保護者・育友会、地域住民、公民館

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

地域を知り、地域の良さを発信！ ～地域に誇りを～ **衣笠中学校地域盛り上げ隊**

☆ 梅農業体験(1年生) 地域産業の学習 地域探求

☆ 梅を使ったご当地スイーツ「きぬがさポンチ」の取り組み
美術科:粘土でポンチづくり (三栖幼稚園、小学校との協働授業) H24年～

↓
幼・小・中・地域住民による人気投票 『地域みんなで決めるご当地ポンチ』公民館で

↓ **トップ当選の作品決定**
地元洋菓子店の協力によりスイーツ製品化 (館報等で協力店を公募) 6月から販売
《地元産梅・フルーツを使って、地域振興》

★大好評★ 感謝

※JA総合展示会、生涯学習フェスでポンチ販売
ポンチ遊具セットを公民館等に提供
三栖共同調理場の協力で小・中の給食に登場
家庭科で園と共同調理実習

園児と共に創造の喜び

「どれにしようかな・・・」
投票中!









☆ 『南紀応援キャラクター 梅ずきんちゃん』の取り組み **地域とともに輝こう**

・修学旅行(東京)にて広報 5月 3年生
・広報用シール制作 田辺市梅振興室・JA三栖支所の援助

・地元企業とコラボ展開 (生徒の企画・発案を基に)
缶バッジ、ステッカー 11月全国ネット販売開始
梅ずきんちゃんクッキー 12月販売開始

・世界遺産10周年『熊野古道バージョン梅ずきんちゃん』発動

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを体感する様々な取組を通して、郷土愛が生まれ、自分たちがこの地域で生きているということを実感させることができた。 ・地域の方から、学校内や教師との関わりとは違ったアプローチを受けることで、人の温かさ等を感じるとともに、コミュニケーション力を高めることができた。 ・教職員の地域や社会に対する認識が深まり、さらなる連携への意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わり・交流を通して、生徒の規範意識をさらに高めていきたい。 ・今後とも積極的に地域、講師とのつながりを深め、より一層生徒や学校に関心をもってくれる人を増やしたい。 ・共育ミニ集会の実施など、学校としても、地域に対して様々な角度で関わる機会を増やしていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの大人との関わりを持つことにより、多様な価値観を知り、社会性を身につける機会となり、子どもたちの成長に大きなプラスとなった。 ・活動を通して多くの方に認めてもらうことで、自信を持ち、地域への愛着を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主性を高め、より主体的に企画・運営できるような取組にする。 ・地域の一員として自覚し、継続して地域に貢献できるようになる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・協力していただいた様々な立場の人と関わりながら、自分たちの考えを伝え、相手の意見を聞き、共に作り上げるという貴重な社会経験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域活動に参加し、より地域のことを知る。 ・子どもたちなりに地域について考え、自分たちの考えを取り組みにつなげていけるようになる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・梅農業体験に始まり、地域の特産品である”梅”を活かした取組みを地域ぐるみで実践していることで、お互いに地域を知り、愛着を深める良い機会となっている。 ・取組みを通じて、子どもたちの地域に対する思いを知ることができた。 ・地元企業の協力を得られたことで、活動の幅が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の体制を維持しつつ、より一層学校と地域のつながりを深めていきたい。 ・子どもと地域が、より一層お互いのことを知り、触れ合うことができる活動を展開していきたい。 ・学社融合の取組み、重要性を再認識し、より地域に浸透させていきたい。

評価及び次年度に向けての取組みの方向

今年度は、3年前から三栖幼稚園児と共に発想し粘土制作している「きぬがさポンチ」をさらに発展させ、スイーツ製品化につなげることができた。幼・小の異校種と協力して創り上げる制作活動は、互いを認め合い、自己肯定感を得ることもなった。また、生徒の企画・発案を基にした「梅ずきんちゃん」のグッズ商品化が、地元企業の賛同を得て実現した。なによりの成果である。本校生徒で結成している「地域盛り上げ隊」による一連の取組みは、幼・小・中学校、地域住民や地元企業・生産農家と共に盛り上がり、輝いていければという思いから発したものである。この活動を通し、生徒自身が地域貢献や創造の喜びを得るとともに、郷土に誇りをもつようになってきている。実際、本校生徒へのアンケート「この地域を誇りに思い、好きになっているか。」という問いで、肯定的な回答が非常に多くなっていることから分かる。生徒たちに地域に貢献したいという気持ちが育ってきていることは、うれしい限りである。

真の学社融合をすすめるために、学社融合活動の必要性を全職員が感じ、今後も地域や公民館と協議・検討する時間を増やし、様々な取組を発展させていきたい。また、保護者・地域住民にも積極的に学社融合活動への関わりを強めてもらい、有意義な活動につなげていきたい。

文化発表会にて
梅農業体験の発表
「梅の良さを伝えたい」



きぬがさポンチ遊具セット。
公民館に置き、小さい子ども
さん達に遊んでもらいました。



学社融合活動実施報告

学校名	龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「ふるさと学習」を基本として、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取り組みは ①「学校だより(夢抱き)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化祭等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。</p>			
活動名	地域ふれあい活動	学年・教科・領域等	全学年、各学年・総合・特活・学校行事
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う人材を育成する。 ・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。 ・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。 	
支援者及び支援組織			
龍神地域各地区、龍神公民館、龍神中学校PTA、学校評議員、社会福祉協議会、西牟婁振興局、市・環境課、龍神行政局、龍神森林組合 等			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
6/1	第1回古紙古着回収活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施)		
6/3	田植え体験事業(西牟婁振興局)		
7/3	1年 紀の国緑育事業 森林教室(講師:藤本 花子氏、西牟婁振興局林務課)		
6/27	1年 食育授業(講師:咲楽小 栄養士)		
7/4	草引き体験事業		
7/8	1年 交通安全教室(講師:田辺警察署職員)		
7/14	草引き体験事業		
8/18	地域清掃ボランティア活動		
9/28	小学校運動会への参加(全校 出身小学校へ)		
10/10	稲刈り体験事業(西牟婁振興局)		
10/24	全校 薬物乱用予防学習(学校法人りら芸術学園・西牟婁振興局)		
10/26	第2回古紙古着回収活動		
10/28	全校 情報モラル学習(田辺青少年センター)		
11/2・3	荒島神社、皆瀬神社、丹生神社 祭礼		
11/5	全校 福祉学習(講師:田辺市社会福祉協議会職員他)		
11/22~26	村民文化祭 美術作品展示(全校)		
11/24	村民文化祭 舞台発表 3年「混声二部合唱」で参加		
12/3	校区内の高齢者(65歳以上一人暮らし)の方にお手紙を書く。(田辺市社会福祉協議会、龍神行政局)		
12/24	全校 虎ヶ峰清掃作業:田辺警察署		
1/14	1年 餅つき大会		
1/22	3年 保育実習(柳瀬保育園)		
1/27	1年 郷土料理体験(講師:坂井 順)		
1/21	3年 「食」に関する指導、調理実習(咲楽小 栄養士)		
2/13	2年 食育授業(講師:咲楽小 栄養士)		
2/22	第3回古紙古着回収(旧龍神村3中学校を拠点に実施)		
3/	1年 林業体験学習(龍神森林組合)		
4月~3月	学校だより「夢抱き」の配布活動		

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み) ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを生徒に自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に感謝する心や、これらの取り組みが貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の方への挨拶や交通ルールやマナーを守る態度を向上させる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことにより子供たちにとっても意義深い学習になっている。・地域の方と活動を通して交流を深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしてほしい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取組に関心を持つようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合活動をスムーズに行うために、地域と学校をつなぐ人材の育成。


評価

- ・学校だより「夢抱き」の校区(約1700戸)への配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。
- ・体育祭や文化祭に、保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。
- ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。
- ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができた。
- ・リサイクル活動には、保護者や地域の方共に大変協力的で、たくさんの古紙、古着などの回収をしていただくことができた。
- ・清掃活動では、地域の方々にもいろいろ教えていただきながら作業をするなど、異世代の方との交流を深めることができた。
- ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して、環境を守ることの大切さを体験を通して学ぶことができた。
- ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。
- ・米作り体験事業では、田んぼアート作業にも関わるとともに、農作業の体験を通して、働くことの意義を理解することができた。

取り組みの方向

- ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。
- ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み。)
- ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。
- ・年3回のリサイクル活動の継続。(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。)
- ・環境教育を充実させ、意識を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。

学社融合活動実施報告

学校名	中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>自然豊かな環境の中で、少人数ではあるが生徒達は保護者や地域の方々に大切に温かく見守られながら学校生活を送っている。学校では、地域との交流を深める様々な取り組みを行っており、それらを継続的に行うことで、年々活動に協力して下さる地域の方々が増えている。比較的に地域全体が「地域で子供を育てる」という意識を持っており、地域の方が取り組みを提案して下さることもある。女性会や老人会といった地域の中にある組織の方々との交流も積極的に行っている。</p>			
活動名	地域と共に取り組んだこと	学年・教科・領域等	全学年・総合・特活・学校行事
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や地域の人とのふれあいを大切に、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする生徒を育成する。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と地域住民との交流を深めることにより、子ども達が地域への理解を深める。 ○学校と地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る。 	
支援者及び支援組織			
<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市女性会連絡協議会中辺路支部・清姫音頭保存会・花ボランティア（14名） ・熊野の森ネットワークいちいがしの会 等 			
取り組みの経過（日時・ねらい・活動内容等）			
<p>●地域に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花ボランティアから教わる」 1, 2年…年6回程度 <p>今年度は14名の地域の方々が、花ボランティアに登録して下さり、一緒に種まきやポットへの植え替えをしていただいた。</p> <p>●地域にかえす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内で育てた花の苗を配布 <p>生徒会活動の一つとして、町内の事業所や地域の方々に苗を植えたポットを配り、育ててもらっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティア（全校） <p>「熊野の森ネットワーク・いちいがしの会」に協力を得て、どんぐりの実から苗を育て、2年後に山に植樹する。</p> <p>* 苗の水やり * 7/18…苗の牛乳パックへの植えかえ * 10/29…どんぐりの実拾い * 2/7…植樹</p> <p>●地域から受け継ぐ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「清姫音頭を教わる」 全校…9/11 <p>「清姫音頭保存会」の方々に来ていただき、全校生徒に踊りを教えていただいた。それを校内の体育祭で保護者や地域の方々にも参加していただき、披露した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性会との交流で調理実習 3年…10/17 <p>地域の食材を使って、調理法などを田辺市女性会連絡協議会中辺路支部の方々に教えていただいた。</p> <p>●地域との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルとふれあい体験 1年…6/5、3年…6/19 <p>中辺路保健センターにて、地域の子育てサークルとふれあい体験を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グランドゴルフ 1年…11/18 <p>地域の老人会の方々と本校グランドにて、グランドゴルフを行った。</p> <p>●地域のために出来ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマーボランティア <p>夏休みに地域の施設にご協力いただき、全校生徒が自主的に参加した。</p>			
			

	成 果	課 題
学 校	<p>地域の方々と関わり、交流を深めるごとに、教職員の地域に対する認識がより深まっている。</p> <p>様々な取り組みを通して、学校と地域とのつながりを構築していくことにより、地域の方々の学校教育や生徒に対する関心が高まり、理解を深めていただくことができた。</p>	<p>様々な取り組みをするゆえに、時間の確保が大変になる。しっかりと計画的に時間を確保していく必要がある。</p> <p>今後も継続させることによって、地域の方々と学校との協力関係をより深めていきたい。</p>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりによって、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・地域の伝統をはじめ、様々なことを学ぶことができた。 	<p>どの活動も、生徒が主体的に取り組み、地域に対してより愛着を持てるように指導していきたい。</p>
* 子どもにとって	<p>中学生が行っている花作り・花配布の地道な活動が子ども達の自信になり、中辺路地域の住民の誇りや自慢につながっていることもある。</p>	<p>花ボランティア活動以外にも女性会や老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。</p>
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の生徒が花ボランティア活動で育てた花の苗配りは、地域の住民に大好評であり、こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持っていただくとともに積極的に参加してもらえよう公民館としても応援していくこととしたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・「花ボランティア」は毎年、継続的に行うことにより年々協力して下さる方が増えてきた。生徒と同じ作業を行っていただき、生徒と地域の方々の交流を深めることが出来た。
- ・花の苗を生徒が配ることで、直接地域の方々の声を聞くことが出来て、達成感や地域に貢献している意識を感じられている。
- ・地域の文化を知ることで地域の方々に認められ、自尊感情が育まれている。
- ・子育てサークルやグランドゴルフは、生徒とは他世代の方々と交流する良い機会となり、社会を知る上で大きな役割を果たしている。
- ・今年度もサマーボランティアは、全校生徒が参加した。地域のために役立とうと、主体的に活動する感情を育むのに効果が見られた。
- ・どの取り組みも毎年継続的に行うことで、より深められていくと考える。取り組みが多い中、しっかりと計画的に行っていく必要がある。



学社融合活動実施報告

学校名		近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的に学校と地域の連携が密であり、協力的である。 ・地域が一体となって取り組む行事として、近野区民体育祭(9月)近露まるかじり体験(11月)近野フェスティバル・文化祭(11月)近野山間マラソン(3月)などがある。中学校も、地域の一翼を担って、生徒・職員ともに主体的に参加している。 ・総合的な学習の時間に年間を通して行っている米作りは、多くの地域の方々の協力のもと行っている。また、収穫したお米は、地域の方々にも活用してもらっている。 				
活動名			学年・教科・領域等	
米作り・近露まるかじり体験イベント参加			全学年・総合的な学習の時間	
目標	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での活動を通して地域を知る。・共同作業をすることにより、助け合いや協調性を養うとともに、地域との作業を通して地域の方々に対する尊敬の気持ちを育てる。 ・地域の方々への感謝のしるしとして地域のイベントに参加し、達成感を味わうとともに郷土愛を培う。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒と地域住民との交流を深めることにより、子ども達が地域への理解を深める。 ○学校と地域の連携を密にして子ども達の健全育成を図る。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>九乗氏・前氏・久保氏・岡上氏・三栖氏・山本氏・森田氏・多禰氏・まるかじり体験実行委員会・NPO古道の里に花と愛・JA女性会・近野振興会・公民館近野分館・山形屋 等</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>15月17日(水) 九乗さんの自宅で地域方の指導のもと、2年生が箱苗作り・籾まきを体験した。</p> <p>16月12日(月) 地域の方の指導のもと、全校でもち米とうるち米の田植えを体験した。</p> <p>18月18日(金) 全校で、田の雑草とりをした。</p> <p>19月29日(月) 地域の方の指導のもと、全校で稲刈り体験を行った。</p> <p>10月18日(水) 田辺市長との田辺っ子ふれあい交流において、地域の方の協力のもとで餅つきを行った。</p> <p>10月19日(木) 地域の方の指導のもと、全校で脱穀体験を行った。</p> <p>11月13日(月) 近露まるかじり体験イベントに全校で参加。高田民宿さんに場所をお借りし地域の方々の指導のもと、餅つき・販売の体験をした。</p> <p>12月24日(水) 近野クリーン作戦と称して、日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちで清掃活動を行った。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを箱苗から取り組み、収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 ・収穫祭として餅つきを行い、日本の食文化の学習をさせることができた。 ・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。 ・多くの共同作業を取り組む中で、協調心や思いやりの気持ちが育った。 ・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間が少なくなるなかで、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 ・天候に左右されることが多く、予定通りに実施できない。 ・来年度以降生徒数・職員数とも減少するなか、今のままでの実施は難しくなってくる。 ・行事の精選や中身の検討が必要になっている。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを一通り体験することができた。 ・地域の方々を人生の先輩として敬うようになり、あいさつ等にあらわれてきた。 ・地域のイベントや学校行事に主体的に参加できる生徒が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるようなしくみにしたい。 ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい。
* 子どもにとって	<p>地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで学ぶことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってってもらいたい。
地 域 (公民館)	<p>地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して米作り体験を行った。また、区民体育祭、地域文化祭(フェスティバル)、まるかじり体験イベントなど、地域の方々と一体となって取り組んでいる。こうした取組は地域の方々と生徒たちが交流を深めることができおり、学社融合の推進に寄与している活動であるといえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少なくなってきたなか、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・米作りを箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、日本の米作りの一連の作業を体験する事ができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことができた。

・地域の方々の協力なくして米作り体験はできない。今後とも地域の中で育つ近野中生という位置づけとして、地域から多くの事を学び、また地域に感謝の気持ちを伝える学社融合を目指したい。

・昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、近露まるかじり体験での餅の販売や近野フェスティバル・文化祭の育友会主催のパパママランチの食材として提供できたことは、地域への恩返しとなり良かった。これも学社融合の成果であるといえる。来年度もできる範囲で、これらの取り組みを継続する方向で計画していきたい。



学校名	大塔中学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、これまで「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成」を目標に小中一貫教育としてATOM学習を展開している。鮎川・富里・三川の3小学校と各地域とともに「大塔リフレッシュ大作戦」・「選択交流学习」・「小小交流(3小学校交流)」・「保育園との連携」に取り組み、大塔公民館と連携しながら保護者・地域の老人クラブなどからも多くの参加をいただき実施してきました。そして、今年度より三年間、校区内三小学校と大塔公民館と共に地域共育コミュニティ推進の指定を受け、研究実践を進めています。</p>			
大塔地域共育コミュニティ本部事業		学年・教科・領域等 全学年(総合的な学習の時間)	
目標	学校	大塔地域における共育コミュニティの形成と、大塔中学校及び鮎川・三川・富里小学校の学校支援及び児童・生徒の健全育成を図ることを目的とする。	
	公民館(地域)	学校・地域・家庭が連携し、三者で心豊かな子どもを育てていく。また、学校が地域の子どものために取り組んでいる種々の活動を発信する機会としてもとらえ、互いの交流を深める。	
支援者及び支援組織 大塔地域共育コミュニティ本部・大塔老人クラブ・大塔自治連絡協議会・地域住民・保護者			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
大塔地域共育コミュニティの取組の概要			
○テーマ設定		『高めよう、ふる里大塔。みんなの力で!』	
○活動内容(活動の柱)		「小中一貫教育の取組」「学力向上」「ふるさと学習」を3つの柱として、小学校、中学校、公民館が連携し取り組んでいく。	
○3年間の見通し		1年次	見つめなおす
		2年次	創る
		3年次	発表する
○取組の柱と内容		<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の取組 <ul style="list-style-type: none"> ① 大塔リフレッシュ大作戦 ② 選択交流学习 ③ 小小交流(3小学校交流) ④ 保育園との連携 ・学力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ① 読書活動の推進 ② 家庭学習の充実 ③ 学習支援(授業支援、学校環境・学校安全支援) ・ふるさと学習 <ul style="list-style-type: none"> ① 各校の取組 ② 放課後子ども教室「ふれあいスクール」 ③ 「熊野古道語り部ジュニア」「地域語り部活動」の取組 ③ 防災教育 	
 <p>「熊野古道語り部ジュニア」英語発表</p>		 <p>ランドゴルフ交流</p>	

	成 果	課 題
学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学习では、内容を工夫改善することができた。 ・鮎川小学校と連携して、「熊野古道語り部ジュニア」の取組を進めた。その発表の機会として、校内文化発表会と県英語発表会に参加した。 ・学力向上に向けた取組として、全児童生徒と保護者を対象に、基本的な生活習慣や家庭学習や読書についての調査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学1年生が、もっとリーダー性を発揮できる工夫が必要である。また、学習の積み上げという点では、実施回数の検討が必要である。 ・3年間を通して、ふるさと学習の積み上げや語り部のレパトリーの充実に取り組む必要がある。 ・調査結果の分析をもとに、家庭や地域と連携した具体的な学力向上策を展開する必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの伝統や文化を体験する貴重な機会となっている。また、体験を通して地域の方と交流することができた。 ・「熊野古道」についての認識を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー性の発揮と共に、主体的な学習態度が望まれる。 ・「熊野古道語り部ジュニア」の取組を通して、いかに郷土の文化やふるさとのよさを実感することができるか。
* 子どもにとって	<p>核家族化が進み昔のように家庭でふるさとの文化や歴史、言い伝えなどを学ぶ機会がほとんどなくなった中、授業で地域のいろいろな世代から学び、交流することができ、子どもたちにとって、大変貴重な経験となった。</p>	<p>今まで知らなかった、ふるさとのよさを発見し、ふるさとへの愛着心を持つこと。また地域の人たちの温かい人柄にふれることで心身ともに成長し、近い将来の地域の担い手への成長が期待される。</p>
地 域 (公民館)	<p>地域の方々、特に高齢者は自分たちが受け継いできた、地域の文化や歴史、そして自身が経験してきたことを、子どもたちに教え、語り継ぐことができ大変喜んでいる。また、その準備からはじまって、子どもたちと会えるのを楽しみに生きがいの一つとして頑張っている。また、地域にとっては、学校の先生方とお話できることも大変喜んでいる。</p>	<p>学校や地域の子どもと関わることができる者を今以上に多く、いろいろな世代で確保し、学校の要望に応えていきたい。 ひいては、地域力の向上にもつながってくる。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

[成果]

- ・大塔地域共育コミュニティ本部を組織し、また、研究の柱を設定して実践を始めることができた。
- ・3年間の見通しのもと、今年度は、これまでの取組を「見つめなおす」ことができた。
- ・選択交流学习では、すべての講座で地域の方をゲストティーチャーに招いて構成することができた。
- ・「語り部ジュニア」の活動では、文化発表会と県英語発表会の場で発表することができた。
- ・学力向上の取組として、全小中学生にとその保護者を対象に、基本的な生活習慣・家庭学習・読書活動についてアンケート調査を実施した。

[次年度に向けての取組の方向]

- ・小中全体の会議や研修の機会を増やし、さらに連携を密にする。
- ・防災学習や講演会など地域へも積極的に呼びかけたり、取組内容なども発信し広報していく。
- ・中学校の春の遠足は熊野古道めぐりにする。または、三川や富里でウォークラリーをする。
- ・3年間を見通して、「ふるさと学習」の内容を構築し、「語り部ジュニア」の活動へとつなげていく。
- ・「大塔リフレッシュ大作戦」の実施時期や曜日を検討する。
- ・アンケート調査の結果をもとに、保護者や地域を巻き込んだ学力向上策をどう具体的に展開するか。
- ・実践発表をどのような形にするか、取組の方向や到達点をできるだけ具体的に描けるように取組を進めていく。

学社融合活動実施報告

学校名	本宮中学校	公民館名	本宮公民館 本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館
-----	-------	------	-------------------------------

学社融合における学校・地域の様子

「学校教育のさまざまな場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を目的とし様々な活動に取り組んでいる。昨年度まで指定を受けていた「音無の里地域共有コミュニティ」の流れを引き継ぎ、「子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実」を目指している。具体的には学校での活動を「学習支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の3つの柱にわけ、学校支援ボランティア等の協力を得ながら、地域と一体となった活動を進めている。

地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会からの行事等への呼びかけをした場合、多くの方が参加、協力して下さっている。

活動名	熊野古道道普請	学年・教科・領域等	全学年・総合
-----	---------	-----------	--------

目 標	学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携、協力し、開かれた学校づくりを進める。 ・郷土を愛し、地域に貢献できる生徒を育成する。
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活かした活動を推進し、学校や子ども達の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する子どもを育む。

支援者及び支援組織

学校支援ボランティア・公民館各分館・語り部の会・地域の方

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

○日時 平成26年12月12日(金)13:00～15:00

○目的
学校と公民館及び地域住民等と一緒に、世界遺産である熊野古道の道普請をすることにより、ふるさとづくりに貢献するとともに生徒に地域の一員としての自覚とおもてなしの心を育むことを目的とする。

○活動内容
土嚢に詰めた土を、土が流れて凸凹になった箇所まで運び、そこに土を入れて踏み固め、修復する作業を行う。



- ① 諸注意、説明を聞く。
- ② 土を運ぶ。
- ③ 土を入れる。
- ④ 入れた土を踏み固める。
- ⑤ さらに土を堅くしめる。

	成 果	課 題
学 校	事前の連絡や調整等を通して、学校と公民館他、地域の方とのコミュニケーションができ、信頼関係を深めることができた。また、地域の方の協力や作業の仕方を指導して頂いたことにより、活動をスムーズに進めることができた。	現在行っている活動を継続しながら、これからも学校教育に関心をもってもらえるよう、地域とのつながりを深め、積極的な働きかけをしていく。学校で行っていることを色々な方法で広報していく。
* 子どもにとって	語り部や地域の方と一緒に作業を進める中で、子ども達は多くの大人と関わりを持つことができた。また、地域の一員として地域へ貢献することの達成感を得ることができ、世界遺産を保持していくことへの関心を高めることができた。	子ども達が主体的に考え、地域の課題に目を向け、行動できる態度を育てていく。
* 子どもにとって	観光地である本宮地域を訪れる方々へのおもてなしの心を育むことができた。	今後もこの活動を継続しつつ、その他の様々な活動を通して地域の一員であることの自覚を促していきたい。
地 域 (公民館)	一緒に作業することで子ども達とふれあう良い機会となった。また学校が身近なものとなった。 道普請をすることで、歩きやすくなり、観光客などに喜んでいただいた。	今後も地域と学校が一緒になって子どもを育てるという共通認識のもと、具体的な方策を進めていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

<評価>

昨年度まで指定をうけていた「音無の里地域共育コミュニティ」の流れを引き継ぎ、昨年度までの活動を精選し、良いところは継続しつつ、改善をしながら様々な取組を進めることができた。


本校は統合して3年目となるが、熊野古道の道普請は、統合前の三里中学校が長年取り組んできた活動を引き継いだものである。毎年継続して行っているため、子ども達が要領を得ており行動が速く、活動全体が上手く進むようになってきた。

また、作業前と後で活動の成果が目で見えてはつきり分かり、子ども達は達成感を感じる事ができた。

<次年度に向けての取組の方向>

地域の世界遺産の保持に貢献でき、地域の方と共に作業をし達成感も得られる活動なので、今後も継続していきたい。

今後も、公民館をはじめ各団体の協力を得ながら、地域とのつながりを深める活動を取り入れ、地域との交流を深めていきたい。

園名	新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>家庭や地域での生活が変化し、核家族化が進み、近所でも一緒に遊ぶ同年齢や異年齢の友達が少ない傾向にある。また幼稚園の近所でも高齢化が進み地域の人との交流が少なくなってきた。そのため本園は少しでも多くの地域力を幼稚園に取り込み、「社会全体で子どもを育てていく」という機運を高めていきたいと考える。そこで園と距離が近く、また公民館事業(生涯学習活動)も盛んなことから、「共にふれあい、学びあう—友達や地域の人とのかかわりを通して—」というテーマのもと、公民館を拠点として地域の方々との交流活動を進めている。例えば地域の伝統文化「ぎおんさんの夜見世」の参加、お茶教室、コーラスサークルの方々との交流を行っている。</p>			
活動名	「新庄町内盆踊り大会」への参加		学年・教科・領域等
目標	園	<ul style="list-style-type: none"> ・園児や保護者が盆踊りを通して、地域の方に親しみをもつ。 ・地域の伝統行事に参加し、みんなで一つの輪になって踊る楽しさを味わう。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・出来るだけ多くの人に参加してもらい、園児、保護者と地域の方々の交流を深めてもらう。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>公民館・新庄漁協女性部・新庄楽踊会・新庄歌謡愛好会・新庄町内会</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◇毎年「新庄町内盆踊り大会」に幼稚園の子ども達も自由参加させて頂いている。盆踊りの曲目の中に子ども達が知っている踊りもあれば、もっと楽しめるのではないかとことから、園側から2曲提出している。(園側から提出した曲目「みんなで音頭」「ポケモン音頭」)</p> <p>○6月30日・学社融合会議で公民館の主事さんから「新庄町内盆踊り大会」の説明がある。</p> <p>○7月17日・第30回新庄町内盆踊り大会の会議に園長が出席する。その時に曲目、練習の日程などを話し合い決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新庄町内盆踊り大会」の日程は8月23日(土)午後7時～9時となる。 ・盆踊りの練習日は夜だけなので、幼稚園の保護者や子どもがそこに参加するのは難しい。7月31日の夏季保育であれば、子どもも保護者も園に来ているので、その時に地域の方と一緒に盆踊りを楽しめれば有難いということを公民館に話し、公民館から地域の方に連絡をとって頂く。 <p>○7月31日・新庄漁協女性部の方々や館長さんや公民館主事さんが園で「田辺踊り」「炭坑節」を園児や保護者と一緒に踊ってくださる。園側からは「みんなで音頭」「ポケモン音頭」の踊り方を伝え、みんなで一緒に踊る。</p> <p>○8月21日と22日・公民館で行う盆踊りの練習に、職員も参加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園側から提出した曲目もあるので、職員も参加し、地域の方にその踊り方を伝え「田辺踊り」「炭坑節」「河内音頭」などを一緒に踊る。 <p>○8月23日・午後から地域や公民館運営委員の方々が駐車場に、やぐらを組んだり、提灯を飾ったりして、「新庄町内盆踊り大会」の準備をしてくださる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児は新庄漁協女性部の方や新庄楽踊会の方、地域の方々と一緒に「田辺踊り」「炭坑節」「みんなで音頭」「ポケモン音頭」など、やぐらの周りをみんなで一つの輪になって盆踊りを楽しむ。 			
			

	成 果	課 題
園	<ul style="list-style-type: none"> ・30年間続いてきている地域の夏の行事に参加し、園児が保護者や地域の方、公民館の方と一緒に一つの輪になって踊ることで、園行事とは違う楽しさを味わうことができた。 ・紅白の幕、やぐら、提灯、新庄漁協女性部の揃いの浴衣といった盆踊りの雰囲気親子で味わえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み中のお盆前後に開催される行事なので、参加率をあげるのが難しい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のいろいろな年齢層の方と一緒に踊るという機会を設けることで、園児の体験の幅が広がった。 ・「田辺踊り」など園児なりに一生懸命練習して踊れるようになった喜びを味わった。また町内会長さんや地域の方に褒められ自信にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「河内音頭」などはテンポが速く、園児にとっては難しい動作もある。 ・盆踊り大会に参加する友達がもう少し増えればもっと楽しいと思う。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加したことで、練習や本番で触れ合いの場ができ、貴重な体験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と踊ることを楽しんでもらえたか、いい思い出になったか気になる場所である。
地域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の反応が大変よく、子どもたちから元気をもたらしたなどのコメントがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が減少傾向にあるため、人を集める工夫をしなければいけない。 ・また次回も参加したいという大会にするための企画を考えたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・園児の家庭は、新庄地域に長く住んでいる人が少なくなり、幼稚園の近所でも高齢化が進んで地域の人との交流が少なくなってきつつある。また核家族化も進んでいる。こういった現状から、園では園児や保護者と地域の方とのつながりを大切にしている。その取組の1つとして、「新庄町内盆踊り大会」がある。「田辺踊り」や「炭坑節」などは園児にとって少し難しい動きがある。しかし一生懸命練習して踊れるようになった喜びを感じ、地域の方から褒めて頂き、自信や意欲につながった。また「新庄盆踊り大会」の曲目に園児が知っている「みんなで音頭」と「ポケモン音頭」が含まれているが、8月の公民館での練習では、地域の方が園の職員に熱心にどうやって踊るのかを尋ねてくれて、何度も踊る練習をしていた。

以上のことから、園児は地域のいろいろな年齢層の方と一緒に輪になって踊ることで、園行事とは違う楽しさを味わうことができた。「盆踊り」を通して園児、保護者、職員が地域の方とつながることができたのではないかと考える。

そして、「田辺踊り」では田辺の地名が歌われており、その歌詞を説明することで、園児も「扇が浜って知ってる。」と言って親しみをもったり、田辺の地名を新たに覚えたりすることができた。自分が住んでいる田辺という地域に親しみをもつことができたのではないかとと思われる。

夏休み中のお盆前後に開催される行事なので、園児全員参加が難しいとしても、少しでも幼稚園(園児、保護者、職員)が、地域の行事や人々に親しみをもち、地域の一員としてつながりを保っていきけるように、一つひとつの交流を大切にしていきたい。

園名	三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>本園では「人とかがわり育ちあう」を研究テーマに、園内における友だち同士のつながりを大切に、地域の様々な年齢層の方とのかかわりを通して、人々の優しさや温かさに触れ、「人が大好き」「地域が大好き」な子どもたちになってほしいと願い、取組を進めている。</p> <p>特に隣接している衣笠中学校とは、日常的なかかわりを大切に、“人”と“人”とのつながり、一対一のかかわりを深めるための工夫をしてきた。普段の生活の中から、一緒にできそうなことを見つけ、見かけたら声を掛けあう、現状を伝え合うなどを重ねてきたことで、職員同士も親しくなり、交流への垣根が低くなり、保育と授業のコラボレーションができる関係にまで発展してきている。園児、中学生、お互いが育ちあえる、そんな協働保育を目指し、努めているところである。</p>			
活動名	幼稚園保育と中学校授業のコラボレーション ～きぬがさポンチづくり～	学年・教科・領域等	全園児
目標	園	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生と一緒に自分たちの思いあふれるスペシャルな『きぬがさポンチ』をつくり、楽しさ、充実感を味わう。 ・中学生との関係がより深まり、意欲的に活動をする。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、中学生を中心に多くの人とのふれあいを楽しみ、人とのふれあいが好きになる。 ・取り組みを通じて、子どもの様子を知り、地域で子どもの成長について考える機会をつくる。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>衣笠中学校、保護者、公民館</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>			
<p>美術科とのコラボ 『きぬがさポンチづくり』～リアルクレイ製作</p>			
<p>《2013》初めての体験 グループみんなで考えを出し合っつろう！</p>  <p>国語科 「フルーツポンチはいできあがり」の絵本の読み聞かせ 家庭科 完成したクレイ作品をもとに本物ポンチづくり</p>			
<p>《2014》テーマをしぼってスペシャル性を追求！</p> <p>2/19 中学生の班案に子どもたちのアイデアを生かしてつくりあげる</p>   <p>地元洋菓子店の商品化に向けて投票</p> 			
<p>《2015》自分たちの思いあふれるスペシャルな『きぬがさポンチ』をつくらう！</p> <p>7/18 『きぬがさポンチ』を作ってもらってみんなで食べよう！</p> <p>『きぬがさポンチづくり』に向けて、思いを膨らませ</p>  <p>10/10 県農業振興課の方から地元産フルーツのお話</p>  <p>11/10 絵本の読み聞かせ</p>  <p>11月 おもちゃのポンチで遊ぼう！</p>  <p>11/14 幼稚園で、本物ポンチを作ろう</p> 			
<p>こんなポンチを作りたいな♪ 子どものアイデア画</p>  <p>11/21 協働保育 中学生や友だちと一緒に楽しんでスペシャルな『きぬがさポンチ』をつくらう！ 子どものアイデアを中学生がうまく取り入れながら、力をあせてつくりあげる</p>  			
<p>他教科でのコラボ</p> <p>英語：パスポートを持って海外旅行にでかけよう 理科：春を見つけよう（植物観察） 体育：なわとび 技術科：なかよし庭園造り 家庭科：きぬがさポンチづくり、月見団子づくり、クリスマスツリー作り、凧揚げ、ゲーム遊び…他</p>			
<p>3年間の積み上げ</p> <p>↓</p> <p>題材・内容の深まり 完成度は上がる</p> <p>幼稚園・中学校の取組</p> <p>巻き込んだ実践</p> <p>小学校・公民館・企業</p>			

	成 果	課 題
園	<p>・ただ、一緒に何かをするという交流ではなく、今ある子どもたちの姿から、“こんな育ちにつなげたい”というねらいを明確に持ち、中学校の先生と何度も保育内容を練り上げてきたことで、お互いが育ちあえる協働保育になった。</p> <p>・日常のかかわりを大切にして、子ども同士、職員同士の心の垣根が低くなったことでコラボレーションに発展しているということを確認することができた。</p>	<p>・積み上げてきた日々のかかわりを、これからも大事に継続してしていけるよう、中学校の先生方との関係を大事にしていきたい。</p> <p>・新たな教科でのコラボにも発展してきて、うれしいところであるが、お互いに負担にならないように、今の取組の内容を見直し、改善したり、質を深めていければと考える。</p>
* 子どもにとって	<p>中学生と一緒につくることを心待ちにしていた子どもたち。「こんなポンチをつくりたいな」と考えていたアイデアを、中学生が試行錯誤して取り入れて、本物のようになったことで、充実感を味わい、更に中学生のことが好きになった。</p>	<p>子どもたちが『きぬがさポンチ』づくりを心から楽しみに思えるように、様々な手立てに努めてきた。年齢が小さければ小さいほど、子ども自身が興味を持って取り組むための手立ては難しい。お互いが育ちあえるような協働保育としての質を更に高めていきたい。</p>
* 子どもにとって	<p>・様々なアイデアを考えたり、それを相手に伝えたり、取組を通じて、ただふれあいを楽しむだけでなく、人との関わり方も学ぶことができた。</p>	<p>・幼稚園、中学校の先生方の日々の積み重ねにより、園での生活は非常に充実したものになっているように感じる。子どもの成長を育むため、地域でできることを考え、支援していきたい。</p>
地域 (公民館)	<p>・中学校とのコラボや企業の支援等もあり、様々な立場の人に子どもたちの様子や取組の内容を知ってもらうことができた。また、子どもたちのアイデアを取り入れながらの取組であったため、子どものことを考える良い機会となった。</p>	<p>・地域、学校、保護者が一体となり、拡大傾向にある取組を無理なく行うことができる体制づくりを目指す。</p>

評価及び次年度に向けての取組みの方向



○衣笠中学校との授業のコラボレーションの一つ、クレイでの『きぬがさポンチづくり』は、今年度3年目を迎え、年々、題材や内容が深まり、発展したものとなっている。今年度、ポンチづくりに取り組んだ子どもたちは、昨年度から心待ちにし、「今度は自分たちが中学生とつくるんだ！」と張り切り、心から楽しんでつくりあげることができ、充実感いっぱいであった。「僕のアイデア、入れてもらえた」「さすが、お兄ちゃん、つくるの上手や」と、自分の思いを十分に受け止めてもらえ、自分たちだけではつukれないスペシャルな『きぬがさポンチ』をつくりすることができる特別な経験となった。そして何より、「また一緒に遊びたい」と中学生のことが更に好きになった。中学生は、園児の思いをなんとか取り入れてあげよう、つくってあげよう、と思いやりを持って接してくれ、園児に頼られることで、自己肯定感を持って意欲的に取り組む姿が見られていた。

これまでには、中学校の先生と何度も検討を重ね、指導案を作成したり、教材研究をしたりしてきた。このような体制をとることができたのは、やはり日々の教師同士のかかわりが深まりを増し、いい関係が築き上げられているということが大きな要因であると思われる。

○この協働保育で形となった『きぬがさポンチ』は、小学校、公民館、地元洋菓子店、企業を巻き込んだ実践となり、三栖地域の学社融合の大きな賜物であると思う。幼稚園の子どもたちにとっては、自分たちがこの『きぬがさポンチづくり』にかかわったことで、“地域とつながっている、地域の一員である”ということを実感することができている。更に地域に目を向け、広げ、そしてかかわっていく工夫をしていければと思っている。

○立地条件だけでは成し得ない、日常のちょっとした一コマを交流のチャンスとして見つける努力をしてきたことで、日常的な交流に加え、授業のコラボレーションができる関係にまで、発展してきたことを、これからも大事に継続していけるよう、努めていきたい。

学社融合活動実施報告

園名		上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 旧田辺市の北東部、市街地より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は3世帯である。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族17世帯、同居家族8世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会はじめ、あらゆる組織・団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。</p>				
活動名			上秋津地区あんしんネットワーク	
			学年・教科・領域等	
目標	園	<ul style="list-style-type: none"> ・上秋津地区の一人暮らしの高齢者(要援護者)を対象にした安否確認を兼ねた配布活動に、幼児なりの方法で参加する。 ・心をこめて作品や手紙を作ることを通して、高齢者の方々に対して思いやりの気持ちを持つ。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の安否を園児が確認し、交流を深めることで高齢者の方々が安心して暮らせる地域づくりを目指していく。 		
<p>支援者及び支援組織 上秋津地区民生児童委員、上秋津地区福祉委員会、社会福祉協議会、絵本タイム支援者</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>7月14日 絵本タイム支援日、読み聞かせ支援者でもあり、地域民生委員でもある原進一氏から、上秋津地区安心ネットワークの構想の提案を受け、話し合う。安否確認のための訪問に、地区内の幼児の作品や児童の手紙を添えたいとの内容。</p> <p>7月16日 職員会議。趣旨に賛同して、幼稚園としてできることを検討する。</p> <p>9月8日 絵本タイム支援日、原進一氏と具体的な内容を話し合う。(作品の大きさや期日、人数、対象の方についてなど)</p> <p>9月9日 職員会議。</p> <p>10月28日 行事が多い中での幼稚園での取り組み方を考え、実践できるための計画を立案する。原進一氏と社会福祉協議会地域福祉課長の兼久氏が来園。正式に依頼を受ける。作品の試作品を提示する。また、絵手紙は対象者一人ずつ、宛名を書くことに決める。</p> <p>11月20日～ プレゼントのウサギとクマの小物入れ製作をする。わかりやすく趣旨を伝えると、「おじいちゃんおばあちゃんに作ってあげたい」「クリスマスに喜んでもらえたら嬉しい」との声が出てきて、幼児なりに心を込めて作品づくりをする。</p> <p>11月20日 社会福祉協議会地域福祉課より、名簿が届く。</p> <p>12月10日～ 年長児が宛名をひらがなで書いてから、相手に思いを馳せながら絵手紙を仕上げる。</p> <p>12月15日 職員がラッピングした作品を子どもたちが民生委員や地域の方々に贈呈する。</p> <p>12月22日 原進一氏が来園。対象の高齢者に届け喜んでくれた旨の報告を受ける。</p>				
				
作品製作		作品贈呈		高齢者訪問

	成 果	課 題
園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の取り組みの中に参入させてもらったことで、地域の幼稚園としての存在感が得られるきっかけになった。 ・地域の高齢者の方々とのふれ合いの幅が広がった。 ・幼児なりに役に立つ喜びを感じられる場を与えることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時期的に行事が多く忙しい10月から11月の活動となった。クリスマスプレゼントとの趣旨も聞いていたので、しかたがないところだが、今後、時間的なやりくりが課題となる。 ・実際に対象の高齢者と会うわけでないので、役に立つ喜びを感じるための教師の投げかけや援助などの指導の力量が重要なキーポイントとなる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ自己中心性が残る幼児期だが、一人暮らしの高齢者の存在に気づき、心を込めて制作することで、思いやりの心が育った。 ・保護者の方々も地域に貢献できることを喜び、賛同して下さっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の喜びの声が実際に聞かれるような機会づくりを考えたい。 ・保護者の関心も高まれば、地域社会との連携がもっと深まると思われる。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・園児達が高齢者の方々を思い手紙を作成することで、思いやりの気持ちを知る良いきっかけになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の方との交流を重ねて、人間性豊かな思いやりのある子どもに育ってほしい。
地域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・普段幼稚園と関わらない高齢者の方々との交流が出来た。 ・多くの方々に喜んでもらい、来年もこのような交流できる活動を行ってほしいとのお声もいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような活動を通じて、地域住民が上秋津幼稚園に関心を持ち、幼稚園で行われている絵本タイムの読み聞かせ等に参加してくれる方がひとりでも増えて行けば良いです。 ・高齢者からお礼に何か園児のためにしてあげられるようなイベントを企画していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・絵本タイム支援のつながりによって生まれた活動である。いつもお世話になるばかりでなく、幼児にも出来ること、また幼児だからこそ出来ることを提案していただいたことは、幼稚園だけでは思いつかない役に立てる喜びを与えてもらったと感謝して、互惠性がより深まったような思いがしている。

・また、この安心ネットワークの取り組みは今年度、立ち上げたばかりで、初めての試みであったが、高齢者の方々に変え喜んでもらえたと報告を聞き、実践できたことを大変嬉しく思えた。特に、地元の子どもの作品は高齢者にとって温かく感じられるようである。

・本園の園児たちは、老人会や老人保健施設への訪問など、高齢者の方々との交流の機会が多く、普段から親しみを感じている。だからこそ、「一人暮らし」「さびしくないように」などの言葉の意味を理解して、相手の見えない高齢者の存在をイメージしながら作ることが出来たのだと思われる。

・振り返って、この活動は、幼児にとって、人との関わりの積み上げがないと、ただの作品づくりの作業になってしまいかねないと感じた。幼児期に、この趣旨を捉えた取り組みが出来たことは、学社融合を活用することによって、様々な世代の人々との関わりが相手を思いやる心、高齢者を大切にしたいという心などを育てていると改めて感じる事が出来た。

《次年度に向けての取り組み》

今後、さらにこの活動が広がり継続していくことになる予定と聞いている。日々の活動に支障がない範囲での協力をしていきたいと考えている。このような地域を大切にする組織的な活動に参加して、今後も地域の幼稚園としての存在感を強めていきたい。



一人一人に宛て描いた絵手紙

学社融合活動実施報告

園名	中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>中芳養地域は、今年度より3年間の地域共育コミュニティ事業の指定を受け、子どもの健全育成と地域交流の活性化を図るため、中芳養共育コミュニティ本部を立ち上げ、活動や取り組みを進めているところである。</p> <p>中芳養地区には、地域あげての夏の恒例行事『中芳養夏まつり』があり、今年は12回目を迎えるはずだった。しかしそれは残念にも雨で中止となってしまった。中止を決定するまで、そしてその後、皆でこの準備してきたものを無駄にしないための知恵を出し合い、その後の活動への広がりが見られた。また、共育コミュニティ本部事業として学社が作品を出し合い『第1回 中芳養合同作品展』を12月に開催し、400名近い入場者で賑わった。一つ一つの事業を立ち上げるまでには相当な尽力が必要で試行錯誤をしながらではあるが、学校と地域・各種団体の連携や協力体制は深まりつつある。</p>			
活動名	第12回中芳養夏まつり／延期・中止・そして…	学年・教科・領域等	全園児（地域の中で）
目標	園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のいろいろな年代の人とふれ合い、人の温かさや優しさを感じ、人とかかわる喜びや楽しさを感じる。 ・地域の人・場・行事にふれ、地域や身近な人に親しみを持つ。 ・幼稚園を地域に開き、地域とのつながりや幼稚園教育への理解を深める。 ・地域の方と一緒に考え、同じ時間を共有しつながりを深める。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じて地域内の各種団体に連携を深める。 ・「子どもも大人も参加し、事業を盛り上げる」という地域参加、地域奉仕の心を育む。 ・子どもたちの活動に目を向け、地域で子どもたちの健全育成に取り組もうとする気運を高める。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>夏まつり実行委員会（中芳養公民館・中芳養町内会・中芳養幼稚園・中芳養小学校・中芳養中学校・中芳養幼稚園PTA・中芳養小学校PTA・中芳養中学校PTA・消防団・芳寿会・JA中芳養支所） 高校生ボランティア</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>☆幼稚園内での取り組み</p> <p>7月 8日(火)～ 夏まつりのポスター・夜店の看板作り（5歳児）</p> <p>7月10日(木)～ 灯ろう作り（全園児）</p> <p>7月16日(水) ポスターを地域の拠点に貼ってもらえるように子ども達が依頼に出向く。(4ヶ所)（5歳児）</p> <p>7月31日(木) 保護者全員で、夏まつり当日に幼稚園が担当する夜店のヨーヨー作りをする。</p> <p>地域の方に、盆踊りを教えていただく。(保護者と園児全員)</p> <p>☆地域・各団体との取り組み</p> <p>6月 6日(金) 地域連携担当者会で昨年度夏まつりの反省から実施方向を検討(幼小中公担当者)</p> <p>6月16日(月) 中芳養夏まつり事務局会議(公民館長・主事・町内会長・JA支所長・幼小中園校長・担当者)</p> <p>6月23日(月) 中芳養夏まつり実行委員会(各種団体の代表者17名が参加)</p> <p>7月 8日(金) 地域連携担当者会で協力体制や細部までの検討協議</p> <p>8月 2日(土) 午前10時30分 大雨のため翌日への延期決定</p> <p>8月 3日(日) 『中芳養夏まつり』会場準備 午後9時～ 会場となる中芳養小学校の校庭の雨水の処理</p> <p>地域連携担当者が校庭の水を吸ったり流したり悪戦苦闘していると、地域の方も一人二人と手伝いに来てくださる。雨は降ったり止んだり。午前11時、実行委員会の各団体の長が集まり、雨の中でも行える方法(テント、体育館や公民館の使用等)を模索検討するが、駐車場の確保ができないことで断念。やむなく12回目にして初の中止を決定する。</p> <p>買っていた物は今後の地域内のイベントに活用する手配をし、幼稚園PTAが準備したヨーヨーは、4日～6日まで幼稚園で《ヨーヨー釣り屋さん》を行うこととし、幼小中学校の連絡メールで全家庭に伝える。</p> <p>8月 4日(月)～6日(水) 幼稚園で《ヨーヨー釣り屋さん》開店 幼児9名・園児25名・小学生63名・中学生2名 と付き添いの祖父母や保護者30名余りと全部で約130名が参加</p> <p>8月25日(月) 地域連携担当者会で反省報告会 夏まつりが中止となった時、ある園児は「家は雨やけど、もしかしたら学校は大丈夫かも知れん」とわざわざ小学校まで確認に来た。6年生の児童は「ぼくらの夏は終わってしまった…」とポツリともらした。また、ボランティアを楽しみにしていた高校生は「来年も立候補して手伝うから」という言葉を残してくれた。等々、それぞれの思い入れが伝わるエピソードが届いた。</p> <p>☆その後の展開</p> <p>保存できるものは公民館で保存(夜店景品類)、花火は各区に分けイベントで使ってもらおうよう手配。園児が作っていた灯ろうは、地域の合同作品展でお披露目。小学生が練習してきた地域に伝わる『郷歌』と地唄での盆踊りは小学校と中芳養地域共育コミュニティ推進本部が主催するコミュニティ運動会で披露することとなる。</p>			

	成 果	課 題
園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体が、それぞれの知恵や力を出し合い、一つのイベントに向けて取り組んでいる事、そして、臨機応変な対応を協議し合える体制が整ってきていることに大きな意義を感じる。 ・保護者が地域の行事に参画し、地域の方とつながるいい機会となる。 ・地域の行事・イベントに積極的に参画することにより、地域とのつながりが深くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の盛り上がりを消えさせることなく、来年度につないでいけるよう各団体との協力体制を大切にしていきたい。 ・幼稚園内でも、現保護者から次の保護者へ・年少から年長へと引き継がれている好循環を大切にしていきたい。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の活動や頑張りを見てもらえる機会が増えることで、いろいろな声が届き、園児の自信や頑張る気持ちにつながる。 ・地域のいろいろな年代の方とふれ合い、楽しい時間を共有できるいい経験となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分達が楽しい時間を過ごせるのは、たくさんのお世話をしてくださる人がいるということに気づき、感謝の気持ちが持てるように進めていきたい。
*子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・園児も地域の事業に参画する喜びが味わえた。 ・自分達のしたことが地域の方々から感謝され、役に立つ喜びを味わい、自己肯定感の醸成につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知りの人たちに自分から挨拶をするなど、自主性、社交性を身につけさせたい。 ・地域の事業に対して興味・愛着を持ち、自分も頑張りたいという気持ちを持てるように進めたい。
地域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じて地域内の各種団体で連携を深めることができた。 ・地域全体で子どもの活動を見守り、支えるという気運が高まってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の協力体制づくりや、反省会などを積極的に持ち、今後も組織的に事業を進めていけるように努力していく。 ・子どもたちの活動が地域の人に伝わるように学校だよりや公民館報などを通じて広報していく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

平成15年に立ち上がった中芳養地域あげての一大イベント『中芳養夏まつり』も今年で12回目となるはずだった。しかし、大雨となり延期・そして中止となる。中止決定までの実行委員会内での暗中模索は大変だったが、何とか実施できないか…どうすれば実施できるかとそこにいる全員が知恵を出し合った。その時間は、地域の代表の方々との一体感を感じられる大切な時間となった。「雨降って地固まる」の言葉通り、この時間を共有できたおかげで、地域のいろいろな方々との**つながりがより深くなり**、何かある度に顔をだしてくださり、「幼稚園はどうな」と声をかけていただけることが増えている。

この夏まつりについては、6月から実行委員会や地域連携担当者会で昨年の反省を下に見直しや、次を見据えた新しい取り組みへの協議検討を重ねてきた。今年度は小学生が舞台の上で中芳養に古くから伝わる『郷歌』を披露・幼稚園からは園児手作りの灯ろうで夏まつりに花を添えようと企画し準備を進めた。また、次世代の担い手につないでいく手立てとして、地域の高校生に声をかけボランティアでの参画や、子どもだけでなく大人も楽しめるようにと、飲食物のチケット販売という新しい取組も立ち上げ、準備万端！みんなが楽しみにしていた。雨で中止になってしまったが、地域の中で老若男女いろいろな世代や各団体の中で、**今までにない盛り上がり**が見られていた。この盛り上がりを来年度の夏まつりにもつないでいけるように大切に進めていきたい。

幼稚園においても保護者の協力体制や、園児の年長から年少へと引き継ぎがうまく進んでいる。これからもこの好循環サイクルを大切にしていきたい。

幼稚園だけではできないことも、地域の各団体と力や考えを出し合い協力し合うことでいろいろな可能性が広がっていく。これからも地域の方々とのつながりを大切に、知恵や力をお借りしながら園の取り組みを充実させていきたい。



講評

I はじめに

田辺市から送られてきた46の実践報告を詳細に読ませて頂きました。読後には溢れんばかりの感動が残り、こういう機会を与えて頂いていることに改めて感謝致しました。

今年度は、「変化」を視点として読み込みました。一つの実践に1時間程しかかけられませんでした。約半月をかけ、これまでの報告書と比べながら、それぞれの学(園)区に起きている変化を読み取ることを試みました。

II 各学(園)区に見られる変化

1 田辺第一小学校区

まず、注目したのは、公民館(地域)が掲げた目標でした。「互いが学びあっていることを自覚し、子どもと大人の双方向性のあるつながりを築く」中で、「一人ひとりが尊重されていることに気付かせ、他人も尊重すべき存在であることに気付かせる」と書かれていました。田辺市の学社融合の深化を感じさせる表記でした。

実践は「地域の方々とふれあいながら、活動を通して伝統芸能や文化に触れる」ことをねらったクラブ活動でした。12種目の活動があったとのことですが、「今年度から新たに設けた歴史クラブでは、地域の歴史について学び、身につけた知識をより確かなものにするため、地域の方々のご協力の下、フィールドワークを行った」とありました。地域の方々の参加、参画が確実に広がっていることを伺わせる記述でした。

また、「琴クラブでは、地域の大人の方が多数参加し」、「児童たちと一緒に練習を行い、発表会に向けて児童も大人の方々も目標をもって活動に取り組んでいる」、「地域住民に学びに対する意欲が生まれ、クラブ活動に学習者として参加してくれた」と、これまでは見られなかった学習参加型の学社融合が行なわれ出したことが分かりました。

これらの活動によって、「地域との連携によって教育力の向上が図れた」という大きな成果が得られたとのこと。その教育力の向上は、「地域作品展にて、クラブ活動で制作した児童の作品展示」、「茶道クラブによるお茶席開催」、「紀州てまりクラブでは国体てまりを作成」など、子どもたちが地域に直接的に働きかける活動が行なわれたことによってもたらされたと考えられます。このような成果は「学校と地域が連携した活動を継続してきた結果」であり、「地域住民に学社融合事業に参加する喜びが生まれた」ことに起因することが報告書から読み取れました。この一年で、田辺市の学社融合はさらに奥深くへと突き進んだようです。

ところで、「地域より得意分野を持っておられる方をゲストティーチャーとして招聘」とありますが、「互いが学びあっていることを自覚し、子どもと大人の双方向性のあるつながりを築く」という目標設定と、「ゲストティーチャー」という表現が矛盾しているように感じられ、少し気になりました。

2 田辺第二小学校区

「本年度は、6年生が総合的な学習の時間に公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出掛けて歴史学習に取り組んだ」とのことですが、その報告で注目したこと

は、大きくは三つでした。

まずは、公民館の積極性です。「再発見！ ふるさと『たなべ』 ウォッチング」の実践で、「現地学習を公民館主事がコーディネート」、「双方のスケジュールの調整や学習内容の確認等を積極的に進める」など、公民館が「学校と地域の方との間の橋渡しとしての役割を十分に果たすことができた」としています。

二つ目は、調査結果を「パンフレット」にまとめたり、「保護者に現地学習をした場所についてアンケート」したり、「学習成果を保護者やお世話になった地域の方々に紹介した現地報告会(語り部活動)を開催」したりしていることです。このような活動は評価融合という類型の学社融合で、地域や保護者の方々を評価者と位置付け、子どもの活動を評価する場面で学社融合する活動です。ここで言う評価とは、子どもを励まし、学習や活動の意欲を高め、持続させ、地域での実践化を促すことを目的として行われる行為です。田辺市に新たな学社融合が拓がりつつあると感じました。

三つ目は、公民館が目標に掲げた「子どもたちに地域の良さを伝えることで、自分たちも再度地域について見直す機会とする」ということです。実践の結果、「学習したことを発信することで、地域にお住まいの方にもふるさとの歴史について知ってもらうことができた」とのことで、目標は見事に達成されています。それは子どもが持つ教育力が上手に活かされたからこそ成し得たことです。他校(園)区からの報告に「地域の活性化に貢献」という記述が多々見られますが、活性化の手段として子どもが持つ教育力を活かすことが考えられます。地域の活性化を目標に掲げる校(園)区には、田辺第二小学校区の実践報告は大いに参考になるのではないのでしょうか。

3 田辺第三小学校区

昨年の報告には「西部地域共育コミュニティ本部」の名称が見られましたが、今年度の報告には「西部地域学社融合推進協議会」となっていました。推進組織の名称は国や県の施策展開に影響されがちですが、国や県の施策は恒久的なものではないだけに、今年度使用された組織名称の方が継続的に使用できると思われれます。それはさておき、田辺市の学社融合が中学校区単位の組織によって推進されていることはとても素晴らしいことだと考えます。ざっと数えても30にもものぼる学社融合活動の多彩さに圧倒されましたが、組織的推進であることを考えると、その多種多様さも納得できます。

さて、今回の報告で最も注目した点は、公民館(地域)が掲げた「本年度から地域主導型の学社融合事業に移行していく」という目標でした。田辺市の学社融合は全くの白紙の状態から始まったため、その当初、行政主導で推進するしかありませんでした。その後、学校と公民館の積極的なかわりにより、その中心的な担い手が学校と公民館になりましたが、なかなか市民が主体となった学社融合活動は生まれてきませんでした。ところが最近学社融合に主体的に取り組む市民の姿が報告されるようになりました。主体的市民活動として学社融合の実践は、田辺市の学社融合が本格的なものへと進化したことを裏付けるものです。田辺市が今後学社融合の更なる推進を求めるには、市民の主体性を喚起していくことが必要不可欠です。田辺第三小学校区では、「コーディネーターを増員」し、「本年度から地域コーディネーター自らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している」とのことで、とても素晴らしいことだと思います。田辺第三小学校区で蓄積さ

れつつある地域主導型の学社融合の推進手法を参考に、田辺市全体に一日も早く主体的市民活動としての学社融合が定着することを期待しています。

なお、田辺第三小学校区で使用されている学習支援ボランティアの呼び名である「OK先生」には、とても興味を覚えました。子どもたちは「OK先生の励ましや賞賛の言葉掛けで学習する喜びを味わい、地域の方と触れ合う良さを感じとることができた」とのことです。「OK先生」という呼び名には、子どもをありのままに受け入れ、寄り添い、わずかな成長をも賞賛しようという田辺第三小学校区の想いを感じます。とても素敵なネーミングだと思います。

4 芳養小学校区

「参加人数は、約550名」、「講師・協力者の人数は、当初に比べて、2倍に増えた」、「生け花、茶道、書道、読み聞かせ、囲碁、中国語、英語、キンボール、フェルトの9教室から選べて、時間さえ重複しなければいくつも教室を選べる」、「保護者や地域の方々が気楽に学校に出入りするようになり、学校と地域の垣根がなくなった」という「芳養ふれあい教室」の実践報告に触れ、その更なる充実ぶりに心底驚嘆しました。

ところで、今年度の報告には「芳養ふれあい教室」の初心を振り返るような記述が見られました。発足から「今年で8年目、研究指定から5年」という経緯を考えれば、発足時の初心を振り返るべき時期に来ていることは間違いないと思います。

今回の報告でも「芳養ふれあい教室」は「学社融合を推進させるため」に発足したとしています。形態的には「放課後子ども教室」ですが、その設置目的は地域と学校を繋ぐ場の具現化にありました。ですから「学校側が放課後に多目的教室や体育館などを開放」することは、学校のためでもあるのです。教職員はそれを忘れてはなりません。芳養小学校に異動して来る教職員にも語り継がなければならないことだと思います。

また、「芳養ふれあい教室」は、当初は「公民館と学校が中心に結成した」ものですが、今や「芳養ふれあい教室実行委員会を基盤に、茶道や書道などの教室を開催している講師や協力者が運営する」ものとなっています。したがって、地域住民は「全員がボランティアとして参加する」という意識を継承していかなければなりません。

報告書に「継続の要因は、公民館の事務局がコーディネーターとして地域住民と学校と教育委員会と連絡を取った。また、講師・協力者全員がボランティアとして活動した。そして、学校と公民館が両輪として機能した」とあるように、「芳養ふれあい教室」の継続は、地域住民・学校・公民館の融合があつてこそ成し得るものです。そして「芳養ふれあい教室」の活動の活性化があつてこそ、芳養小学校区の学社融合はさらなる進展が図れると考えます。原点回帰のための研修を早期に実現されると良いと思います。

5 大坊小学校区

大坊小学校区の実践報告を読み、田辺市で学社融合を進めてきた成果の一つに学校の変化が挙げられると思いました。

報告に「校区は大坊区と団栗区の二つの地域からなるが、児童数の減少で団栗地区の児童は今年の6年生を最後に、当分いなくなる。それに反し、老人会の人数は増えているが、会長さんの話によれば、動ける人はそう多くない」と、地域の厳しい現状が記されています。しかし、その一方で、「毎年、白楽会の皆さんは、学校で注連縄作りを教えることを当然のこととして活動してくれている。注連縄の飾りつけの日は、みかん産

地としては大変忙しい時期であるが、うらじろ等の採集にも快く応じてくれる」、「9月に行なう学習発表会にも参観してくれる人が多くなり、『自分の家の子が卒業したから学校には行きにくい』という雰囲気が、徐々に薄くなってきているように感じる。おかげで児童とも顔見知りの方が多くなり、校外でも声をかけていただくことが多く子どもたちも喜んで」と、元気な地域の姿も報告されています。「児童数の減少」、「今年の6年生を最後に、当分いなくなる」、「老人会の人数は増えているが、動ける人はそう多くない」という実態に負けない元気を生み出しているのは、「そのような地域の実態だからこそ学社融合を推進しよう」とする大坊小学校の姿勢だと思います。今、大坊小学校は地域に寄り添って共に歩んでいると思うのです。

大坊小学校では、今後、「地域の伝統を次へつないでいく」ため、「学年が上がり、初めて自分の力で縄をなうことが出来たとうれしそうに語る児童」の育成をめざし、「低学年児童にとっては難しい作業ではあるが、だんだんと上手に出来る自分を実感させる」ことを続けると共に、「次年度からは高学年児童がこれまで教えてもらったことを下の学年に語るような場面も設定していきたい」としています。「地域の伝統を次へつないでいく」ことを体感させるよい手立てだと思います。また、「子ども達は、作ることに集中し、材料集めも手間がかかる事であるとは気が付いていない。また、どの地域でも簡単に手に入る物と思っている児童もいる。来年度は材料採取についても関心を持ちそこに人々の知恵があることにも気付くよう働きかけていく」、「白楽会と学校、児童が良い関係作りができるよう、ふるさと学習以外での交流も深めていく」ことは、さらに地域を元気にさせていくことになると思います。「児童の地域貢献についても、ご意見をいただき活動の幅を広げていきたい」という大坊小学校の姿勢は、さらに学校を変え、地域を変えていくことになるのではないのでしょうか。

6 新庄小学校区

今回の取り組みは「農業体験学習」ですので、「農業の学習や体験をすることにより、地元の農業の様子を知り、地域への理解を深めることができた」、「農作物の様子や作業から栽培の苦労と収穫の喜びを体験させることができた」、「分担を決め世話をすることから、役割の大切さを経験させることができた」という成果を得ることができれば、学校教育としては十分に目的を果たしたことになると思います。

しかし報告にはそのような成果だけでなく、「子どもたちと地域の方々が触れ合うことで、地域の活性化に繋がったのではないか」とも記されています。学校側の成果として「地域の活性化」があげられたことにとっても驚くと共に、大きな喜びを感じました。そのような記述からは学校が学校教育の充実ばかりでなく、学社融合によって地域の活性化を図りたいと考えていることがうかがい知れます。新庄小学校では、さらに「児童が直接地域の役に立つようなものや学校の教育力を地域に生かすことのできるような活動を増やしていく必要がある」とまで記しています。学社融合に取り組んできたことにより田辺市の学校は変化したのです。地域の活性化を意図し、地域に積極的に働きかける姿勢を持つようになったのです。田辺市の学社融合は確実に深化したのです。

7 新庄第二小学校区

新庄第二小学校区の報告にも「地域の活性化」の文言が見られました。具体的には、取り組みによって、「地域の方々や公民館サークルの方々が授業や行事に参加すること

で、児童や保護者との触れ合いの場の枠が広がり、地域の連帯感を育てる」や、「体験活動やカレー作りなどを主体的に企画し、準備・運営をして、まつりを盛り上げようとする意識が根付いている」、「体験活動その他で、意欲的に新しいものを取り入れようとしている。本年度は、体験学習の中に『ファイヤー・レスキュー』を、閉会式には『もちまき』を取り入れた」などの変化が地域に見られたとのこと。

報告では、そのような変化は「子どもたちと地域の方々が触れ合うことで」もたらされたとしています。そしてそのような変化を引き起こした要因は、「学社融合の趣旨を理解、つまり、この行事が学校を含め各団体の協力によって成り立っていることを充分理解」し、「主体的に企画し、準備・運営」したことにあると記しています。その記述からは、学社融合の活動を継続することによって、新庄第二小学校区の保護者や地域住民の間に、子どもの教育の主体者としての自覚が促され、広がり、定着していったことが読み取れます。

新庄小学校区の実践は、学校や公民館以外にも学社融合の主体的担い手を作っていくことがいかに大切かを教えてくれるものだと思います。

8 稲成小学校区

稲成小学校区の報告にも「コミュニティの活性化」という文言が見られました。

その「コミュニティの活性化」は、まずは「地域社会の中で、住民と子どもたちとの関わりを深める」ことに始まり、そのことが「地域全体の繋がりを深める」ことになり、その結果「コミュニティの活性化」が図られるという構図になっています。このような思考回路は他校（園）区にも見られ、田辺市全体に共通した思考回路と考えられます。この思考回路は、地域活性化について論理的に分析したことから得られたものではなく、学社融合を進める中で学校や地域が体得した経験知であると思います。

人口減少、少子高齢化などの課題を抱える各地域にとっては、この経験知は大きな財産となっているのではないのでしょうか。学社融合を通して地域住民と子どもたちが積極的にかかわることを進めていくことは、田辺市の将来にとって大きな意味を持つことだと言えると思います。

9 田辺東部小学校区

田辺東部小学校区の実践は、数基のベンチを中心教材に進められました。着眼点の素晴らしさに感心してしまいました。そのベンチとは、「運動場の一角に」置かれた「かまどベンチ」です。「かまどとして使わないときはベンチとしていつもあり、子どもたちが常時目にするができる」ものだそうです。今回の実践によって、「そのベンチが、大きな災害が起こったときにはかまどとして役立つことを知り、災害について意識化することができた」そうです。

まずは、ベンチ造り。「学校や町内会、公民館で行っている防災・減災活動を充実させるための連絡協議会」である「ひがし防災連絡協議会」が主催する「ひがし防災カレッジ」で行なわれました。その活動を通し、「防災について4つの町内会が一つにまとまって、広い地域での活動につながった」や「高校生と地域の方々が一緒になって、世代を超えた取組ができた」、「かまどベンチ作成には、田辺工業高校生徒会のメンバーも参加し」「自分のふるさととして意識して働いてくれた」といった成果を手に入れています。

一方、小学生については、「学校行事・総合的な学習の時間」として、「防災教育の一

環として、東南海・南海地震などの大災害が起こった時には田辺東部小学校が避難施設となることを認識するとともに、災害時に備えてかまどベンチの使い方を学ぶ」ことが行なわれました。かまどベンチを使った「炊き出し訓練は、保護者とともに参加できるので親しみやすく、また、大きな災害が起こったときの約束などを親子で確認する」ことに繋がったと報告されています。「田辺東部小学校が避難施設となる」など、「地域の中の学校」が強く意識された素晴らしい実践であると思います。

10 会津小学校区

「教職員が公民館へ出前講座」の実践は、教職員の地域貢献活動です。

報告には、教職員が「講師・指導者として、公民館行事に協力している」とありますが、それは「地域での子どもたちの活動に触れることが出来る良い機会」となっているようで、その結果「学校と公民館の連携が強くなっている」とのことです。

今年は「おもしろ科学教室」を実践したとのことですが、内容は、低学年「紙コップロケット」「クルクルタネコプター」、高学年「パタパタ飛行機」づくりだったとのことです。報告には記されていませんが、教職員が講師を務めたことから推察するに、それぞれの題材は教育課程と何らかの関連を持っているに違いないと考えます。学校での学習の深まりや発展を図る公民館子ども教室となったのではないのでしょうか。

また、報告には、「子ども・その保護者・おじいちゃん・おばあちゃんの参加があり、大変子どもにとって充実した教室となった」とあり、教室が世代間交流や地域の絆づくりに役立っていることがうかがい知れます。今後は「参加者を増やし、子ども・その保護者・家族・地域の人々をつなげるという視点も大切に」したいという記述に、田辺市の教職員が学校教育以外の子どもの教育をも視野に入れられるようになったことが感じられました。これも田辺市の学社融合の成果の一つなのではないのでしょうか。

11 上芳養小学校区

「一連の活動を通して、地域理解と地域を誇りに思う心を育むことができた」という大きな成果が報告された活動は、「3年生から総合的な学習の時間を使って行われている『梅博士になろう』という学習」です。この「一連の学習は、4年間という長期的な取組みであるため、系統的な学習を展開することができ」、「児童のコミュニケーション能力や地域（郷土）愛、豊かな心を育み、人格形成に果たす役割は大きい」とのことです。「活動の計画から公民館・田辺市梅振興室・JA紀南・梅農家の方々等、様々な人と繋がりをもつことができ、交流が深まった」と、地域の参加・参画によって支えられた「梅博士になろう」学習は、学校教育にとって実に有意義な学習となっています。

しかし、「梅博士になろう」学習がもたらす成果は、それだけではありません。「同時に、地域作りにも貢献できている」というのです。その成果は主に「学習の締めくくりとして6年生で梅配りを行う」ことによってもたらされています。「修学旅行の梅配りでは緊張もあったが、自分達の地域の自慢である梅を配ることで自分自身の自信にもつながった」、「PR活動等を行うことで地域に誇りを感じ、梅栽培の仕事についての理解が進む。このことは、後継者不足の問題解決の糸口として期待できる」と記されています。地域が抱える現代的課題をも意識した優れた実践であると思います。

田辺市では、学校が地域から支援を受けるだけでなく、学校が地域に貢献するという、双方向性を持った良好な関係が築かれており、とても素晴らしいことだと思いました。

12 中芳養小学校区

平成26年9月28日(日)に地域を巻き込んだ運動会を実施していますが、『地域とのつながり』を意識できるようにと、運動会の名称を「中芳養コミュニティ運動会」に変更しています。また、運営面で地域にも主体性を持ってもらうためと思われていますが、

「事前に検討会を持ち、公民館・町内会・PTA・学校とそれぞれで分担しながらの運営をしたり、運動会後には、合同反省会を持ち、この事業についての意見交換や反省を行ったりした」とのことです。さらには、「中芳養小学校出身の高齢者の皆さんを意識して尋常小学校当時の校旗を掲げる」こともしています。これらの様々な工夫によって、地域ぐるみの運動会にすることができたのではないのでしょうか。

平成26年12月13日(土)・14日(日)には、「中芳養合同作品展」を開催しています。地域の文化力の向上と交流の促進を図るために、今年初めて開催したとのこと。公民館が地域に呼びかけ、趣味を生かした地域の方の作品を集め、幼稚園・小学校・中学校の子どもたちの作品も展示した。公民館活動で行った『焦がし絵』教室の作品や老人会『芳寿会』の皆さんによる陶芸教室の作品も展示した。約500点もの絵画や写真、作品などが集まり来場者を楽しませた。また、地域の方の笑顔を集めた「300人笑顔プロジェクト」の写真や小学校の百年史をスライドで流すなどして、地域の方が懐かしく思い出せるような展示を心がけた。結果、「中芳養地域だけではなく、他の地域に住まわれている方々も中芳養合同作品展に多く来られていた。展示会は、子どもたちにとって普段見ることのできない作品に触れるよい機会となり、出品された方にとっても、自分の作品を見ている地域の人や児童の様子を見て満足感を味わうことができた」と、多大な成果を挙げています。

「中芳養コミュニティ運動会」も「中芳養合同作品展」も、地域の絆を創り出す良い活動であったと思います。これらによって生み出された地域の絆は、次年度以降「授業など教育活動の中に地域の方が入っていただけるような内容を設定」していくことでさらに強まっていくものと考えます。

13 上秋津小学校区

学社融合の実践にあたり、上秋津小学校では「幼・小・中・公民館の連携を強め」と考え、上秋津公民館では「地域住民と児童が交流する機会を作り」と考えています。これらの表現からは、それぞれが融合する相手のメリットに配慮した良好なかかわりを持っていることが推察できます。

公民館の目標には「地域活性化につなげていく」ということが記されていますが、それについても学校も同じ方向を目指しているようで、「学習や音楽の成果を地域に向けて発信したり、地域の方々の喜ばれるような活動になるように努める」、「平成25年度から始まった上秋津ふれあい音楽会について、保護者アンケートを実施した。その中で、地域をあげての音楽会、PTAコーラスの参加、ゲストの音楽家の歌唱や演奏等が高い評価をいただきました。来年も、さらに充実させて、地域の文化活動の発展に貢献したい」などと記しています。

上秋津小学校区における相互理解とスムーズな融合は、「年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館やその他協力機関と共通理解を図っている」からこそ可能なのだと思いました。

14 秋津川小学校区

「春秋会（敬老会）との交流」実践においては、「地域の行事に参加することで、地域の方との交流を深め、地域のよさを再確認し、地域と地域の文化を大切にする心を育てる」と、地域交流に対する学校の積極的な姿勢を強く感じました。その目的は、「普段から子ども達と接する機会の少ない高齢者の方々が、公民館主催のイベントを通じて、交流し楽しむ」ことができるようにすることにあり、さらにはそうすることで「地域の活性化に繋げていきたい」としています。

しかし、交流は高齢者へのサービスという一方通行的なものではありませんでした。「敬老会での発表は、地域の方にどんな子どもが小学校に通っているのか、どんな様子なのかを知っていただくとともに、子どもたちにとって大勢の前で発表するよい機会となった」と、学校にもメリットをもたらすものとなっています。だからこそ「地域との交流行事が多くなり、児童数も減少している今、行事の見直しは必要だが、春秋会との交流は双方にとって有益な部分が多いと思われるため、今後も継続していきたい」と言い切れるのだと思いました。

15 三栖小学校区

三栖公民館は学社融合推進の目標に「学校との連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める」と記しています。この目標設定には、学社融合を進める中で体得してきた経験知が活かされていると思います。少子化する地域で子供を育てる機運を育むため、学校と連携する必要度がさらに増してきています。

今回の実践では、「公民館文化委員の方が8名程度、また住職さんの協力などを得ながら説明していただいたり、一緒に弁当を食べるなど」「地域の人材を学校教育の場で生かすことができ、世代を超えての交流ができた」とのことですが、交流した人々は「普段接する機会の少ない方」でした。公民館が設定している「学校との連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める」という目標から見て、「普段接する機会の少ない方と交流」は大きな意味を持っています。「普段接する機会の少ない方と交流」が実現すれば、普段子どもたちと接する機会を持たない人々に地域の子どもの育ちに自分も関わっているという気付きを起し、自分も地域の子どもの育ちに貢献したいという気持ちを引き出すこともできます。普段子どもたちと接する機会を持たない人々に意図的に子どもと出会わせることはとても重要なことなのです。

地域の生活の中では大人と子どもが出会うことが少なくなってしまう状態にある今、「地域の人材を学校教育の場で生かすこと」は、地域の大人と子どもの出会いを演出し、「地域で子どもたちを育てようとする」地域の意識を培い、その輪を成長させるという重要な働きを持っているのです。

16 長野小学校区

長野小学校区では、地域学習「長野の『ステキ!』を見つけたよ」、「長野の宝『梅』について」、「那須与一の墓伝説・長尾の熊野古道(ジュニア語り部)」、「長尾坂のクリーン作戦」などの実践が行なわれています。

長野小学校はこれらの実践を通じ「地域から学ぶことは、地域の良さ、地域の人たちが大切にしてきたものを学ぶとともに、地域の課題に気づかせる機会でもある。将来、地域を支える力となる子どもたちに、これからの自分達ができる事は何かを考えていく

機会としたい」と考え、「地域に貢献している人々の生き方を通し、自分の生き方や進路を考える力を育てる」ことを目指しました。

長野公民館も「子どもたちなりに地域の将来を考え、自分たちにできることを考えてもらうきっかけをつくりたい」と考え、「子どもたちと継続的に関わり、子どもたちの地域に対する関心、地域の子どもたちに対する関心、それぞれを育む取り組みを展開していきたい」としています。

子どもを育てる方向の共有化を図り、子どもを育てる活動の協働化を進める長野小学校と長野公民館は、今後も「地域の課題等に、子どもたちなりに問題意識を持たせ、地域と共に学ぶことを大切にしていきたい」としています。長野小学校区の今の取り組みが、10年後、いや数年後には何らかの地域活性化を導き出すのではないのでしょうか。

17 伏菟野小学校区

6月初旬に行われるホテル鑑賞会「伏菟野ほたる鑑賞の夕べ」には、児童も職員も積極的に参加し、地域の方々と一緒に鑑賞会を盛り上げる一端を担っている。「ホテル学習」で育てた幼虫も自然観察園に放流しているため、自分たちの育てたホテルも飛んでいるという喜びを味わうとともに、地域の活性化に向けた取組に参画しているといった一体感を味わうことができ、児童たちにとっても有意義な取組となっている。

これは伏菟野小学校区の報告に記された一文ですが、ここにも「地域の活性化」の文言が見られます。伏菟野小学校が掲げた目標には「子どもたちのがんばる姿や元気を発信し、地域の方々も元気になっていただく」と書かれています。その目標実現のために、伏菟野小学校は「『地域に開かれた学校』を推進し、『学校と地域が共に児童を育てる』という理想を実現する」としています。一方、長野公民館は「地域住民の温かさ、人と人とのつながりの大切さを学ぶ」ことを目標として掲げ、地域の活性化を進める原動力となる温もりのある人間関係を子どものうちに体得できることを目指しています。そして、それらは、「自分たちの育てたホテルも飛んでいるという喜びを味わう」ことや、「地域の活性化に向けた取組に参画しているといった一体感を味わう」ことで達成されています。伏菟野小学校区の10年後も、これまた楽しみです。

18 咲楽小学校区

「学区民の教育に対する関心は高く、ほとんどの家庭がPTA準会員として物心ともに学校に協力してくれる。各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館分館長、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議を中心にして、学校と学区民との連携を図っている。運動会や学習発表会、学校開放の日には案内を全戸配布し、地域の方にも大勢参加してもらっている。また、教科や総合的な学習の時間に地域の方をゲストティーチャーとして招いたり、児童が地域に出向いたりして学習の幅を広げている。校内には地域の方の作品展示コーナーを設け、年間数回作品を入れ替えて常時絵画や写真等を掲示している。逆に児童の作品も地域の郵便局や文化展等に出品し、地域の方々に楽しんでもらうとともに児童の励みとしている。学年PTAでは地域の方を講師に、藍染めやお菓子作りを保護者と児童がともに楽しむ活動もしている。地域の祭礼では学区民のお世話で児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強い」。

この報告を読み、咲楽小学校区では、学社融合が、組織的に、様々な分野で、様々な

手法により具体化されていると感じました。本当に素晴らしいと思いました。

19 中山路小学校区

報告に「学校が地域住民の活動の場となり、生き甲斐の場となるよう公民館とも協力して様々な活動に取り組んでいる」と書かれていました。そのため、中山路小学校では「学校ができることと地域の方ができることを意識し、単にゲストティーチャーに教わるだけではなく、学校でも学習し、地域の方からも学ぶ、学校力と地域力とで子どもを育てる取り組み」を実施しています。

「今年度は初めての取組として公民館とタイアップし、地域の講師を招聘して児童・保護者・地域住民合同による人権学習会を開催した」とのことですが、中山路小学校ではこの実践でも講師の力に頼るだけではなく、「事前と事後学習に学校でも取り組むことで、興味関心がわき、地域の方の体験談をとおして、命を守る防災教育と命の大切さについて学ぶこと」をより深めています。

中山路小学校は、「事前・事後の取組みが大切であるので、自主的な学びを促す事前学習を計画し、事後は学習したことを振り返る取組みを今後も企画したい」と記しています。学社融合の授業実践をより実りあるものとするために、大いに参考になる考え方であると思います。

20 上山路小学校区

「公民館主事、分館長を中心とした学社融合の授業作りを行うことができた。」

この一文は、今年度の報告の中で、「田辺市の学社融合がここまで深化したか」と、最も驚き、最も感動した言葉でした。報告書では、さらに、「公民館主事を中心とした取組とすることで、学校が主体でなく地域を主体とした取組にすることができた。学校にとっては、授業であるゆえに教師が主となるべきではあるが、今回学社融合推進委員会で十分話し合い、公民館が積極的に動く体制をとれたことで、負担が大いに軽減できた。地域にとっても、上山路全体が交わる機会となり、学社融合という双方が生きる活動ができたのではないか」と述べています。

このような実践が可能となったのは、「学社融合研究発表という機会をいただいたことによるが、この研究を推進していく中で『学社融合推進委員会』という核となる組織を立ち上げることができた」ことに加え、「公民館がコーディネートすることで、地域との交渉がスムーズになり、学社融合をより効果的に行えた」ためであるようです。

今後については、「地域活性のためには学校を中心とした取組が有効であるが、いかに継続していくかが課題」であり、また「広範囲に及ぶ龍神を一つの公民館で統括していかなければならないという問題」もあるが、「学校と公民館がより話し合いをもち、地域を活性化できる取組を考えていく必要がある」としています。

上山路小学校区の実践は、学社融合を推進する上で、公民館の果たす役割がいかにかに大きいか、また公民館がその機能を発揮するといかに充実した学社融合が行なえるかを物語るものであると思います。

21 龍神小学校区

「米作りの取り組みでは、濱口さんのきめ細かな配慮により、子どもたちが半年あまりの米作りに主体的に取り組むことができた。学習発表会での米作りの取り組みのまとめが、体育館の壁面いっぱいであったことからこの取り組みが、児童にとって実り多い

ものであったことがわかる」と記されていましたが、「子どもたちが半年あまりの米作りに主体的に取り組むことができた」理由は、「5年生担任が濱口さんとの打ち合わせを密にしたことで、児童の体験活動が主体的なものとなった」ということです。

また、「ヤーコンの収穫」では、「ヤーコンは南米アンデス高地原産の根菜である。数年前から、龍神地区在住の信貴さんが龍神の風土にあったこのヤーコンを育てている。龍神村の特産物にしたいという思いから、『龍神ヤーコン』と名付けている。3月中旬に植え付けていたヤーコンを全校で収穫した。初めてのヤーコンの収穫に、子どもたちは歓声を上げた。収穫したヤーコンは、自宅に持ち帰ったり、給食でかき揚げにして食べた」とのことですが、この活動の過程で、子どもたちは「龍神村を活性化しようとする信貴さんの存在にも気づくことができた」そうです。

「地域の方が、学校教育に興味・関心を持ち、地域で子どもたちを育てようという気持ちを持った」と報告されていますが、そのような地域の人々の思いは、子どもたちが主体的に米作りに取り組んだことや、地域の活性化に努める同郷の人々に子どもたちが共感を覚えたことが育んだものだと思うのです。龍神小学校区では、今後、「学校教育に協力していこうとするグループを作っていく必要がある」と考えているようですが、おそらく近いうちに学校応援団が自然発生的に組織されるのではないのでしょうか。

22 中辺路小学校区

昨年度の報告と活動内容の部分だけが書き換えられていました。

そこには、4日 [芸術鑑賞]、6日 [ふるさと遠足]、11日 [収穫祭]、14日 [人権教室]、18日 [親子給食会]、18日 [保護者学級]、19日 [学校評議委員会]、28日 [焼き物教室]、28日 [白百合ホーム訪問]、29日 [三味線練習]、29日 [高学年読み聞かせ] とありました。

昨年度に「中辺路地域コミュニティ本部事業発表会」をなされた学区なので、この活動記録はどの月かの記録ではないかと考えました。とするならば、月に約10活動が行なわれていることになり、年にすると100活動を上回るのだろうと推察しました。その様子が分かる報告であったらならば良かったなと思いました。

23 近野小学校区

「近野のお宝伝承～道中を伝える」と題した実践で、近野小学校区では「地域の伝承文化を学習することで、郷土に誇りを持ち、文化を継承しようとする児童を育てる」ことを目標としています。この目標を達成するため、近野小学校では、近野獅子舞団の指導を受けて、5月16日から11月23日までの隔週金曜日に練習しています。身に付けようとしているのは、県指定無形文化財の「野中の獅子舞」の近野小学校版「道中演舞」です。練習成果は「近野まるかじり体験まつり」や「郡市音楽祭」、「近野フェスティバル・文化祭」など、地域の各種イベントでも披露されています。報告に「大変」という文字を全く見ませんでした。学校のご苦勞は十分に推察できます。地域の伝統文化を学校教育にとり込んでいる全国各地の学校同様、近野小学校でも「教育活動」なのか、「伝承活動」なのかで頭を悩ます時があるのではないのでしょうか。

田辺市の実践記録を読むと、「伝承活動」が正式に教育課程に位置付けられるべきではないかと思えてきます。位置付けなければならない時機に来ているように思えるのです。その理由の一つに、近野小学校が目標に掲げる「地域の方と触れ合うことで、地域

の方々のふるさとに対する思いや自分たちに込められた期待を知る」ことがあります。特に「自分たちに込められた期待を知る」ことは、持続できる地域社会を維持する上でとても重要なことではないかと思うのです。

今回の報告書では多くの学(園)区が「地域の活性化」という文言を使っていますが、地域の活性化のためにも子どもたちが「自分たちに込められた期待を知る」ことは必要不可欠なことと考えます。過疎化、少子化、高齢化が進む地域の学校には、「地域の活性化に寄与、貢献する」という新たな期待が寄せられていると思うのです。近野小学校区の実践をもとに、田辺モデルを創出していくと良いのではないのでしょうか。

24 鮎川小学校区

「5月には共育ミニ集会と題し、地域の方々を学校にお呼びして、年間の学校行事について説明する」、「年度末には、再度共育ミニ集会を行ない、本年度のまとめと次年度に向けての交流を行なっている」と記された鮎川小学校区の報告に、田辺市の学社融合、いや田辺市の教育がさらに大きく前進したことを強く感じました。

実は、学社融合に10年程取り組んできた各地で、今、同様の動きが起きているのです。例えば、島根県津和野町では、中学校区ごとに「エリア協議」と名付けられた教育会議が年数回開催されています。会議の参加者は、地区内の小・中学校の全教職員、公民館の館長及び主事の全員、学社融合にかかわる地域住民です。そこでは子どもに関係する全ての教育活動、すなわち学校教育活動、公民館事業、地域活動についての討議が行われます。といってもその会議は意思決定の場ではなく、あくまで情報交換の場、連携・融合を図る場として位置付けられています。そのような位置づけなのですが、教職員からも、公民館職員からも、地域住民からも、その会議の開催を求める声があがり、教育委員会が計画した回数を上回って、つまり自主的に開催されています。大塔公民館が掲げる目標に「地域力を高める」の文言が見られますが、津和野町では「エリア協議」が「地域力を高める」原動力となっています。

島根県益田市にも、おもしろい話がありました。ある公民館が構想したことで実行までには至りませんでした。学校応援団を組織するため「子育て株式会社」を設立することを思い立ったのです。子どもの育ちを応援する地域の方々を「株主」とし、「株主」には学校支援活動に取り組んだり、資金提供をして頂いたりします。関係する者が一堂に会する「株主総会」が年一回開催されます。そこでは学校や地域、家庭で行われている子育て、子育てに関する全ての活動について議論されます。その構想の基本も、子どもに関係する地域の機関・組織・住民が一堂に会することにありました。

鮎川小学校区には、今後、是非とも「共育ミニ集会」の意義と役割を追究し、「共育ミニ集会」を核に据えた学社融合を展開することを期待しています。その折、「ミニ」で良いかどうか検討頂けたらと思います。

25 三川小学校区

報告書に「来年度学校統合により、児童の日常生活圏と学校生活圏が広がるため、より有効的な地域とのつながりを模索していく」と書かれていました。その三川小学校区が取り組んだ課題が「ふるさと学習」であり、具体的には「三川ふるさとマップ」の作成、配布でした。その実践記録を読む頭の中を、「学校統合」と「ふるさと」という二つの言葉がぐるぐると回っていました。

「竹ノ平でのたけのこ掘り」、「保平での匠の森間伐体験」、「木守の畑でのさつまいも掘り」、「面川に伝わる大蛇伝説」、「三川鮎研究会と行った鮎放流」、「合川ダムと殿山発電所の見学」などの数々のふるさと探訪、そしてそれぞれにかかわる地域の人々との交流。これらの活動は、来年度以降どうなってしまうのだろうか。「竹ノ平」、「保平」、「木守」、「面川」は、来年度以降、子どもたちが「ふるさと」として認識し続けるのだろうか。統廃合によって拡大する校区のどこが子どもたちにとっての「ふるさと」になるのだろうか。子どもたちにとっての本当の「ふるさと」はどこなのだろうか。

「ふるさと」学習を取り上げる学校、地域にとっては、明らかにしなければならない課題だと思うのです。

26 富里小学校区

富里小学校区の実践記録で注目した点は二つありました。

一つ目は、「地域の方々に授業に参画してもらうことで、授業内容が豊かになった」という記述です。「授業に参画」の具体例として、「ふるさと料理教室では、次の学習内容について意見をいただくこともあり、参考になった」ことが書かれています。確かに、「参加」ではなく、「参画」になっています。学社融合は「参加」では成立しません。地域からの積極的な「参画」があり、諸手を挙げて「参画」を歓迎する学校があってこそ成立するものです。富里小学校区では本物の学社融合が推進されており、とても素晴らしいと思います。

二つ目は、「地域の高齢者が学校に来てもらうことが難しくなっている中、積極的に地域に出向いて行き、一緒に活動できることを考え、地域の方々との交流の機会をさらに増やしていく」という記述でした。ここには「学校の都合」だけではない、「地域の都合」にも配慮した学校の姿勢を感じました。そのような姿勢をお持ちになったのは、おそらく実践を重ねる中で、先生方も「地域学習で子どもたちが地域に出向くことで、特に小学生の住んでいない地区においても、子どもたちの元気な様子に触れ、交流することで、子どもたちから元気をもらい、生きがいを感じている」ことを体感されたからだと思います。「地域の人材の活用」といったレベルを超えた学社融合が富里小学校区では行われているととても感心しました。

27 本宮小学校区

「子どもたちが学習パートナーに関わることによって、学びを深め、本宮やそこに住む人の好きに気づき、自己を高めるという人づくりにつながっている」と報告している本宮小学校区では、『ふるさと学びのプログラム』をたて、6年間かけての人間形成を図っている」とのことです。そのプログラムとは、「町と向き合い町を知ろう」と「郷土に誇りを持つ子」の二つです。いずれも地域の教育資源とそれに関わる地域人材を系統的に配列した学習（活動）プログラムです。簡単に言えば、学社融合活動の一覧表です。おもしろいことは、本宮小学校区ではそれを6年間かけての人間形成プログラムだとしていることです。しかも、その基盤は「子どもたちが学習パートナーに関わること」にあるとしているのです。だからこそ、現状でもかなりの交流機会を設けているにもかかわらず、次年度には「特に子どもと地域の大人に関わる機会を増やしていく」と述べているのだと思います。本宮小学校の飽くなき追究には本当に頭が下がります。

28 三里小学校区

本宮公民館三里分館が昨年度に掲げた目標は「保育園・小学校・公民館が協力するこ

とで、交流を深め、地域の一員としての自覚を促す」、「地域のふれあいの場として、競技を楽しみ互いのつながりを深める」の二つでした。そして、今年度は「公民館の事業と学校の授業が一体となった学社融合の取り組みを行う」、「地域人材の知識や技能を生かしたボランティア活動を推進し、地域住民が児童との交流を通して教育活動への意欲を高める」という新たな目標を設定しています。設定する目標の変化は主に報告する活動の違いに起因していますが、それだけではないような気がします。公民館が学社融合に積極的になったこともその要因になっているのではないのでしょうか。今年の報告には「本宮行政局の一階ロビーで、学社融合の取り組みが分かる掲示物を展示した」、「本宮行政局教育事務所の各担当者のバックアップによっていろいろな活動がスムーズに行えた」、「本宮町内の学社融合に係る行事の打ち合わせ会で、行政だけでなく公民館との連携も密にしていく」などと、明らかに公民館が関わり、公民館がその持てる機能を発揮したのではないかと思える記述が多々見られます。

今後の課題に「地域の教育力を高めるための学校・家庭・公民館・行政がどのように連携するか共通理解していく」ことがあげられていますが、これも公民館が積極的に関与することでスムーズに解決していくのではないのでしょうか。

本宮公民館三里分館の今後の活躍に大いに期待したいと思います。

29 東陽中学校区

一見したところ本年度の報告の大部分が昨年同様の文言で綴られており、昨年度の報告書で「次年度は、本年度の成果と課題を生かし、公民館を併設した近畿唯一の中学校としての特色ある新しい取組みを、公民館と連携しながら築き上げていきたい」と記した前進が果たされなかったのかと思いました。ところが、詳細に読み取ると、まず、学校の設定目標は前年同様でしたが、公民館の設定目標が変化していました。新たに設定された公民館の目標は「地域の方が主体的に参画できるようサポートする」でした。「何かが変化しているな」と思いました。

やはり思った通りでした。活動の報告の部分に「学校支援ボランティア」という新たな項目が設けられていました。その内容には「家庭科の授業での郷土料理実習でのボランティア」と「図書ボランティア」という二種類の活動が報告されていました。その一つである「家庭科の授業での郷土料理実習」は、昨年度は「公民館との連携」に分類されていました。しかし、今年度は新設された項目の「学校支援ボランティア」に位置付けし直されています。この位置づけのし直しは、公民館の設定した目標の「地域の方が主体的に参画」が具現化したためだろうと思われました。もう一つの「図書ボランティア」は新登場の活動でした。「公民館の人材バンク登録より学校支援ボランティアとして学校図書の管理ボランティアを導入した」とのことですが、「新刊の整理など図書室担当職員の仕事が軽減された」という成果があったそうです。

評価欄に「学校支援ボランティアの取り組みは、今後、学社融合をさらに推進していくきっかけとなった」とありますが、添付された写真の一部には清掃活動する学校支援ボランティアの姿が写っていました。その学校支援ボランティアについては公民館の成果の欄に、「人材バンクを創設し、広く協力者を募ったことにより、今まで学校に踏み入ることのなかった地域の方も、気軽に参画できる機会が増え、そのような方からも、取組みに対する意見をいただくことができた」と記されていました。「公民館を併設し

た近畿唯一の中学校としての特色ある新しい取組みを、公民館と連携しながら築き上げていきたい」とした昨年度の評価反省は、今年度の活動に見事に反映されていたのでした。東陽中学校区の学社融合も飛躍的に発展拡大していたとホッとしました。

来年度は「保護者（育友会）と地域の人々を結ぶ活動に積極的に取り組み、より地域力や保護者力を学校として活用できるようにしていきたい」とのことです。「保護者力」という言葉は、田辺市の実践では初めて耳にする言葉です。東陽中学校区の来年度の実践に大いに期待したいと思います。なお、新たな活動が生まれた場合、その活動を全面的に取り上げ、新たな活動に焦点を絞った報告をなされると、東陽中学校区の学社融合の発展拡大が一目瞭然にとらえられて良いのではないかと思います。

30 明洋中学校区

明洋中学校区では、学校の目標も、公民館の目標も大きく改められていました。

まず学校ですが、昨年度「地域での発表を表現活動の場・地域への貢献の場として定着させていく」という目標が、今年度は「地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる」に改められていました。この目標改定は「場を設ける」ことから「場を活かす」ことへと進展したことを意味するように思います。

次に公民館では、昨年度は学校や子どもへの支援を充実させることを目標としていましたが、今年度は「生徒たちと交流を深めることで、生徒たちから元気をもらい、地域の活性化につなげる」という目標に書き改められていました。この改定からは、公民館が主体をもって学社融合に取り組む姿勢を持ったことが読み取れました。

活動の報告には昨年度とほとんど同じ内容が書かれていましたので、活動が継続され、さらに充実してきていることが分かりました。その活動の報告に、今年度も昨年同様「取り組みの中で、喜怒哀楽を地域の方と共有できる機会を持てた」という文言が使われていました。とても興味深い表記です。公民館が新たな目標として記した「地域の活性化につなげる」にも深くかかわる表記だと考えます。次年度は、この「喜怒哀楽の共有化」に焦点を絞った報告をしていくと良いと思います。

31 高雄中学校区

中学校区における学社融合をどのように発展拡大するかは、私にとっても、長年に亘り自問自答を繰り返してきた大きな課題の一つです。特に田辺市の中学校区のように、中学生を積極的に地域に関わらせている地域には、一日でも早く中学校区における学社融合の方向性を例示しなければと思います。

今年度の高雄中学校区の報告を読ませて頂き、その方向性を明らかにする大きな手がかりを与えて頂いたと思いました。その手がかりを与えてくれたのは、地域（公民館）の課題の欄に書かれた「地域とのつながりを深め、地域社会に参画しやすい居場所を作ること。子どもたちを受け入れる態勢を整えるためにも、学校・地域との連携を深めていきたい」という一文でした。「地域社会に参画しやすい居場所を作る」、「子どもたちを受け入れる態勢を整える」、これだと思いました。中学生を「中学校の生徒としての実践者」としておくのではなく、中学生を「地域の住民としての実践者」にすることが中学校区における学社融合が目指すべき一つの方向だと思いました。

しかし、その方向は見えましたが、どのようにすればその方向に進むことができるかは、今はまだ分かりません。田辺市教育委員会には、今後、「地域社会に参画しやすい

居場所を作る」、「子どもたちを受け入れる態勢を整える」ことをテーマとした学社融合の研究実践校を設けられ、その方向を模索することを期待します。この研究実践は、田辺市の学社融合、田辺市の教育を飛躍的に進展させる新たなステージを切り拓くものになると考えます。また多くの学区で掲げる「地域の活性化」をも成し遂げるものになると思います。

芳養小学校の研究実践により切り拓かれた第2ステージは多くの学区の参加によって十分に耕され、十分な実りをもたらしました。田辺市は、今、新たな第3ステージを切り拓く時に来ていると思います。新たな開拓者を求める時に来ていると思うのです。

32 新庄中学校区

「本年度『ぼうさい甲子園』でグランプリを受賞」と記されていました。おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。もっとも、その受賞は新庄中学校区の実践を知る者には驚くほどのことではなく、当然、いや必然と言うべきものだと思います。

新庄地震学の着実な進展は、毎年度の報告から十分に感じ取ってきました。今年度の報告でも新庄地震学のメニューが書き換えられていました。更に進化していました。一体いくつのメニューをお持ちなのでしょうか。それぞれのメニューに地域の方々や組織・機関、公民館等がどのように参画しているのでしょうか。とても興味深いことです。

新庄地震学以外の学社融合の活動にも充実、発展が見られました。「英語…クリスマススピーチ」や「道徳…各学年性学習」という新たな記述がありました。英語や道徳における学社融合の実践は稀に見るものです。新庄地震学で培われた地域との信頼ある関係性が、先生方に、未知の分野での実践へと足を踏み入れる勇気を与えているのではないのでしょうか。

課題の欄に記載されたことで、一つだけ気になったことがあります。それは「継続的に取り組み、生徒が成長して地域住民になった時に、意識が高まっているようにしたい」という記述でした。新庄地震学が追究してきたことは、「生徒の今」であったと私はとらえています。そのため、この一文が気になった次第です。新庄地震学の解釈に私の誤解があったなら、記載された一文は何ら不思議ではないこととなります。

33 上芳養中学校区

上芳養中学校区の報告は、昨年度の「農事体験」から、「ころころ山読み聞かせ」の報告に書き改められていました。上芳養中学校区のように活動の一つ一つを取り上げ、深く掘り下げていくことも活動を見直す上でとても大切なことであると思いました。

さて、今年度報告された「ころころ山読み聞かせ」は、「地域の読み聞かせサークルであるころころ山の方々に、ゲストティーチャーとして毎月集会に来て頂き」「読み聞かせやブックトーク」を行う実践です。中学生への読み聞かせに違和感を抱く方もいらっしゃるかも知れませんが、全国的にも数多く行われています。上芳養中学校区からの報告にも「地域の方に本の読み聞かせをしてもらうことにより、本に触れる機会ができた。読書や新聞に対する関心が高まった」とありますが、全国各地の実践でも中学生の主体的な読書活動を喚起することに効果をあげています。絵本の読み聞かせを行なっているところも多々あります。「この活動を継続的に取り組んでいくことにより、生徒の本に親しむ態度を育てていきたい」という上芳養中学校区の思いは、来年度には実現されると思われまます。

上芳養中学校区からはもう一つ大きな成果が報告されています。「年度当初にころころ山サークルさんと国語科担当教員で打ち合わせを行い、取り組みを継続していくことと日程を調整した。そして月1回の本の読み聞かせ・ブックトークを行なうこと、ころころ山文庫（ブックトークで紹介された本の貸し出し）の設置、夏休み中の学校図書館の分類・整理を行うことが決定した」ということです。ころころ山サークルのかかわりが、読み聞かせ・ブックトークに留まらず、ころころ山文庫の設置や夏休み中の学校図書館の分類・整理にまで広がっているのです。それを引き出したのは、言うまでもなく「年度当初にころころ山サークルさんと国語科担当教員で打ち合わせ」であったと思います。年度当初の打ち合わせによって、ころころ山サークルの皆さんの主体性が引き出され、子どもたちの読書活動に関する方向性の共有化が図られ、活動の協働化が図られたことは疑う余地のないことです。教職員が地域の皆さんに身を寄せることは、学社融合を円滑化するためにとっても重要なことだと、改めて教えてくれた報告でした。

34 中芳養中学校区

中芳養中学校の目標は、昨年度の「地域の現状や課題に目を向け、地域の将来について考える機会とする」から、「地域で暮らす人たちの生き方を通して、自分の生き方を考え、進路決定に生かす」に書き改められていました。また中芳養公民館の目標には「事業を通じて交流を深め、『お互いに顔見知り』の関係を作る」が新たに加えられていました。目標が具体的になったと思いました。このような目標の改定が影響したのか、今年度の報告には「共に」という文字が多く使われていました。例えば「本年度は、教えてもらうだけでなく、生徒と共同しての取り組みを通して、地域の老人会との連携が深まった」と記されています。中芳養中学校区でも、中学生に相応しい学社融合の活動を創り出しつつあると思いました。

また、目標の改定は活動内容にも影響を与えたようです。「ニュースポーツ『囲碁ボール』で交流を深めた後、戦争や災害の苦難を乗り越えてきた体験談、仕事や生活の中で身に付けてきた人生訓、伝えていきたい文化や伝統等について話して頂き、生徒達の質問にも答えて頂きました」とあります。親しさを感じた人たちから何う話は、生徒の心に響き、自らの将来を考える手がかりを生徒の心に残したのではないのでしょうか。

35 上秋津中学校区

『その時』に生き残り、活動できる生徒の育成を目指します」

上秋津中学校が記したこの目標を読み、4年前の3月11日の地鳴りと揺れを思い起こし、思わず身構えてしまいました。上秋津中学校がこの目標を設定したのは、そうしなければならぬほど身の危険が身近に迫っているのだと再認識させられました。

田辺市で行なわれる防災学習は、学社融合の真価が発揮されていると思います。上秋津中学校区の防災学習は「町内会長の『災害は、くるのはわかったあるんやさかいに、何とかしておきたい』との発言に、力をいただくかたちで始めた」そうです。そして今回の実践でも「全教職員が『防災マップづくりの手法』を共有。また、公民館並びに町内会の班長も、『防災マップづくりの手法』を共有」、「校区の知識を全員で共有できた」とありました。また、防災学習の実践も9月7日（日）に公開授業・日曜参観として保護者や地域住民が学習内容に触れられるように工夫されています。さらには、「災害に強いまちづくりと、人材育成に貢献したい」とも述べています。上秋津中学校区で実践

されている防災学習は、単なる中学校の学習ではなく、地域ぐるみの学習になっていると実感しました。

その上秋津中学校区で行なわれた防災学習の学習過程や学習方法にも強く心を惹かれましたが、中でも、災害時には「安全な地域への教職員と生徒の派遣」という言葉には驚嘆しました。災害時の教職員と生徒の派遣まで考えている中学校は、全国でも稀な存在なのではないでしょうか。

36 秋津川中学校区

平成22年度から毎年度「秋津川ふるさとまつり」の実践報告を読ませて頂いています。報告の文言も毎年度ほとんど同じです。新たな実態が分からず、とても残念です。

秋津川中学校区における学社融合の進展を適切に自己評価するためにも、来年度は「秋津川ふるさとまつり」以外の実践をレポートされることをお勧めします。

37 衣笠中学校区

衣笠中学校区からの報告は、今年度、公民館が担当して記述する部分は全て書き換えられており、衣笠中学校区の実践が今年度飛躍的に発展した様子が記されていました。

まずは、「梅を使ったご当地スイーツ『きぬがさポンチ』の取り組み」です。その取り組みは、「梅農業体験（1年生）」、「美術科：粘土でポンチづくり（三栖幼稚園、小学校との協働授業～平成24年度から実施）」、「幼・小・中、地域住民による人気投票『地域みんなで決めるご当地ポンチ』～公民館で」、「トップ当選の作品決定」、「館報で協力店を公募」、「地元洋菓子店の協力によりスイーツ製品化」、「6月から販売～地元産梅・フルーツを使って地域振興」という概要です。

次は、「南紀応援キャラクター梅ずきんちゃんの取り組み」です。その概要は「生徒の企画・発案を基に梅ずきんちゃんのキャラクター」、「修学旅行（東京）にて広報～5月3年生」、「地元企業とコラボ展開～缶バッジ、ステッカー…11月全国ネット販売開始、梅ずきんちゃんクッキー…12月販売開始」と記されています。

これらの実践は、衣笠中学校の生徒がつくる「衣川中学校地域盛り上げ隊」が中心となったようで、衣笠中学校が目標に掲げる「地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する」ことが具現化されていると心から感銘しました。このような中学生が育った要因として、衣笠中学校の先生方のご指導は言うまでもありませんが、多くの地域の人々とのかかわりが図られたことや、そのかかわりを通して地域の人々が中学生に寄せる期待を中学生が体感できたことなど、数々のことが挙げられると思います。が、その最大の要因を長年にわたり衣笠中学校区の実践報告を読んできた経験を推察すると、三栖幼稚園の園児の持つ教育力であったように思えてなりません。

38 龍神中学校区

活動経過には新たな取り組みの記載がありますが、成果と課題の記述内容が昨年度と同じであるため、新たに得た成果などを読み取ることができませんでした。残念です。

39 中辺路中学校区

活動内容も、成果や課題の文章記述も、昨年度と同じでした。残念ながら、新たな成果等を読み取ることができませんでした。

40 近野中学校区

昨年度の報告とほぼ同様の記載でしたが、昨年度とても興味を覚えた「結節点」とい

う言葉が今年度の報告には見られず、使われなくなった理由は何だろうかと思いました。

報告には、「他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい」、「区民体育祭、地域文化祭（フェスティバル）、まるかじり体験イベントなど、地域の方々と一体となって取り組んでいる」、「来年度もできる範囲で、これらの取り組みを継続する方向で計画したい」という文言が新たに書き加えられていましたが、それらの記述からは学校の多忙さが強く感じられました。そのような中でも「12月24日（水）近野クリーン作戦と称して、日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちで清掃活動を行った」という学校の姿勢に頭が下がりました。

41 大塔中学校区

「今年度より三年間、校区内三小学校と大塔公民館と共に地域共育コミュニティ推進指定を受け、研究実践を進めています」とのことですが、しっかりした研究構想、研究内容であり、大きな成果を得られることだろうと期待しています。

1年次の今年度は「見つめなおす」ということで、例えば、「学力向上に向けた取組として、全児童生徒と保護者を対象に、基本的な生活習慣や家庭学習や読書についての調査を実施した」とのことです。その結果、「調査結果の分析をもとに、家庭や地域と連携した具体的な学力向上策を展開する必要がある」と今後の方向性が明らかにされ、「保護者や地域を巻き込んだ学力向上策をどう具体的に展開するか」が課題であると記されています。その具体策を考える上では、保護者組織自らによる学力向上方策の研究実践（高知県）や、基礎学力向上策としての赤ペン先生（福岡県）、教科書朗読やかけ算九九、都道府県名の暗記などの聞き手活動（島根県や滋賀県）などが参考になると思います。

今年度は、ふるさと学習に関する現状についても「見つめなおす」ことが行なわれたようです。「核家族化が進み昔のように家庭でふるさとの文化や歴史、言い伝えなどを学ぶ機会がほとんどなくなった中、授業で地域のいろいろな世代から学び、交流することができ、子どもたちにとって、大変貴重な経験となった」、「地域の方々、特に高齢者は自分たちが受け継いできた、地域の文化や歴史、そして自身が経験してきたことを、子どもたちに教え、語り継ぐことができ大変喜んでいる。また、その準備からはじまって、子どもたちと会えるのを楽しみに生きがいの一つとして頑張っている。また、地域にとっては、学校の先生方とお話できることも大変喜んでいる」と実態が分析されています。そして「地域の人たちの暖かい人柄にふれることで心身ともに成長し、近い将来の地域の担い手への成長が期待される」、「学校や地域の子どもと関わることができる者を今以上に多く、いろいろな世代で確保し、学校の要望に応じていきたい。ひいては、地域力の向上にもつながってくる」と、地域（公民館）としての今後の取り組みが明らかにされています。非常に素晴らしい「見つめなおし」が行なわれていると感心してしまいました。現在の地域の課題は何かと言えば、ご指摘の通り「立ち話、茶話、井戸端会議」であり、「温もりの体感、共感」であると思います。地域（公民館）側の研究項目として追加されると良いのではないのでしょうか。

今後の取り組みの方向性ですが、学校の姿と地域・家庭の姿の両者（三者）がバランス良く見える実践をなさることが大切かと思います。例えば、学校が起こすアクションを研究実践する際にも、地域・家庭はそのアクションにどう反応すべきかを同時並行的

に追究するという事です。その逆もあるかと思ひます。他者をも常に主体ととらえる研究実践が望まれます。

2年目は「創る」段階だそうです。何が創られるか、今からワクワクします。

42 本宮中学校区

本宮中が校区からは、またまた新たな実践が報告されていりました。

「語り部や地域の方と一緒に作業を進める中で、子ども達は多くの大人と関わりを持つことができた。また、地域の一員として地域へ貢献することの達成感を得ることができ、世界遺産を保持していくことへの関心を高めることができた」。

「観光地である本宮地域を訪れる方々へのおもてなしの心を育むことができた」。

このような素晴らしい成果を挙げた今年度の実践「熊野古道道普請」は、「統合前の三里中学校が長年取り組んできた活動を引き継いだもの」だそうです。旧三里中学校の長年の取り組みが本宮中学校に統合されても継続されていることは、旧三里中学校区の地域住民にとって大きな励みとなっているのではないのでしょうか。このような本宮中学校の姿勢が「地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会からの行事等への呼びかけをした場合、多くの方が参加、協力して下さっている」という実態を維持させて来たのだと思ひます。

ところで、「道普請」はとても懐かしい言葉です。私が子供の頃には、当たり前のこととして毎年必ず行われていました。その日は集落の全戸から人が出て作業に取り組みました。子どもの私も参加していました。自らが使う生活道を自らの手で修復することは当然のことだったのです。私にとっては「道普請」は「住民自治」のシンボルのようなものです。

この「住民自治」という観点から、「熊野古道道普請」活動を見つめ直すと、今後のあり方についていくつか思ひつくことがあります。一つ目は「地域の一員として地域に貢献する」ということに関してですが、それは「本宮中学校の生徒として」なのか、「地域住民の一員として」なのかということになります。「道普請」は前者の立場であれば学校行事となるでしょうし、後者の立場であれば地域行事になります。二つ目は、これまでの「熊野古道道普請」は「①諸注意、説明を聞く②土を運ぶ③土を入れる④入れた土を踏み固める⑤さらに土を堅くしめる」という作業手順で行われてきたようですが、道普請前のアクションは何もなくてよいのでしょうか。「地域の一員として地域に貢献する」意欲を高めるには、道普請への動機付けが重要なのではないかと思ひます。「子ども達が要領を得ており行動が速く、活動全体が上手く進む」というほど長年にわたり継続されてきた活動だけに、「道普請の動機」を確認するアクションは重要なのではないかと思ひます。今後は、その動機づけこそが学校教育の真価の発揮であり、実践は地域力の真価の発揮と考へても良いような気がします。

43 新庄幼稚園区

「30年間続いてきている地域の夏の行事、新庄町内盆踊り大会への参加」を報告下さった新庄幼稚園区は、報告書に次のように記しています。

「園児の家庭は、新庄地域に長く住んでいる人が少なくなり、幼稚園の近所でも高齢化が進んで地域の人との交流が少なくなってきた。また核家族化も進んでいる。こういった現状から、園では園児や保護者と地域の方とのつながりを大切にしている。

その取組の1つとして『新庄町内盆踊り大会』がある。『田辺踊り』や『炭坑節』などは園児にとって少し難しい動きがある。しかし一生懸命練習して踊れるようになった喜びを感じ、地域の方から褒めて頂き、自信や意欲につながった。また『新庄盆踊り大会』の曲目に園児が知っている「みんなで音頭」と「ポケモン音頭」が含まれているが、8月の公民館での練習では、地域の方が園の職員に熱心にどうやって踊るのかを訪ねてくれて、何度も踊る練習をしていた。

『田辺踊り』では田辺の地名が歌われており、その歌詞を説明することで、園児も『扇が浜って知ってる』と言って親しみをもったり、田辺の地名を新たに覚えたりすることができた。自分が住んでいる田辺という地域に親しみをもつことができたのではないかと思われる。

新庄幼稚園の実践報告を読んでいて毎年、園（教育）活動のきめ細やかさ、一つ一つの活動に込めた想いの深さ、家庭や地域への温かいまなざし、そして地域が示す行動に感動する心の鋭敏さと深さなど数々の感銘を受けてきましたが、今年も同じでした。感動しました。園児も保護者も本当に幸せだなと思います。

ここで、「夏休み中のお盆前後に開催される行事なので、園児全員参加が難しいとしても、少しでも幼稚園（園児、保護者、職員）が、地域の行事や人々に親しみを持ち、地域の一員としてつながりを保っていけるように、一つひとつの交流を大切にしていきたい」とまで考えて下さっている新庄幼稚園の先生方に一つのアイデアを提案します。それは“園爺”“園婆”制度の導入です。それは……、いや、これ以上は止めておきましょう。聡明なる新庄幼稚園の先生方ですから、“園爺”“園婆”の言葉に接した瞬間に具体的イメージを頭に描かれたことでしょう。“園爺”“園婆”は、盆踊りに関する課題だけでなく、様々な課題を解決してくれる手立てになるかもしれません。

44 三栖幼稚園区

三栖幼稚園区からの報告には、毎年、毎年心踊らされています。

今年度の報告は、衣笠中学校区から報告された「きぬがさポンチづくり」について、衣笠中学校の協働者である三栖幼稚園から見た報告です。衣笠中学校区の報告を読んだ時に覚えた感動がなお一層深くなりました。

三栖幼稚園は、「小学校・公民館・地元洋菓子店・企業を巻き込んだ「きぬがさポンチづくり」は、「三栖地域の学社融合の大きな賜物である」と記していますが、その活動は「協働保育」であるとしています。そのため「中学校の先生と何度も検討を重ね、指導案を作成したり、教材研究をしたりしてきた」と記しています。

大きな成果が挙げると、どうしても成果物となった表層部分に目が行ってしましますが、やはり核の部分がしっかりしていなければ大きな成果を挙げることはできません。「きぬがさポンチづくり」の成果を生み出したのは、「協働保育」だったのです。「協働保育」を実施する努力と工夫だったのです。

そして、さらにその核心は「立地条件だけでは成し得ない、日常のちょっとした一コマを交流のチャンスとして見つける努力をしてきたこと」でした。そのチャンスを生かし、「日常的な交流」へと発展させ、「授業のコラボレーションまで出来る関係」を築き上げたことでした。「きぬがさポンチ」は確かにビッグな成果物ですが、それを生み出す関係性はさらにビッグな成果物なのです。

「ただ、一緒に何かをするという交流ではなく、今ある子どもたちの姿から、“こんな育ちにつなげたい”というねらいを明確に持ち、中学校の先生と何度も保育内容を練り上げてきたことで、お互いが育ちあえる協働保育になった」という三栖幼稚園の言葉は、田辺市の学社融合の原点を示す言葉であると思います。

45 上秋津幼稚園区

上秋津幼稚園区では、今年度、既存の一つの関わりから、新たな関わりが見い出されていきました。その実践報告には、何度となく涙腺が緩んでしまいました。

「上秋津地区あんしんネットワーク」という活動名に、園児を見守る活動をイメージしてしまいましたが、園児ではなく高齢者を見守る活動でした。そのきっかけは、「絵本タイム支援日、読み聞かせ支援者であり、地域民生委員でもある原進一氏から、上秋津地区安心ネットワークの構想の提案を受けた」ことでした。このことについて上秋津幼稚園は「いつもお世話になるばかりでなく、幼児にも出来ること、また幼児だからこそ出来ることを提案いただいたことは、幼稚園だけでは思いつかない役に立てる喜びを与えてもらったと感謝して、互恵性がより深まった」ととらえました。「幼児だからこそ出来ること」ととらえる鋭い洞察力、「役に立てる喜びを与えてもらった」と感謝する寛大さ、受容力、「互恵性がより深まった」とする高度な理性的判断力、そして何よりも地域を大切にす豊かな感性、上秋津幼稚園が持つ優れた能力は、この一文からだけでも十分に読み取れました。

さて、その実践は、プレゼントのウサギとクマの小物入れを製作し、高齢者に贈呈するというものでした。実践結果は大好評で、次年度も継続されるそうです。その実践について上秋津幼稚園はこう記しています。「幼児にとって、人との関わりの積み上げがないと、ただの作品づくりの作業になってしまいかねない」、「学社融合を活用することによって、様々な世代の人々との関わりが相手を思いやる心、高齢者を大切にしたいという心などを育てている」。田辺市の学社融合を振り返る視点を与えてもらったと思いました。

46 中芳養幼稚園区

「一つ一つの事業を立ち上げるまでには相当な尽力が必要で試行錯誤しながらではあるが、学校と地域・各種団体の連携や協力体制は深まりつつある」という中芳養幼稚園区に、本年度は思わぬアクシデントが待ち受けていました。

報告は昨年度同様の「中芳養まつり」でしたが、まつりを予定していた8月2日(土)は朝からの大雨であったために、「午前10時30分、翌日への延期決定」。翌3日(日)、「午前9時～会場となる中芳養小学校の校庭の雨水処理。地域連携担当者が校庭の水を吸ったり流したり悪戦苦闘していると、地域の方も一人二人と手伝いに来て下さる。雨は降ったり止んだり。午前11時、実行委員会の各団体の長が集まり、雨の中でも行える方法(テント、体育館や公民館の使用等)を模索するが、駐車場の確保ができないことで断念。やむなく12回目にして初の中止を決定する」と書かれていました。今年度は「小学生による地域に伝わる『郷歌』の披露」や「園児手作りの灯ろうでの装飾」、「高校生ボランティアの初導入」、「飲食物のチケット販売」など新企画もあったそうで、「今までにない盛り上がりが見られた」そうなので本当に残念だったと思います。「家は雨やけど、もしかしたら学校は大丈夫かもしれん」とわざわざ小学校まで確認に来た園児

や、「ぼくらの夏は終わってしまった……」とポツリともらした小学6年生がいたとの話には、目頭が熱くなりました。

しかし、結果は「雨降って地固まる」だったそうです。ボランティアを楽しみにしていた高校生は「来年も立候補して手伝うから」と言葉を残してくれたそうです。また、使えなかったヨーヨーは、8月4日から6日まで、幼稚園で《ヨーヨー釣り屋さん》を開いて活用、花火は各地区に配布し地区イベントで活用、園児の灯ろうは地域合同作品展でお披露目、小学生の「郷歌」はコミュニティ運動会でお披露目と新たなアイディアも生まれました。この経緯について報告書には「臨機応変な対応を協議し合える体制が整ってきていることに大きな意義を感じる」、「中止決定までの実行委員会内での暗中模索は大変だったが、何とかして実施できないか…どうすれば実施できるかと、そこにいる全員が知恵を出し合った。その時間は、地域の代表の方々と一体感を感じられる大切な時間となった」、「この時間を共有できたおかげで、地域のいろいろな方々とのつながりがより深くなり、何かある度に顔を出してくださり、『幼稚園はどうかな』と声をかけていただけることが増えている」と記されています。

この報告を読みながら、中芳養幼稚園は地域の方々の心を常に感動を持って受け止めていると思いました。だからこそ、今年度、あえて「中止」をテーマに報告され、中芳養地区の一体化、温もりを伝えたかったのだと思います。その中芳養地区の温もりは、中芳養幼稚園によっても醸し出されて来たものだと思うのです。

III おわりに

先日、島根県津和野町の学社融合、津和野町では“学びの協働”とネーミングしていますが、その成果発表会に参加させてもらいました。津和野町での学社融合も10年を越え、どの学校区においても日常的に実践が行なわれています。今年度も8エリアから実践報告が行われましたが、どのエリアからも新たな取組みが報告されました。それらの実践は目を見張るほどに充実し、今までにない成果も手にしていました。その成果の一つが学力の向上でした。そして、もう一つが公民館活動の活性化でした。学社融合の推進に取り組み出した当初から想定していた成果ですが、10年を越え、ようやくにしてそれらの成果が口にされるようになり、目に見えるようになりました。

さて、田辺市の2014年度ですが、大きくは二つのことが印象に残りました。一つは「地域の活性化」という用語が目についたことです。12学(園)区が使用していました。報告は46ありましたから、実に約3割の学(園)区が地域の活性化のために学社融合を進め、あるいは目指して学社融合に取り組んだこととなります。二つ目は目標を全面的に書き換えるなど公民館に積極的姿勢への転換が見られました。そして、公民館が積極的姿勢へと転換を図った学(園)区には、地域主導型の推進や、地元企業とのコラボを図るなど、今までになかった多大な成果を生み出しています。その一方で、5学(園)区が昨年度の文言をほとんどそのまま利用して報告していました。とても残念で仕方ありません。その数が昨年度より増えたことも気になります。

田辺市は今や前人未踏の第3ステージの幕を開けつつあります。学校の中で生み出され、育まれてきた学校と地域(公民館)の協働パワーが、学(園)区に活かされ出しているのです。そのような今だからこそ、原点回帰の研修が必要であると考えておられる方々も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。私もそう思う一人です。(3015.03.15)